研究集録第１５集
昭和５３年度

楽しく充実した学校生活をめざす特別活動

―新教育課程をふまえて―

昭和５４年３月２日

東京都小学校特別活動研究会

目　次

ページ

座談　新春　特活の全体計画を大いに語る …… 5

1.「学級会活動」　ひとりひとりの発想を生かし
楽しく充実した学級会活動の指導のあり方 …… 11

2.「児童会活動」　楽しく充実した委員会活動をめざして－委員会活動で何を育てるか－ …… 35

3.「クラブ活動」　楽しく充実したクラブ活動をめざす指導のあり方 …… 59

4.「学級指導」　好ましい人間関係を育てる　適応に関する指導のあり方 …… 85

参考資料　新学習指導要領の要点・移行措置等 …… 107

―今までの研究集録一覧―

第1集（昭和39年度）　特別教育活動における指導計画作成上の諸問題

第2集（昭和40年度）　特別教育活動の本質をふまえた指導計画のあり方

第3集（昭和41年度）　特別教育活動の本質をふまえた望ましい指導計画と実施計画

第4集（昭和42年度）　望ましい指導計画による実践事例とその考察

第5集（昭和43年度）　望ましい指導計画による実践事例とその考察

第6集（昭和44年度）　改訂指導要領実施のための具体的方策と問題点

第7集（昭和45年度）　改訂指導要領実施のための具体的方策と問題点

第8集（昭和46年度）　新教育課程実践上の諸問題

第9集（昭和47年度）　教育課程実践上の諸問題
－各内容相互関連と他の領域等の関連－

第10集（昭和48年度）　特別活動と他領域との関連

第11集（昭和49年度）　ひとりひとりを生かす特別活動の特質と指導のあり方

第12集（昭和50年度）　ひとりひとりを生かす特別活動の特質と指導のあり方

第13集（昭和51年度）　ひとりひとりを生かす特別活動の指導のあり方

第14集（昭和52年度）　楽しく充実した学校生活をめざす特別活動
－新教育課程をふまえて－

第15集（昭和53年度）　楽しく充実した学校生活をめざす特別活動
－新教育課程をふまえて－

発刊によせて

会長　白　井　健　二

新教育課程移行措置第一年めにあたり，各学校では，創意工夫をいかしたさまざまなとり組みがなされているとき，研究集録第１５集が発刊されることとなりました。

会報２４号でもお知らせのとおり，本年度は，特別活動に関する研究校が激増しておりますことは誠に喜びに堪えません。会報に紹介されている以外にも，自主的に発表会がもたれておりますことは，新教育課程をめざしております。「自ら考え，正しく判断できる力」をもつ児童生徒の育成に，特別活動のもつ役割がいかに重要であるかの認識のあらわれであると確信して止みません。

都特活も昨年度から表記のとおり，新教育課程を指向した研究テーマにかえ，充実した特活の本質を追究してまいりました。

去る１月２９日発行の日本教育新聞掲載の文部省企画官熱海先生は，次のように述べられています。①人間性豊かな児童の育成というねらいを教育課程の中でいかに具体化するか。②ゆとりある充実した学校生活を実現するための配慮事項とは何か。③基礎的・基本的な事項を精選し，子どもに定着させるための手だてをどうするかの３点について指摘され，そのためには，教師の創意工夫をいかした弾力的な指導計画の必要性を強調されています。

特別活動の指導計画は，従来，児童活動，学校行事，学級指導の三つの内容が，個々にたてられておりましたが，特別活動の目標にてらし，相互の関連をふまえた全体計画の必要性が課題となり，去る１１月２０日，文部省の青木先生のご講演をいただきました。講演要旨は，会報に記載されておりますのでご覧いただきたいと思います。これを受けて，都特活恒例の「新春座談会」もこのテーマを中心にいたしました。今後，各学校において，十分ご検討され，各学校の実態に応じ，創意工夫により特色ある計画がなされるよう期待します。

東京都教育委員会においては，本年度，教育課程編成要領作成協力委員会が設置され，５４年度には説明会が開かれると聞いておりま。

移行措置第２年めにあたる昭和５４年度の各校のとりくみこそ，新教育課程の成果が問われる重要な年となることが予想されます。

この研究集録の作成にあたり，外村専門部長を中心に，四部門の方々の並々ならぬご努力とご指導いただいた講師の方々をはじめ，貴重な資料提供にあたられた各学校のご厚意に心から謝意を捧げ発刊のことばといたします。

本年度の研究をふりかえって

専門部長　外　村　　近

５２年度は，「楽しく充実した学校生活をめざす特別活動」── 新教育課程をふまえて ──に取り組み，相当の成果をあげることができた。そして，子どもの側に立った教育課程審議会の意向を組み，子ども達の意識調査や集団の意識調査などが行われ，子どもを見直すとともに学級会活動や児童会活動などの４つの内容を見なおす年でもあった。

本年度は，さらに，これを受けて研究を深めることになった。というのは，仮りに５４年度を都特活指導計画案作成の年とするなら，児童の発達特徴をもとに，学校や地域の実態に即した指導計画作成への移行のときと考えたからである。つまり，都特活の指導計画案を作成するには，今までの研究の積み上げをもとに，新しい視点から考え直すとともにより広い立場や地域の現状を把握する必要があるからである。

といって，昨年度をそのまゝ踏襲するわけでなく，都特活指導計画案を志向する方向の研究方針を明確に打ち出したのである。そして，各研究部が取り組んだテーマは次のようである。

○共通テーマ　「楽しく充実した学校生活をめざす特別活動」── 新教育活動をふまえて ──

・学級会活動研究部テーマ「ひとりひとりの発想を生かし，楽しく充実した学級会活動の指導のあり方」

・児童会活動研究部テーマ「楽しく充実した委員会活動をめざして」ー委員会で何を育てるかー

・クラブ活動研究部テーマ「楽しく充実したクラブ活動をめざす指導のあり方」

・学級指導研究部　テーマ「好ましい人間関係を育てる，適応に関する指導のあり方」

であった。そして，研究内容の特徴は，

1. 楽しく充実した学校生活とは興味本位のものでなく教育的価値のあるものという考えが４部門に共通していること。
2. 実践報告や授業研究，全委員会活動の参観等実践と実態に基盤をおいた研究であること。
3. 指導計画の事例や指導計画作成上への配慮が十分にうかがえること。
4. 特別活動全体計画案が資料として提供されたこと。

などであろう。

このように新しい教育課程への移行の最初の年だけに以上の内容の研究を不十分ながらまとめることができたのも，会長さんや役員の方々の励ましや援助，ベテラン研究部長のリーダーシップの発揮，講師の先生方，諸先輩の御指導のたまものと深甚の感謝をする次第である。

東京都小学校特別活動研究会

1. 期　　日　　昭和５４年３月２日（金）
2. 会　　場　　千代田区立今川小学校
3. 研究主題　　「楽しく充実した学校生活をめざす特別活動」
　　―― 新教育課程をふまえて ――
4. 分科会

	学級会活動	児童会活動	クラブ活動	学級指導
テーマ	ひとりひとりの発想を生かし楽しく充実した学級会活動の指導のあり方	楽しく充実した委員会活動をめざして－委員会活動で何を育てるか－	楽しく充実したクラブ活動をめざす指導のあり方	好ましい人間関係を育てる適応に関する指導のあり方
運営部長	深瀬四郎（麻布小）	渡辺　壽（開進三小）	小川國壽（桜川小）	安岡正凱（光和小）
司会	大谷武夫（青山小） 名取幹夫（葛西小）	米本滋雄（葛飾小） 小川進一（西戸山小）	蛸井　聰（白金小） 岡田隆一郎（横川小）	水野　稔（大山小） 飯田良一（葛飾小）
発表者	深瀬四郎（麻布小） 高見沢豊栄（大和小）	河野紀之（落合四小） 池田令子（千駄木小） 網　保夫（松原小）	大谷徹夫（神谷小） 甲賀春明（田柄小） 野毛久子（石神井小）	新倉　剛（喜多見小） 井上恵美子（渕江小）
記録	田路邦雄（鎌田小） 丹野静子（小松川小）	吉仲ミチ子（九段小） 藤田俊範（千早小）	根本正道（桃園小） 野口アヤ（赤土小）	橋本　肇（仰高小） 伊藤隆雄（第四吾嬬小）
助言者	練馬区立富士見台小長　久納　六郎 北区滝野川四小長　広瀬　英二 足立区立竹之塚北小頭　峰田　陟 文京区立林町小頭　竹石　善一	墨田区立第四吾嬬小長　大西　弘 江戸川区立第二葛西小長　古橋　宏 町田市立南第二小頭　島田　泰介 板橋区立志村第一小　松野　彰夫	江戸川区立下小岩小長　小島　明 中央区立佃島小長　小谷　威 八王子市第七小頭　岩園　敏明	千代田区立永田町小長　中田　英義 文京区立駒本小頭　佐藤　弘 文京区立柳町小頭　石川　和男 世田ヶ谷区立桜小　岩下　紀夫

※　全体助言者　東京都教育委員会指導部　北　村　康　富

座談

新春　特活の全体計画を大いに語る

出席　白井健二　久納六郎　小島　明　佐藤　弘　石川和男　中田英義　竹石善一
外村　近　岩下紀夫　岩園敏明　松野彰夫　小川國壽　安岡正凱　広瀬英二
渡辺　壽

1.　座談会から小研究会へ

昨年度は一つのテーマを中心に参加者全体で座談会形式により「新春　特活を大いに語る」を編集し，新教育課程への展望と方向性を打ち出した。

本年度もそれを引き続きさらに発展，充実していこうというのが最初の考えであった。ところが参加者が多くなり予定の座談会を小研究会へと変更し，有意義な会をもつことができた。したがって，下記に述べることは，その一部であり，多くの課題や問題もあろうが，話題に出た順序でまとめることとした。

2.　提案及び資料提供者

○千代田区立今川小学校長（都特活会長）　白井　健二先生
○新宿区立西戸山小学校教諭（児童会副部長）　小川　進一先生

3.　特別活動全体計画立案上の諸問題について

（提案者　小川　進一）

―提案を中心に話された問題―

(1)　時間のとり方について

①　学級会活動，クラブ活動は，指導要領にほぼ同じ
②　委員会活動は，５年１１時間，６年１１時間
③　学校行事は，全学年９９時間　（一週を３３時間として延べ３週間程度で）
④　児童集会は，全学年２３時間
⑤　特活総時間数は，１年（１７７時間），２年（１７８時間），３年（１７８時間），４年（２１４時間），５年（２２５時間），６年（２２５時間）
⑥　週時程上の問題

	月	火	水	木	金	土
児童集会				木曜集会（15分）		
行　事	朝　会（15分）					音楽朝会（15分）
委員会・クラブ			（委員会）	委員会・クラブ（6校時）		

○時間不足で一校時にくい込みがち
○内容や方法との関連もあるが，時間を２０分～３０分にしたい。特に集会の場合は，新しく体操朝会も検討

中である。

⑦　委員会活動の時間のとり方に関連して

現行では，毎月１回，第３木曜（６校時）を定例日としている。新教育課程では，毎週一回にすることを検討しているが問題が多い。

―― 毎週一回委員会活動をとることについて ――

K「５５年度から，委員会を１時間，学級の時間を１時間，自由活動の時間を１時間，遊びの時間を１時間とりたいが」

N「委員会活動は，常時活動でできるようにすればよい。」

M「現在週１時間とっているが，今後は，休み時間にゆとりをもたせることがよいと思う。委員会活動を週１時間とるるかとらないかは，どちらでもいいと思う。」

K「いや，ういた時間で学期に１回ぐらいは，委員会活動をとった方がいい。ただ，学校の実態によるが。」

Y「私の学校では，年１４時間とっている。４月は３時間，あとは月１時間とっている。」

O「時間と内容が大事である。常時活動というが，遊び時間中では困る。子どは，時間が設定されないとやらないし，やりにくい。教育課程以外の時間に一定の時間を決めてとった方がいいのではないか。」

とにかく，委員会の時間のとり方は，K説，N論，O論が出たが，結論は出ないままで終わった。

(2)　学級指導の時間と内容の現状と問題点

現行では，指導計画があり，内容や時間を設定しているが，実践段階では，全校職員で話し合うこともないので，結果がどうなっているかつかめない。

まだ，朝の１０分間を学級指導と考えているようで，今後に残された問題が多い。一応学校全体としては，１単位時間の学級指導を２０時間はとってある。しかし，どの内容を１単位時間にするかは，今後の課題である。

4.　おわりに

小川教諭からは，評価の実際と問題点も提案されたが紙面の都合上割愛する。以上のように現場として密接で，もっとも今日的課題とも思われる問題が続出したが，時間削減によって生じた時間は，各学校の主体性と独創性を十分に発揮することが新教育課程実施への方向性であり，精神であるということであろう。これらの課題については，ケースバイケース，多くの事例を収集し，いくつかのタイプがまとまることを期待したい。

〔資料・1〕 特別活動の全体計画・作成のポイント

1. 必　要　性

(1) 特別活動の目標達成は，児童活動・学校行事・学級指導，個々の特性を生かし，相互に関連した指導が大切である。

(2) 集団の単位は，学校・学年の集団（学級会・学級指導），学年の枠をはずした集団（クラブ・児童会・学校行事など）さまざまある。このため，全教師の共通理解が重要である。

(3) 特別活動個々の内容の指導計画の前提となるものである。

2. 作成上の留意点

(1) 自校の教育目標と特別活動の重点目標との関連を明確にする。
(2) 自校の特別活動の内容（組織・指導体制）を明らかにする。
(3) 授業時数（時間配当）を明確にする。
(4) 基本的な配慮事項を明確にする。

・学校の実態
・児童の発達段階
・実施計画作成
考慮
↓
◎弾力的な指導計画を作成

3. 指導計画の具体的内容

(1) 児童活動・学校行事・学級指導の目標と，基本的な指導方針

(2) 学級会活動・児童会活動・クラブ活動の具体的な目標と，活動内容・方法・資料などを配慮した指導計画

(3) 学校行事の種類ごとの個々の行事の具体的な目標・指導方針・運営などを配慮した年間の指導計画

(4) 学級指導として取り上げる内容を，児童の実態に応じて選択し，具体的な内容ごとの目標指導方針・時期・方法・資料などを配慮した年間の指導計画

※　全体計画を細かくした場合は，内容ごとの指導計画はかんたんでよい。

4. 全体計画例

いろいろな実践例があるが，千代田区立今川小学校では次のような内容項目をあげている。

特別活動の全体計画

Ⅰ　特別活動全体計画
　1. 特別活動の目標
　2. 特別活動の内容
　　(1) 児童活動
　　(2) 学校行事
　　(3) 学級指導

3. 全体計画作成に当たって
　(1) 全体計画作成上の基本的態度
　(2) 本校の特別活動の目標
　(3) 特別活動の評価

Ⅱ　児童活動の指導計画
　1. 児童活動の目標
　2. 児童活動の内容
　　(1) 学級会活動
　　(2) 児童会活動
　　(3) クラブ活動

〔資料・2〕　特別活動の全体計画の評価（紙面の都合で項目のみあげる）

1. 全体計画の特質と評価

(1) 特別活動は教育課程の一領域としての機能を十分果たしているか。

(2) 内容相互の有機的な関連を図っているか。

(3) 全校教師が参加しているか。

(4) 授業時数を確保し適切に配当しているか。

(5) 学校や地域の実態との関連を図っているか。

2. 評価の対象と観点

(1) 特別活動の指導方針

ア．指導要領に示された目標や学校の教育目標に沿って具体的に示しているか。

イ．学校や地域の実態に即しているか。

ウ．全教師の十分な検討を経て立てたか。

エ．全教師によって共通理解され，受容されているか。

(2) 特別活動の内容

ア．地域や学校の実態に即しているか。

イ．他領域と関連が十分図られているか。

ウ．内容相吾の関連が図られているか。

エ．児童の発達段階に即しているか。

オ．児童の健康や安全について十分配慮されているか。

カ．各活動の組織や参加学年は適切で，無理のないものであるか。

(3) 指導体制

ア．全教師が指導の責任を分担し協力するようになっているか。

イ．特定の教師に負担がかかりすぎることはないか。

ウ．各教師の任務が明確にされているか。

エ．三内容相互の有機的な関連を図ることができる粗織の配慮がされているか。

オ．児童の実態を十分に考慮しているか。

(4) 授業時数

ア．地域や学校・学年・学級の実態に即して授業時数が確保されているか。

イ．教育課程全体の調和を考えて，授業時数が適切に配当されているか。

ウ．児童活動や学校行事に適切な時間が確保されているか。

エ．学級指導には学年別にそれぞれ適切な時間が充てられているか。

オ．各活動の時期の取り方は，年間の見通しが考慮されているか。

(5) 予　　算

ア．特別活動の目標や年度の指導方針が学校の予算編成に生かされているか。

イ．各内容や活動の特質に応じて，予算配分が適切になされているか。

(6) 全体計画の手順

ア．全体計画の作成に全校教師が参加しているか。

イ．前年度の記録・資料を生かしたか。

ウ．実態や発達の調査をもとにしたか。

エ．児童の希望・意見を参考にしたか。

3. 児童活動指導計画作成上の基本的態度

(1) 指導計画作成上の条件

(2) 児童活動の時間のとり方

(3) 児童活動の評価

4. 学級会活動の指導計画

(1) 学級会活動の目標

(2) 学級会活動の内容

(3) 各学年別年間指導計画

(4) 年間計画および運営について

(5) 学級会活動（話し合い活動）実施計画例

5. 児童会活動の指導計画

(1) 児童会活動の目標

(2) 児童会活動の内容

(3) 児童会活動の組織と運営

(4) 児童会活動運営上の留意点

(5) 代表委員会の予想される議題例

(6) 代表委員会の実施計画例

(7) 委員会活動の年間計画

(8) 委員会活動の実施計画例

(9) 児童会の集会活動

(10) 児童会の集会活動実施計画事例

6. クラブ活動の指導計画

(1) クラブ活動の目標

(2) クラブ活動の内容

(3) クラブ活動の組織と運営

(4) 指導上の留意点

(5) クラブ活動の年間計画

(6) その他の予想されるクラブ活動

(7) クラブ活動実施計画事例

Ⅲ　学校行事の指導計画

1. 学校行事の目標
2. 学校行事の内容
3. 学校行事指導計画作成上の基本的態度
4. 主な学校行事の月別実施例（５２年度）
5. 学校行事の年間指導計画
   (1) 儀式的行事
   (2) 学芸的行事
   (3) 体育的行事
   (4) 遠足・旅行的行事
   (5) 保健・安全的行事
   (6) 勤労・生産的行事
   (7) 学校行事実施計画例
      ○ 儀式的行事（入学式）
      ○ 学芸的行事（学芸会）
      ○ 遠足・旅行的行事（５・６年春の遠足）
      ○ 健康・安全的行事（交通安全教室）

Ⅳ　学級指導の指導計画

1. 学級指導の目標
2. 学級指導の内容
3. 学級指導の指導計画作成にあたっての基本的態度
4. 年間指導計画　月別主題配当一覧　（１単位時間）
5. 年間指導計画　月別主題配当一覧　（½単位時間）
6. 学級指導上の留意点
7. 各学年別　年間指導計画
   (1) 第１学年　年間指導計画
   (2) 第２学年　年間指導計画
   (3) 第３学年　年間指導計画
   (4) 第４学年　年間指導計画
   (5) 第５学年　年間指導計画
   (6) 第６学年　年間指導計画

Ⅰ　学　級　会　活　動

テーマ　「児童ひとりひとりの発想を生かし，
楽しく充実した学級会活動の指導のあり方」

1.　まえがき …… 13

2.　子どもの発想を生かす学級会活動指導の模索 …… 14

(1)　テーマに迫る構想 …… 14

(2)　子どもの発想を生かす教師の留意事項 …… 16

3.　実践記録＜ひとりひとりの児童をみつめ，育てるために＞ …… 17

―― 4年生としての係活動の育成をめざして ――

千代田区立今川小学校　松元学級

4.　実践事例

(1)　学級新聞づくりを通して。……＜1～2年＞ …… 25

(2)　楽しい誕生会にとり組んで。……＜4年＞ …… 27

(3)　児童のイメージを取り入れた学芸会を。……＜5年＞ …… 29

(4)　みんなの考えを生かした学級会活動をめざして。……＜6年＞ …… 32

5.　研究の反省と今後の課題 …… 34

○ 研究の経過

53．6．8（木）	総会，部会，組織づくりと研究の進め方協議
53．9．7（木）	研究のテーマと指導上の問題点についての研究協議
53．10．25（水）	研究の深め方および，指導上の問題点についての研究協議
53．11．28（火）	千代田区立今川小学校研究発表会参加
	授業研究　授業記録の集録
53．11．30（木）	授業記録の分析と指導の方法について研究協議
	講師　奥　宣　先生（新宿区立愛日小学校校長）
53．12．18（月）	研究記録の検討　原稿に着手
54．1．23（火）	原稿のまとめ，内容検討
54．2．26（月）	研究発表会についての打合わせ，諸準備
54．3．2（金）	研究発表会

研究・執筆者名簿

部長（発表者）	深瀬　四郎	港・麻布小		平野　時英	世田谷・松丘小
副部長（補助）	松元　美徳	千代田・今川小		日根野　光	渋谷・神宮前小
副部長（司会）	大谷　武夫	港・青山小		梅田とよ子	渋谷・笹塚小
副部長（司会）	名取　幹夫	江戸川・葛西小		滝沢由起枝	中野・鷺宮小
	武山　陽子	千代田・永田町小	（発表者）	高見沢豊栄	中野・大和小
	近藤美知子	新宿・東戸山小		山口　雄民	北・赤羽台東小
	大井千鶴子	文京・駒本小		笠原　くに	北・豊川小
	高岸　和子	文京・駕籠町小		井田　益彦	板橋・前野小
	大溝　進	文京・駕籠町小		小野　一	板橋・高島一小
	大井　秀恒	台東・大正小		永森　修吾	練馬・関町北小
	岩堀　早苗	江東・数矢小	（記録）	田路　邦雄	江戸川・鎌田小
	大山　幸子	品川・三木小	（記録）	丹野　静子	江戸川・小松川小
	黒沢源太郎	世田谷・池之上小		吉田　育子	立川・立川六小
	佐々木章輔	世田谷・瀬田小		遠藤　邦彦	多摩・多摩二小

1. まえがき

(1) 研究主題とその基調

学級会活動研究部会のテーマを，「児童ひとりひとりの発想を生かし，楽しく充実した学級会活動の指導のあり方」とした。

これは，東京都特別活動研究会の迫る研究テーマの具体化であり，昨年からの継続である。背景として，学校教育の質的転換が要請されている，教育の今日的課題をふまえたものであることは，いうまでもない。

限られた部会の回数ではあったが，昨年までの研究成果の積み上げを体して，よりよい方向への指導上の問題点や悩みを語り合い，助け合い，研究を深めてきた。しかしながら，研究会を重ねれば重ねる程，学級会活動の特質についての理解のあまさと相まって，楽しく充実した学級会活動のあり方と，指導のむずかしさを痛感している昨今である。

学級会活動は，学級生活をより一層豊かなものに築き上げる目的をもって，年間を通して実践的に追求していく問題解決の活動の場ともいえる。従って，三つある活動内容をばらばらに切り離した考え方はとりたくないと考える。話合いの活動だけを毎週学級会と名づけて，独行させてしまうのも愚な話である。実践が伴わないという問題がつきまとう。また係の活動だけを切り離してしまうと，学級の仕事を文字通り当番のように，子どもたちにとって何の感激も意義づけもなく，使役として，学級の用務を果たしていくにすぎない活動になってしまう。また学級集会の活動だけを切り離すと，「たまにはお楽しみ会でもしようか。」という程度の意味でのレクリエーションでしかなく，生気を失ったものとなってしまう。どの活動をとってみても，別々に切り離されたものでなく，一連の活動過程のなかに動く，活動要素としての機能を果たすものであると解釈したい。

更に，楽しさに及言するなら，教育上の楽しさとは，単に伸び伸びとして自由かっ達な言動だけをさしていうべきではない。教育である以上，決して安易なものでなく，子どもひとりひとりの創意創造を促しつつ，実践遂行させる中で味わうことができる，極めて困難なものではないだろうか。このことを十分わきまえて，指導にあたることが，主題に迫る糸口であろうと考える。子どもたちが，具体的な目標や目的と見通しをもって，意欲的に実践活動に努めるなかに，① 身体的な実践活動そのもののよろこび，② 期待のよろこび，③ 創造や発見のよろこび，④ 協同や連帯のよろこび，⑤ 成就や完遂のよろこび，……等が内在及び外在していなければならない。そして，これら各種のよろこびが，学級会活動への楽しさに転化され，それが基で充実につながるものと考える。

ところで学級会は，学級の全ての成員によって実践活動をするものであり，成すことによって学びとるという特性がある。従って集団で活動しながら，相互の容認，友だちのかくされた良さや特性の発見・認識，友情の新たな醸成，連帯感の増強，集団意識の伸長などを意図したい。しだいに学級成員による集団の凝集性も増し，結果的には学級会集団の士気も高まっていくと考えられる。このようなうるおいのある集団のなかで，子どもひとりひとりが創意をもって，自己を発揮し，信頼，協力，責任，寛容など，もろもろの個人的資質が望ましい姿で伸長していくと考え，意を新たにして研究にとりくんでいるしだいである。

(2) 研究へのとりくみ

先づ，出席された部員同士で情報を交換し合うことから始めた。学級会が各学級の児童実態に立脚した活動である以上，学校や学級による差違は当然であろうが，それにしても，活動状況は様々のようである。それだけ指導する上で，隘路の多いことを知らされたのである。

そこで，次のような手だてをもって，研究の推進を試みている。

① 都内各地区各校の学級会活動の現状や，指導上の問題点を持ち寄り，共通理解を図るよう努めた。

② 各種問題点について，研究テーマとの関連を検討した。

③ 「子どもの発想を生かす」ことそのものが，子どもたちの自発的・自治的活動に関わり，学級会活動の本質に迫るものとして，その指導のあり方を探究した。

④ 講師をお迎えして，研究の方向づけや，指導上の参考事例等，ご指導をいただいた。

⑤ 授業研究とその記録分析を実施して，具体事例によるテーマ追求を試みた。

１７ページ以後に記載したいくつかの実践は，研究にとりくんだ生の記録である。最善のものではなく，むしろ悩みの過程であるが，その意をくんでご一読いただければ幸いである。

2. 子どもの発想を生かす学級指導の模索

(1) テーマに迫る構想

学級会を見直す

＜問題点を含んだ実態＞

話合い	係の話	学級集
●問題意識がなく，話合いの必要性も理解できていない。	●豊かな学級生活のための係がつくられてない。	●学級の問題を解決するための集会になっていない。

の活動

- 資料がなく，広がりや深まりがない。
- すぐに採決しようとする。

動

- 問題解決のための活動になっていない。
- 活動をしないか，又は工夫がない。

会の活動

- 以前の経験が生かされず，十分な計画がたてられない。
- 役割行動が不十分で，一部の児童で運営している。

教師の姿勢

児童の姿勢

実態や問題をふまえて解決の方向へ

◎こうすれば，子どもの変容が。

- 学級会に対する理解を深める。
- 学級の実態に立脚した理想や仮説をたてて，問題の投げかけをする。
- 問題解決の手法を指導する。
- 弾力的な運営を試みる。

◎工夫した活動を考えることが。

- 豊かな学級像を想定してみよう。
- 現状から脱却するための課題を考えよう。
- 具体的な活動の計画をつくってみよう。

子どもの発想を豊かにし，生かす手だて

- 計画委員会の位置づけと運営を明確にして。
- 資料作成委員会を組織して。
- 他学年，他学級の事例を集めて。
- 賛否両論を１つにまとめる案を創意工夫させて。
- 係の活動と学級生活の豊かさとの関わりを，絶えず話題にして。
- 日常いつも問題意識を高める指示・指導をして。
- 活動できる時と場の設定を十分配慮して。
- 学級生活上必要な係を，グループで分担して計画的実践を。
- 学級の集会活動の記録を生かす指導をして。
- 学級の問題点を解消するための集会を考えさせて。
- 今までと違った場所を使って。

楽しく，充実した活動の事例

- ノートに，見通しのある意見を考えて書いてきたので，発言ができ意見がとりあげられた。
- できる，できないの統計資料があったので，話合う問題点がはっきりし，結論も出しやすかった。
- 発言賞がもらえるので，勇気を出して発言した。
- 編集方針の共通理解をした上，分担し合って一夜でできるかべ新聞をつくり毎週続けた。
- みんなの考えを聞き出す調査用紙を作っておき，必要あるたびに調査したので，かえって活動しやすかった。
- 係長を月交代にしたら，違った仕方ができた。
- 手品ひろうの会が，全員でできた。
- グループによるコントコンクール（主題が統一）ができて，友だちのかくれた一面を見ることもでき，学級内に新しい光明がさした。
- 学級全員の似顔絵大会は楽しかった。

(2) 子どもの発想を生かす教師の留意事項

子どもの発想をより豊かに育て，それを生かし，みんなのものにすることは，そのこと自体が学級会活動の命である。子どもに任かせられる範囲内の諸問題について，観念的でなく幅広い発想で，自主的に，そしてみんなの力を借りながら，解決に迫る実践活動であってほしいものである。

幸い，最近の子どもたちの直感は鋭く，発想も決して貧弱ではない。磨けば磨く程さえわたる可能性をもっている。そして創意はまた次の創意を生むものである。1つの発想を共通の題材に広げて，共同の主題に育ててやるには，教師の手だても必要であり，放任していて生まれ育つものではない。

又，学級の中に，日頃，人を認め人の立場を思いやる人間関係を養い，それに建設的態度をつくっておくことが基であることも，付け加えておきたい。どの教科指導についてもいえることであるが，学級会活動においてはなおさらのこと，学級経営のあり方に，血のかよったものがなければならないと考える。

3. 実践記録＜ひとりひとりの児童をみつめ，育てるために＞

― 4年生としての係活動の育成をめざして ―

千代田区立今川小学校　松　元　美　徳

(1) 児童のこれまでのあゆみ

この学級は，1年当初から単級で，在籍29名の学級である。この学級を担任したのは4年からであるが，学級会活動を通しての児童の育成が十分になされていたとはいえない。

この実践記録では，係活動を中心にとりあげるので，この学級の4年生になるまでの係設置のあゆみを次にあげてみる。

1年			2年			3年		
1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期
黒板	黒板	黒板	黒板	黒板	黒板	黒板	黒板	黒板
電気	電気	電気	―	電気	―	電気	電気	電気
整備	整備	整備	整備	整備	整備	整頓	整頓	整頓
窓	窓	窓	窓	―	窓	窓	窓	窓
ドア	ドア	ドア	―	ドア	―	ドア	ドア	―
テレビ	テレビ	―	テレビ	テレビ	テレビ	テレビ	テレビ	テレビ
合図	合図	合図	合図	―	合図	―	合図	合図
―	欠席	欠席	出席	出席	出席	出席	―	出席
―	手紙	手紙	手紙	手紙	手紙	手紙	手紙	手紙
―	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生
	検査	検査	検査	検査	検査	検査	検査	検査
―	図書	図書	図書	―	図書	―	―	―
―	花	花	花	花	花	花	花	花
―	鉛筆	―	鉛筆	鉛筆	鉛筆	鉛筆	鉛筆	鉛筆
	削器		削器	削器	削器	削器	削器	削器
―	―	ストーブ	―	元栓	元栓	―	―	元栓
―	―	給食	―	給食	―	給食	給食	給食

—	—	—	—	—	—	—	相談	相談
—	—	—	—	—	—	掲示	掲示	掲示
—	—	—	—	—	—	配り	配り	配り
7	13	13	12	12	12	14	15	16

また，1年の1学期に，係に所属していた児童は，次の8名である。

〔男〕 池田 ― 黒板がかり　　〔女〕 木村 ― テレビ

亀田 ― 電気がかり　　下平 ― ドア

正田 ― 整備　　藤澤 ― 合図

畠中 ― 窓

山内 ― ドア

なお，2学期になっても所属する係のなかったものが，男女各1名がいた。また，この学級の児童が，3年のときに，全校児童を対象とした学級会活動に関する実態調査を実施した。その結果の一部を次にあげてみる。

○ あなたは，今のかかりに，どうしてはいったのですか。（選択方式）

- 係の仕事をやっているようすをみて，はいりたくなった。…… 15
- 先生や友だちの話をきいて，たのしそうだからきぼうした。…… 2
- なかよしの友だちといっしょになりたかったから。…… 0
- ほかのかかりにはいりたかったが，はいれなくてしかたなくはいった。… 1
- あまりはいりたくなかったが，先生やみんなにすすめられて。…… 5
- その他

○ あなたのかかりは，組の人のためにやくにたっていると思いますか。

- やくにたっている。…… 8
- やくにたっているかどうかわからない。…… 18
- やくにたっていない。…… 1

○ あなたは，自分のかかりのしごとを，どのようにやっていますか。

- 自分から，すすんでやっている。…… 9
- やっている。…… 16
- ひとにいわれてやる。…… 4

この調査には，記述する部分もあったが，係の所属に関しては，「やすんでいたら，はいる係がなくて，先生がはいんなといったから入った。」「ほかの係にはいりたかったがはいれなかった。」などの記述があり，あまり活動しない理由として「やる仕事がないから。」「あまりはいりたくないかかりだったから。」などのような記述もみられた。

係活動に関する指導のめやすとして，

低学年 ── •自分たちでできる仕事に気づかせ，全員が係につけるようにする。

•学級内の仕事をするための係をつくり，数人で活動できるようにする。

中学年 ── •仕事の内容を考えて係を整理統合し，必要な係をつくれるようにする。

•簡単な計画を立て，リーダーを中心に活動できるようにする。

のような段階が考えられる。児童の発達段階に即した教師の指導の累積によって，低・中・高学年のめやすとする段階に，耳童を育成することが可能であると思う。しかし，この学級の設置されている係の様子をみても，教師の指導にやや問題があるのではないかと感じられる。2年の段階の係の経験をもとに，3年生の係設置にあたっては，もうすこし整理・統合されるものがあってもいいのではないだろうか。

4年最初の係設置における話し合いの場でも，児童のそれまでの係活動のとらえ方，考え方が障害となってあらわれた。これについては，以下に述べることとする。

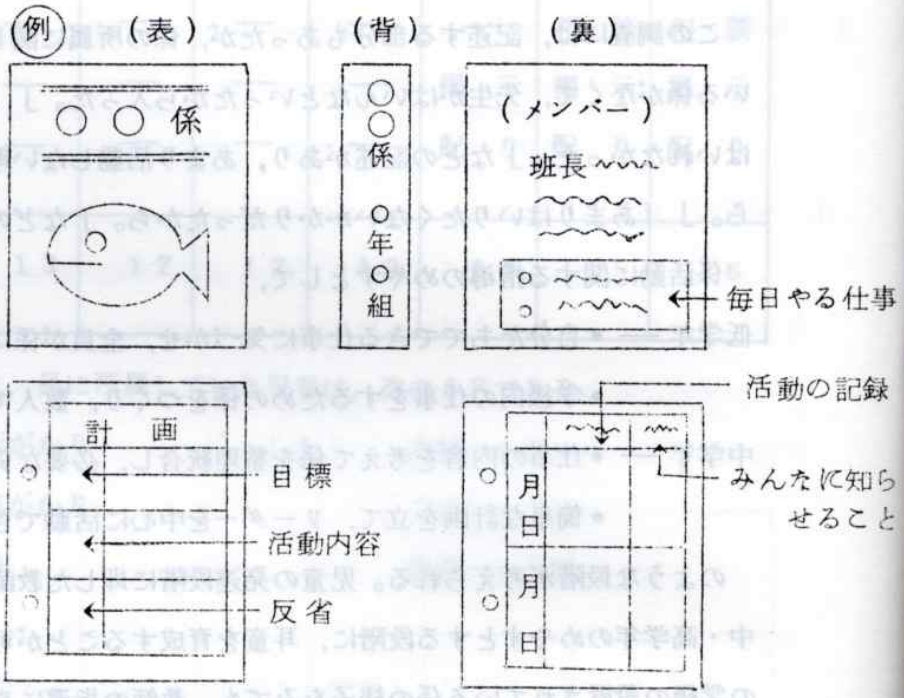
(2) 指導の手だて

ひとりひとりの児童が興味と関心を持ち，意欲的に活動していくためには，児童の主体的な話し合い活動をもとに，学級の実態に即した係が設置される必要がある。4年生として，自分たちで計画を立ててやれるもの，それには，どのような活動があるだろうかと考え，発見させていくことが必要である。また，係の所属決定にあたっても，教師や友だちの押しつけ，ジャンケンなどで安易に決めず，話し合いを通して，ひとりひとりの希望が十分に生かされる必要がある。

本年度の研究にあたっては，ひとりひとりの児童が意欲的にとり組む係活動をめざして次のような手だてを試みた。

- 係コーナーの設置
- シンボルマークを作る。── 各係ごとに，自分達の活動内容を象徴するようなシンボルマークを作成させた。これは，「この係は，自分の係だ」という意識をもたせ，係への所属感を高めていくことを意図した。
- 係ノートの作成。── 日常の活動の記録や他の児童への連絡・お願いなどを記入し，

下校時に発表させるようにした。これは，毎日の活動を記録することにより，継続的・計画的な活動の育成をねらうとともに，活動の記録を発表しているとき，活動に工夫がみられたとき，新しい考えを出した時など，それを賞賛してやることによって，児童がさらに意欲的・創造的な活動に向っていくようになることを意図したものである。



- その他

学級会活動用の専用棚の設置（用具・紙・その他児童の活動に必要なもの），話し合い活動における座席の工夫（議題が係活動に関係ある場合は，係別の座席にする）

なお，学級会の話し合い活動においては，多数決で結論を出さないことを原則として，今後の学級会活動をすすめていくことにした。

(3) 児童の1年間のあゆみ

① 係設置を通して

ア．一学期の係設置　4月8日の学級会で「新しい係をつくろう」という議題で，係設置についての話し合いがもたれた。議長の「どのような係をつくったらよいか。」という投げかけに対して（第一次反応）に示した結果が出た。これをみると，3年の時に設置されていた係そのままで，何らの変化もみられない。その活動内容も，日直当番的なものが多かった。その結果をみて，教師が「この中には，日直さんがやる仕事がずいぶん多いね。日直さんが仕事がなくなって困るのではないかな。もう一度，みんなで考えなおしたらどうだろうか。」と投げかけてみた。教師の投げかけに，児童は困ったようである。なぜなら，自分たちが出した係は，3年の時「自分の係の仕

事は責任を持ってやる。」という指導のもとに，学級会活動の係として経験してきたことであったからである。そこで，教室の図書に目を向けさせ，それを手がかりに，4年生としての望ましい姿の係が設置されるように，助言や資料の提示を行った。その結果が第二次反応である。さらにこの結果をもとに，仕事の内容に目を向けさせ，整理・統合させて生まれたのが（第三次反応）として示したものである。この最終段階にいたるまで，2年位時間を要した。

（第一次反応）

えいせいけんさ係
×まど係
×テレビ係
×花係
×手紙係
×くばる係
×電気係
×しゅっせき係
×そうだん係
×給食係
×ドア係
×えんぴつけずり係
せいとん係
×黒板係
×合図係
けいじ係

（×印は，日直のやる仕事はどれかということでつけさせたもの）

（第二次反応）

しいく係
手つだい係
ほけん係
植物係
かたもみ係
新聞係
えいせいけんさ係
図書せいり係
名ふだ調べ係
図書係
本せいとん係
本せいり係
本だなせいり係
図書せいとん係

（第三次反応）

けいじ係
しいくさいばい係
保健係
図書係
新聞係
（せいとん係）

※ せいとん係は，学期の途中で生まれたものである。

イ．二学期の係設置　1学期の活動経験を土台として，話し合いがすすめられた。ここで問題になったのは，保健係とせいとん係を統合するか，現在のままでいいかという意見の対立であった。統合側の意見は，「せいとん係と保健係は同じような活動をしていることがある」ということであった。したがって，1学期にみられるような活動

内容なら統合したほうがいいという考え方であった。話し合いを重ねた結果，それぞれの係でもうすこし活動内容を工夫したら，係としての活動にも違いが出てき，存在価値もあるであろうという結論に達し，存続がみられた。

係の所属は，児童の希望によって行われ，事後の人数の調整は行わないということから，それぞれ希望通りの係に入ることになった。最初，極端な所属数のアンバランスや希望者のいない係も生ずるのではないかということが予想された。その結果，保健係所属の希望者は女児１名で，他はそれぞれの活動内容に応じた所属がなされた。次の日，新聞係と飼育栽培係に所属していた女子が，「１名では，係の仕事がうまくできないのではないか。」ということで，自発的に係の所属がえを全員に申し出，それが認められて，保健係は３名で活動をすすめることになった。

ウ．三学期の係設置　　２学期と同様，ここでも出された問題は，整頓係に関することであった。児童たちの出した設置したい係の中には，整頓係もあったが，設置に関する話し合いの中で，この不必要論が出された。その理由として，「日直が責任をもって教室をきちんと整頓する」「全員がいつも気をつけていれば，教室はいつもきれいになる」，「特に目につくような活動がない」などであった。結果的には，設置を希望した児童の考えを尊重するということと，日直では気のつかないこともあるのではないかということで，保健係と統合し，「せいとん＆保健係」という名称のもとで活動をすすめることになった。

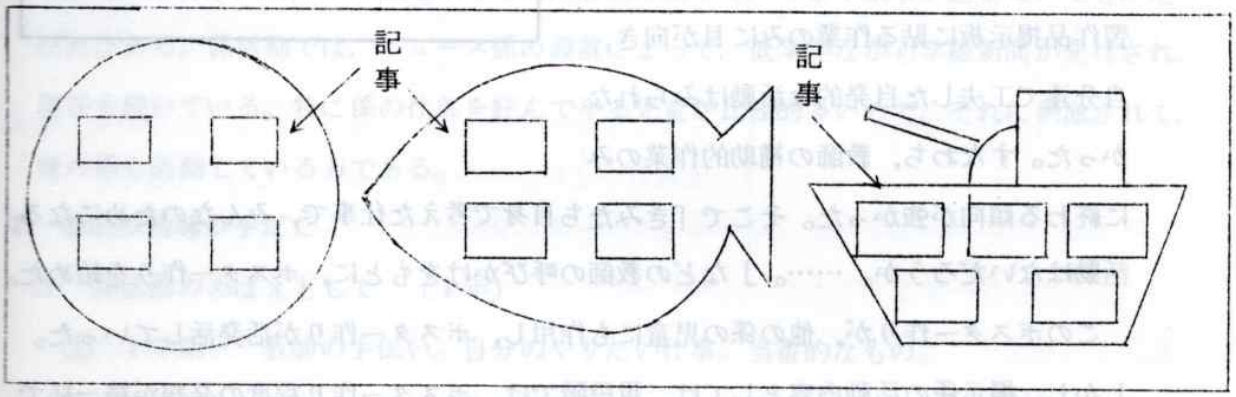
以上に示したように，学期ごとの係の活動が，次の学期への係の整理・統合へと目を向けるまでに成長していった。その成長の過程には，各係の活発な活動や，児童自らの発想による活動への取り組みが生まれてきたことにもよると思われる。

(4)　児童の実際の活動の様子から

①　新聞係　３年生の時には全く経験のない活動であったため，当初はどのように活動を進めていってよいか糸口がつかめず，実際の活動になかなか入れなかった。そのつまづきの一つに，記事をどのようにして集めるかということがあった。係で考えたのは，全員に分担して記事を書いてもらい，出された記事を台紙に貼って壁新聞を作るということであった。係の児童から提案がなされたが，他の児童とて経験のないことであり，記事がなかなか集まらなく，一ヶ月あまりが過ぎてしまった。そこで，教師が先年度までの担任児童の新聞づくりの様子について話してやり，係としてどのような方法で記事を集めたら活動が順調に進むだろうかということで，今後の活動の進め方の助言を行った。

その結果，「自分たちで記事をつくればいいんだ」ということに，児童の目が向いた。「自分だけで記事を書く」ということは，今まで経験の全くなかった児童にとっては，すばらしい発見であった。これ以後，新聞係の活動が軌道にのり始めた。

その後，この係では「いろいろ新聞」の名称のもとに，発行のたびに壁新聞の台紙の形を工夫し，また新聞ポストを作成し，みんなの意見や感想を求め，新聞作りに生かすようになっていった。下に示したのは，台紙の形の一例である。



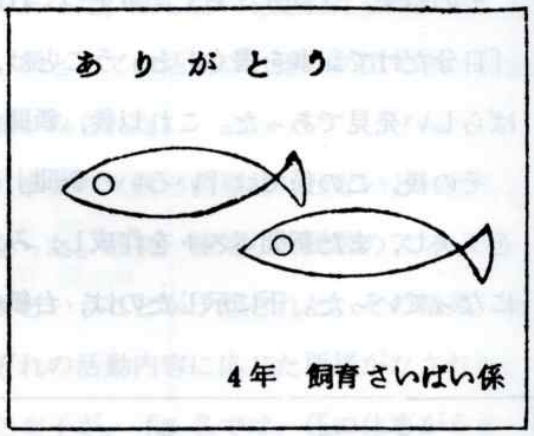
この係の軌道に乗ってからの活動はめざましく，ここで生み出された発想が，他の係へ影響を与え，それぞれが自分たちの活動を工夫していく原動力として作用するまでにいたった。

二学期になると，新聞の名称も「青空新聞」とかわり，さらに１１月には月刊紙の発行を思いたつにいたった。出発当初，最も低調であった係としては，その成長の度合は著しいものがあった。

② 飼育栽培係　うなぎの幼魚を購入したことがきっかけになり，飼育活動に興味を示すようになっていった。それと同時に，教室で飼っていたメダカが　たまごがふ化し，稚魚が増えるにつれ，児童の興味と関心はますます高まっていった。栽培に関しては，自分達の中で育てるということから，教室を飾るための鉢植えをつくらせ，それを継続的に手入れをしていく活動をとり入れた。

一学期は，全員がよくまとまり，協力して活動がすすめられていった。その楽しそうな活動をみて，二学期になったらこの係に入りたいという希望の児童が多くなっていった。係の交代が一学期ごとであるために，学期の終わりには早く二学期にならないかなという声が，児童の中から聞かれるようになった。

また，一学期には学級児童に呼びかけるポスターを作り，その呼びかけに対し，他の児童も，金魚，ドジョウ，ハムスターなどを持参し，協力していった。係の児童は協力してくれた児童に対して，右に示すような感謝カードを作り，協力に感謝していた。



③　掲示係　最初は活動内容が，習字など学習作品掲示板に貼る作業のみに目が向き，自分達で工夫した自発的な活動はみられなかった。すなわち，教師の補助的作業のみに終わる傾向が強かった。そこで「きみたち自身で考えた仕事で，みんなのためになる活動はないだろうか。……。」などの教師の呼びかけをもとに，ポスター作りを始めた。

このポスター作りが，他の係の児童にも作用し，ポスター作りが活発活していった。しかし，掲示係の活動内容としては，現段階では，ポスター作り程度の発想が精一杯でそれ以上の進展はみられないようである。

④　図書係　この係は，読書カードを作り，本の貸し出しやその整理が中心の活動であった。二学期になると，新聞係の活動に刺戟され，月刊誌の発行や本を多く読んでくれた人への感謝状の発行を活動に取り入れていった。

以上の係の活動に見られるように，一つの係の発想や活動が刺戟になり，たとえ模ほう的であっても，それぞれの係の活動を活発化するもとになっていった。ここにあげなかった保健係，せいとん係にしても同様である。

(5)　まとめと今後の課題

一つの係の発想。それが他の係へも影響を与え，新しい活動を生み出す要因となる場面が多くみられた。また，児童の活動が行きづまり，停止寸前の状態になったとき，教師が助言を与え，または資料を提供してやることによって，再び活動へ向っての動きが始まることがあった。

以上のようなことから，教師が常に児童をあたたかく見守り，必要な場で適切な助言・指導を積み重ねていく必要を痛感した。同時に，児童が互いに刺戟し合い，協力し合っていくような学級の雰囲気をつくりあげていくことも必要であると思った。

4. 実践事例

学級新聞づくりを通して <1年～2年>

1. 学級の実態

本学級は，1年からの持ちあがりであり，児童どうしの仲間意識は持っている。一つの学級としてのまとまりができつつある。学級会は1年の後半からの積み重ねによって，何でも言い合える学級の雰囲気がつくられている。しかし，話し合い活動の中で，何人かの児童の的はずれの発言や，話題からそれた意見によって，うまく議事が進まないことがたびたびある。係活動では，ニュース係の設置によって，低学年ながら学級新聞が発行され，現在も続いている。特に係の仕事を好んでやる児童が比較的多いので，それに刺激されて，他の係も活動している方である。

2. 教師の指導の手だて

(1) 係活動のめばえとして　(1年)

① 1学期　教師の手伝い。自分のやりたい仕事。当番的なもの。

② 2学期　係をつくる（やりたい仕事をやりたいものだけでやらせた）

③ 3学期　新しい係をつくる（1人1係）

花。本。あつめ。ニュース。掲示。電気。保健。そうじ。黒板。落し物。(ニュース係の活動がめざましかった)

新聞づくり ― 児童の声をすいあげた教師の助言。教師の援助。

(2) 活動の輪がひろがる

① 1年の時の経験をもとに新聞づくりの意欲を持たせた。

② 話し合い実践のつみ重ねによっての内容の充実を図った。

3. 子どもの発想

1年の3学期の朝の会で，今までニュース係が持ちよって発表していた話題を「発表するよりも，新聞にした方がよい」という意見がでた。発表を聞いていても，聞きのがしや話し手の言っていることが何を言っているのかわからない。かんたんすぎるなどの声があがって，ふつうの新聞のようなものをつくりたいということになって，次の学級会でとりあげた。結局，印刷新聞にきまる。

4. 活動の実際

(1) 学級会での話し合い　事前に教師が話し合うことがらについて考えさせておいた。

話しあうことがら	話し合いときまったこと
① 新聞のなまえはどうするか。	・学級新聞。学校新聞。ウルトラ新聞。ニュース新聞。まんが新聞。青山新聞。 ・「みんなの学級のみんなでつくる新聞だから」という教師の助言で学級新聞にきまる。
② 新聞の大きさはどのくらいにするか。	・印刷新聞にするので，大きさはきまってしまう。画用紙の大きさ。<教師が決定>
③ どんなニュースをのせるか。	・今までニュース係が発表してきたようなものをのせる。だいじなニュース。絵。
④ いつだすか。	・今まで毎週水曜日ニュース係が発表していたので，毎週水曜日がよい。その日に印刷してもらって配る。
⑤ だれが書くか。	・今までニュース係が記事をもってきたのだからニュース係がよい。

以上の話し合いできまったことをもとに1年生で第2号まで発行された。

(2) 新聞づくり

ニュース係が持ちよった記事を教師が，わくぐみ，編集，印刷して児童に渡す。

(3) 2年生になって

学級会で新しい係ができた。ニュース係もまたできた。1年生の時の経験をもとに5月に新しく第1号を発行した。6月の学級会で，学級新聞に「まんが」をのせたいということで「まんが係」ができた。同じ理由で「じょうほう係」「クイズ係」「本係」ができて新聞づくりに参画するようになった。そのため記事が多くなり一度に多いときで5部発行することもあった。2学期になって，教師のはたらきかけで内容をしっかりしたものをつくるようになった。また児童の反応は，発行日を待ちのぞみ，よく新聞に目をとおすようになった。自分の書いてきたものが印刷されて手にはいる喜びを感じているようである。そういうことが要因になって発行意欲の向上につながっていることは，低学年の係活動の充実に結びつくと考える。

5. 反　省

低学年の係活動では，児童の中から創意工夫ができるものを一つでもとりあげてやり，それをヒントにして活動の輪をひろげさせることが大事であると思う。その経験をもとに次学年での自主的な活動に結びつけていくワンステップになれば半ばねらいに近づくのではなかろうか。この時期では，教師の指導性が大きく発揮されなければならない。

楽しい誕生会にとり組んで　＜4年＞

1. 学級の実態

持ち上がり学級である。3年生のとき，学期に一回お楽しみ集会を経験している。集会委員会が，月に一度実施する誕生会に刺激されて，学級でもそれをやりたいということになった。日ごろ，クラスで一つのことに取り組む時に，「ほんとうにやりたいという気持ち」が，ひとりひとりの心の中に湧きあがるような，もりあがりに欠けている。一部の積極的な子どもに引きずられて，やることはやるが，問題意識がうすいために，話し合いの内容にも深まりがなく，集会のなかみのマンネリ化を打ち破ることがむずかしかった。

2. 教師の指導の手だて

・会の内容を拡張するためと，興味の持続を考え，朝の会，帰りの会の時間を充分利用した。また学校図書館の本，教師用図書の利用をすすめ，アイデアを集めさせた。

・提案理由の説明や，それに対する質問が活ぱつに話し合われ，ひとりひとりが，目的意識を持って活動できるよう，計画委員会をこまかく聞いた。

・議題が子どもたちひとりひとりに，どのようにとらえられ，集団としてどうかわっていくかを，しっかり見とどけるため，記録を大切にし，実際に利用した。

3. 子どもの発想

・普だんほとんど発言しなかったR・T（女児）の〝四年生らしい誕生会にしたい〟という意見に動かされ，「今までやってないことをやろう」という受けとめ方をした。

・楽しい誕生会にするため，二学期途中の計画でもあるので，「祝う人」「祝われる人」の二つに分かれて，計画，準備，だしものなどを考えてやることになった。

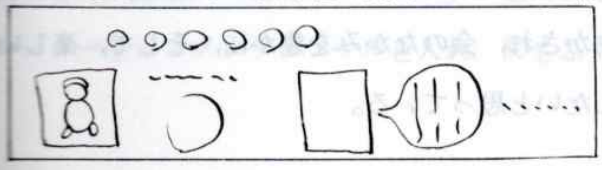
・会場作り，プログラム作り，司会進行などの係は，実行委員を選び，その人がやる。

4. 活動の実際

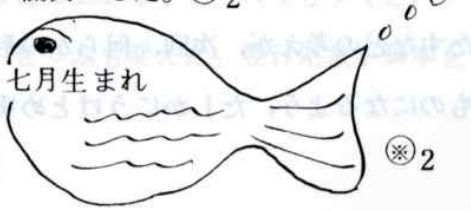
(1) ＜祝われる人＞の活動

① 自分の生いたちを知ってもらうための資料として，〝幼ない日の私〟という題の，祝われる人全員の写真を貼り，一言書きいれたものを作った。※1

② 次回にやる人のためにも，誕生日の表を作ることにした。算数で学習した集合の形を思いつき，魚や花や動物のかこみで楽しい一欄表にした。※2



※1



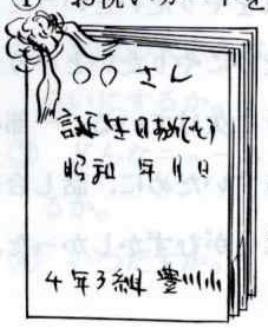
※2

③ 会の当日，自分のエピソードを語った。<ほほえましい笑いが教室にひろがった>

④ 西洋の星占いを参考に性格や運命について書かれた，黄道十二宮の星座ごとの表をつくって掲示した。

(2) <祝う人>の活動

① お祝いカードを作った。(画用紙二つ折りにし，はじっこをリボンでかざる)



なかみは開くと・先生から○○さんへと，○○から○○さんへのお祝いのことばが書かれたページ・次は，こんなに大きくなりましたのページで，先生の写した写真と身長，体重の記録，最後はうら表紙で友だちの書いた絵のページになっている。

② 祝う人による演目は次のような内容でおこなわれた。<七つのグループによる>

・A 手品．クイズ

・A′ 人形劇<不思議な森>── 図工科で制作した指人形を持ちよる。自作の脚体。

・B エスチャークイズ── 絵を数枚用紙してヒントにし，想像してあてるクイズ。

・B′ ゼスチャークイズ

・C 紙芝居 <ももたろう>── おとぎ話を原案に改作したもの。

・C′ 手品・紙芝居 <小さな家>── 外国の創作読み物を短くしたもの。

・D 紙芝居 <おむすびころりんパート2>── 漫画風にちょっとくだけた改作物

人形劇の舞台は，清掃当番にあたっている心障学級で見て知っていたためか，子どもたちが直接交渉し，担任の先生より貸してもらい，前日運びこんだ。

5. 反　省

話し合いを活発にし，意欲にかたよりのないよう，ひとりひとりの子どもを導くには，担任自身が，学校生活の中で，子どもの感情をおさえこまないよう，許容的態度で接しなければならないと常に考えている。しかし，教師としては何でもまかせるという甘さは，さけねばならない。ひとつの会を通して，子どもたちをよく見，受けとめ，信頼していく姿勢が次の学級集団の力となってひろがっていくことを考え，実践を重ねたい。

最後に，今回子どもたちから出ていた◎自分の得意料理を持ちよりみんなで食べる。◎自分のたからものを持ちより，お互いに紹介しあう◎自分たちの手作りのプレゼントをわたすなどの考えが，次回，何らかの形で生かされ，会のなかみを豊かに，そして，楽しいものになるよう，たしかにうけとめ実行したいと思っている。

児童のイメージを取り入れた学芸会を　＜5年＞

1. 学級の実態　（クラス編成があった）

リクレーション係が議長団として各役割をしたあと，学級の半数以上が議長団の経験がなかったので，座席ごと6人交代で議長団をさせた。2学期になり，旗を作って賛成・反対の意志表示をさせた。議題に対する共通理解を深めるため，議題選定の時間を設けた。議題案の提出理由を発表し全員で議題を決めた。議題は具体的に何を話し合うのかが理解できるように書こうと助言した。10月に，学校行事の中から学級会で話し合った方がより楽しく参加できるものを考えた。11月にある学芸会（隔年）の話し合いをしようとなった。

2. 教師の指導の手だて　（意図）

学芸会は学校行事として行なわれる。学級会の話し合いや児童の自治にまかせられるものではない。学芸会委員からも教師の指導性もはっきりと明示された。

出し物は学級単位となった。学級の和を強め，児童の主体性を生かし，話し合いの活発化を図りたいと考えていた。そこで学校行事である学芸会のなかで，何が児童にまかせられるかを考え種々仮説をたててみた。結局，演技種目の選定とキャステング，係の分担をまかせてみようと考え，意欲化への助言を試みた。

3. 児童の発想

学年会でできるだけ児童の希望を考慮しようと打ち合わせた。『学芸会の出し物を決めよう』という議題で話し合った。今までの経験から劇・影絵・合唱，合奏・人形劇等が出て，ほぼ全員の意見で劇に決まる。5・6人の児童は音楽と人形劇を希望した。これは「脚本によって劇の中に組み入れたい」となった。脚本選びで創作もの（生活劇・日本の昔話・外国の名作もの）と既成のものとに分かれた。今から作るのも大変だし，ひとりひとりの希望も生かせないので，自分達で図書館や図書室から探すことにした。「新しい友達ロボット君」「十円玉が落ちていた」「親切なペンギン」「のどか森の動物会議」が出され，話し合いの結果，「親切なペンギン」が選ばれた。舞台に上がる子を一人でも多くと，ナレーターやシュプレッヒコールを入れ，役もふやし，せりふも変えた。翌日児童が脚本を

すり全員に配布した。『必要な係を決めよう』の話し合いで，幕・効果・照明・配役が出された。希望する配役のせりふを一か所覚え動作をつけ，みんなの前で演じ，他の児童が選んだ。1日，2～3役にし，翌日まで練習期間をおいた。ペンギンの父親が決まらなかったが，次の日，体格はいいが幼稚なA君が恥かしげに意を決したように「ぼくやります」といってくれた時は，拍手がわいた。このことがひきがねとなって子どもたちの自分から役にとりくむ姿勢がみられるようになってきた。

4. 実際の活動（練習）

(1) 毎日練習の時間を設け，終わると反省会を持った。「ペンギンのお母さんは子どもがけんかをしている時，知らん顔をしないで子どもの方を心配そうに見た方が良い。」「コール隊が言う時，声をそろえてよく言えるようになりました。」など話し合った。

(2) 「魚を作りました。食べ終わったら裏を見せてください。」と，新聞紙にアルミフォイルを巻き表裏に夜光塗料で絵を書いたものを持って来た。準備係（大・小道具）が生まれ，仕事を始めた。

(3) 照明係は大きめの懐中電燈を持って来て，用具を作り練習した。

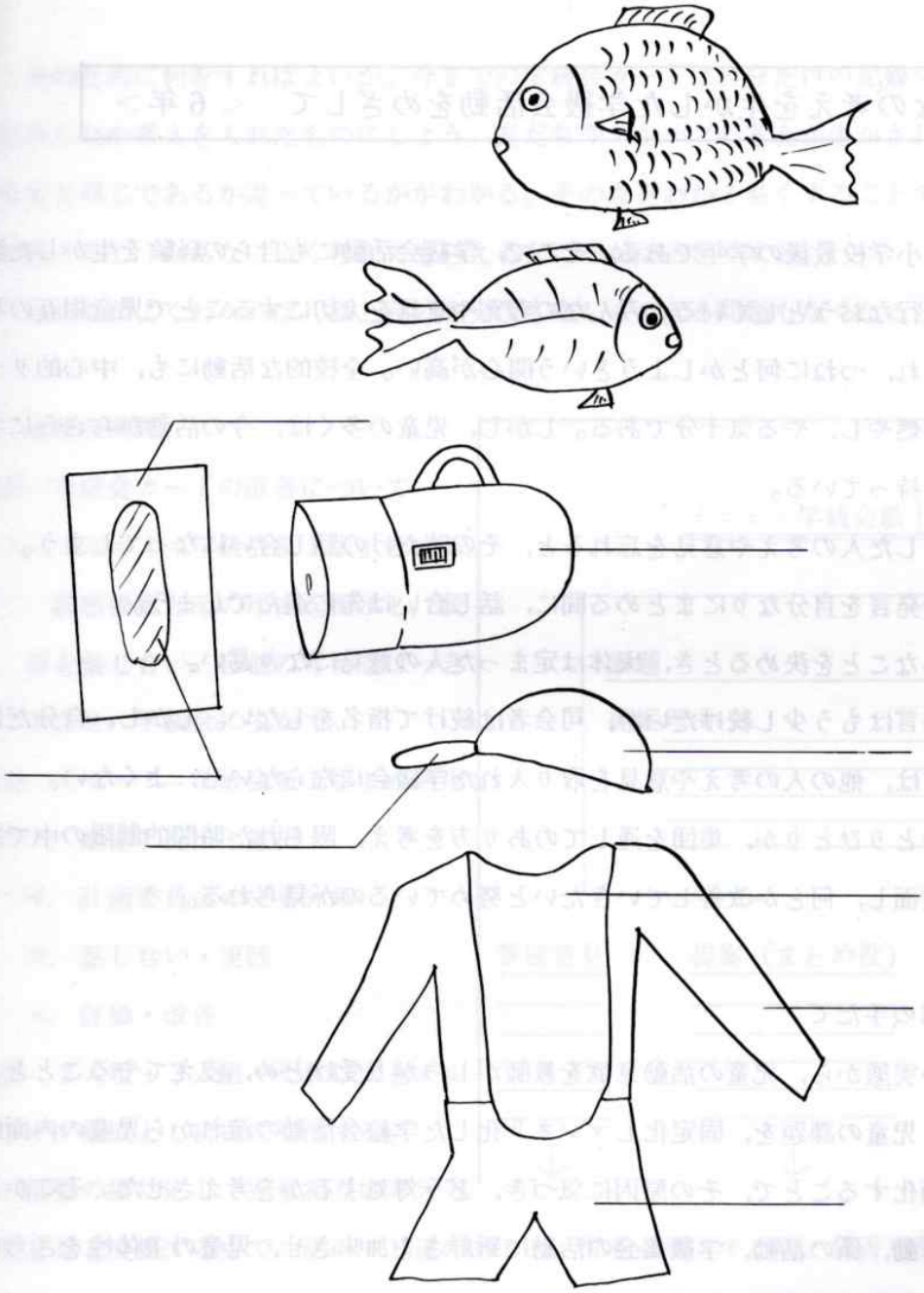
(4) 効果係は合唱の伴奏をカセットテープにふきこみ，反省会の時，合唱指導をした。水の音は風呂場でボールを落して，録音してきた。

(5) 11月に入って，衣装等を決めたいので『学芸会の準備をしよう』の話し合いをした。係からのお願い，係へのお願い，反省などを含めた。いよいよ学芸会が近くなったせいか，毎日の練習で改善されていない点，目にみえてよくなったことが，どんどん出てきて，真剣に討論しあっていた。うなづく姿，自信を持つ姿がみられた。

(6) 衣装は「家にあるもので色はみんなで考えよう。」

「ペンギンや熊は頭に何かかぶろう。」「少年や少女はリックサックや水筒を持って冒険に来た感じを出したい。」など，アイデアがどんどんでてきた。

家から持ってきた子から衣装をつけて練習し，そこでもう一度考え，改めたりしながら決まっていった。



5. 反　省

当日は児童・父母共に講堂に笑いのうずがおき，大喝采を受けた。「学級の楽しさをわかってもらえた。学級が1つになって自分たちで考え，協力しあって1つのことをしたことは「これからの学級のためによかった。」と感想文に書いている子が多かった。教師の心配をよそに，全員がのびやかに，楽しげに，自主的に取り組んでいた。学習時にも発表の少なかった子が自信を持って言う姿を見て，「なすことによって学ぶ」という意味がわかったような気がする。

みんなの考えを生かした学級会活動をめざして　＜6年＞

1. 学級の実態

本学級は，小学校最後の学年である。そこで，学級会活動にも自らの経験を生かした活動を積極的に行なおうとしている。みんなの考えや意見を大切にすることで児童相互の和と協力が生まれ，つねに何とかしようという関心が高い。全校的な活動にも，中心的リーダーに意欲を燃やし，やる気十分である。しかし，児童の多くは，今の活動からさらに多くの問題点を持っている。

- 前に発言した人の考えや意見を忘れると，その時だけの話し合いになってしまう。
- みんなの発言を自分なりにまとめる間に，話し合いは先に進んでしまう。
- いろいろなことを決めるとき，大体は定まった人の意見になり易い。
- 自分の発言はもう少し続けたいが，司会者は続けて指名をしない。しかし，自分だけの多い発言は，他の人の考えや意見を取り入れた学級会にならないし，よくない。

など，児童ひとりひとりが，集団を通してのあり方を考え，限られた時間的制限の中で新しい課題に直面し，何とか改善していきたいと努めているのが見られる。

2. 教師の指導の手だて

この学級の実態から，児童の活動意欲を教師がしっかり受けとめ，支えてやることとした。そこで，児童の課題を，固定化しマンネリ化した学絵会活動の流れから児童の内面的な感動を表面化することで，その原因に気づき，どう対処するかを考えさせた。そこから話し合いの活動，係の活動，学級集会の活動に新鮮さを加味させ，児童の主体性をさらに高めていくこととし，児童との話し合いを深めていった。

3. 子どもの発想

子どもたちとの話し合いでは，事前に議題に対する共通意識がはかられないために，何をどうするかの方向がなく，話し合いが混乱し，学級会がつまらないものになっている。

そこで，今までのような議題の決め方，学級会の進め方の立案・計画，提案理由等を改める。特に，提案者は，提案理由を自分の考えや意見をもっとはっきりさせる。会を進める人は，その提案の事実をしっかりわかっているようにする。そうすれば，自分たちの問題としていることが解決されるという考え方で実際にやってみようということになった。

そのために何をすればよいか。今までの学級会カードは自分だけの記録であった。これをみんなの考えを入れたものにしよう。友だちやグループの考えが生かされるし，自分の考えと同じであるか違っているかがわかる。その点をわかり易くすることで，自分に自信が持てるし，みんなによく考えてもらえるところがはっきりする。

みんながよくわかれば，話し合いや実践も楽しくできる問題もなくなると話し合った。

4. 活動の実際

(1) 学級会カードの改善について

「ミニミニ学級会紙上版」とする。

議題提案とその理由を提示し，賛否を論じ合い，自他の考えをはっきりさせ，学級会に生かす。

(2) 「ミニミニ学級会紙上版」の活用

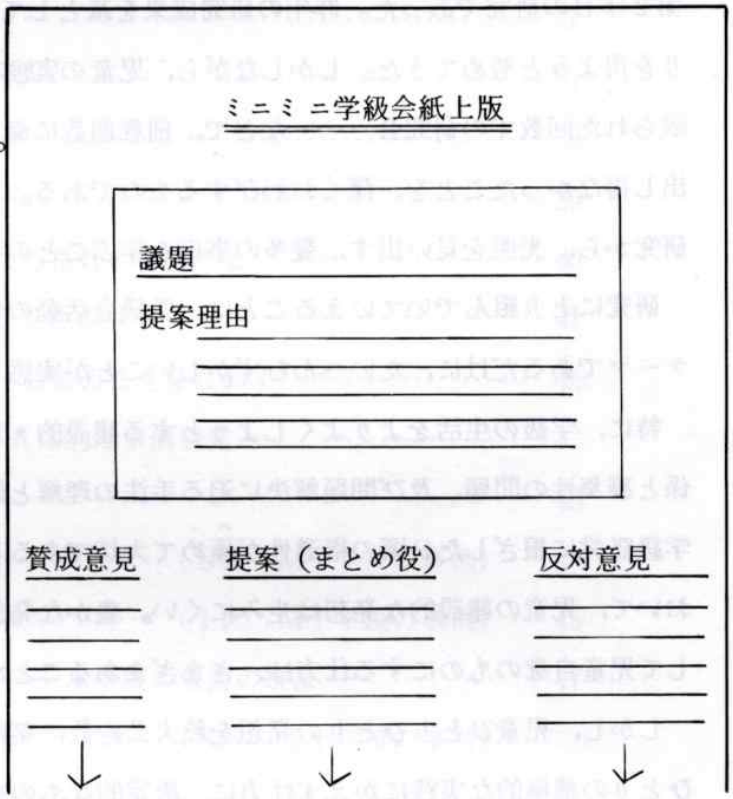
ア．議題の提出・選択

イ．計画委員会の立案計画

ウ．話し合い・実践

エ．評価・改善

(3) 2人粗・3人組・それ以上をグループ編成とし自由に交流する。



活動の場に応じ，児童相互の考え方や意見を交換する中で，話のすじ道のあり方，間を必要とする場，賛否を深める。司会者の技術を身につける。新たな話し合いの流れを生み出すなど，子どもたちの障害が除々ではあるが取り除かれている。学級の全児童が「楽しい活動」を次回を待っている。

5. 反　省

子どもたちは，「ミニミニ学級会紙上版」を通じて，「人はだれでもひとつはいい考えを持っているものだ。」といい，人と人とのふれ合いのすばらしさを発見した。学級会活動は心の底からの真実を反映するとき，どんな小さな問題も大切に扱い相互の人間性を高めることが芽ばえる。今まで「自分の意見が言えない」という子どもの声がみんなの話し合いに生かされ，学級会活動の流れが変わりつつある。何か相談することがあれば輪がで

きグループを作れば仲間の協調が生まれるなど，子どもたちは大きく成長している。

しかし，子どもたちは，また新たな問題点を発見し課題を持っている。つねに，昨年の子どもの姿が今日にないような新しい学級会活動の研究を心がけていきたいと考えている。

4. 研究の反省と今後の課題

テーマ「児童ひとりひとりの発想を生かし，楽しく充実した学級会活動のあり方」について第2年目の研究であった。昨年の研究成果を基として，更に深く究め，指導上何らかの手がかりを得ようと努めてきた。しかしながら，児童の実態のちがい，私たち教師の勉強不足，それに限られた回数での研究会…… などで，創意創造に満ちあふれた効果的な，一般性ある結論の出し得なかったことを，深くおわびするものである。ただ，多くの会員による指導実践と授業研究から，光明を見い出す，幾多の事例を学ぶことのできたことを幸いとしている。

研究にとり組んでいていえることは，学級会活動の特性，いや生命にすらかかわる究極的なテーマであるだけに，たいへんむずかしいことが実感としてとらえられた。

特に，学級の生活をよりよくしようとする建設的・意欲的な意識づけの問題，学級の人間関係と凝集性の問題，及び問題解決に迫る手法の理解と経験の問題，時と場の問題等，各学級の学級経営に根ざした日頃の指導性が極めて大切であることが，痛い程わかってきた。放任しておいて，児童の建設的な発想は生みにくい。豊かな発想を育てる指導の手だてと，それを生かして児童自身のものにする仕方は，さまざまあることが理解されたのである。

しかし，児童ひとりひとりの発想を最大公約数に集約して全体のものにすることや，ひとりひとりの積極的な実践にかえす仕方に，決定的なものを見い出すにはいたらなかった。もっとも，児童がちがい学級がちがうことで，一般化が極めてむずかしいことは確かである。

そこで，今後更に次のような課題が考えられる。

① 多くの実践活動事例を集め，統計処理などを試み，一般的な指導法を見い出す。

② 学級会活動に対する理解を深め合い，教師自身が豊かな発想を生むようにする。

③ 時と場を確保するために，教育課程編成の工夫や学校運営の工夫をする。

終りにあたって，多用な校務の中で，終始熱心に研究を進めてくださった先生方に心から敬意を表したい。更に，講師としてご指導いただいた奥宣校長先生，そして積極的に全体のお世話と会場を提供してくださった 今川小学校の白井校長先生，村田教頭先生，松元先生をはじめ，諸先生方には感謝の念にたえない。

Ⅱ 児 童 会 活 動

テーマ　「楽しく充実した委員会活動をめざして」

— 委員会活動で何を育てるか —

1. 研究の視点 …… 37

(1) はじめに …… 37

(2) 研究の基調 …… 37

(3) 研究へのとりくみ方 …… 38

2. 研究の基本構想 …… 39

(1) 委員会活動は豊かな人間性を育てる格好の場である …… 40

(2) 教師の発想の転換が子どもの発想を生かす …… 41

(3) ゆとりの時間を生かし活動内容・活動方法を見なおす …… 42

3. 委員会活動の現状の問題点　— 具体的な事例研究 —　…… 43

(1) 委員会活動の問題点 …… 43

(2) 実践事例（計画委員会）…… （S区　M小学校の事例）… 43

(3) 実践事例（集合委員会）…… （I区　M小学校の事例）… 45

4. 自治的な委員会活動をめざして　— 本年度の仮説の検証 —　…… 47

（S区　S小学校の事例）

5. これからの委員会活動のあり方 …… 53

(1) 小規模校の委員会活動 …… （M区　T小学校の事例）… 53

(2) 月に1回委員会活動を実施している学校 … （B区　S小学校の事例）… 54

(3) 月に2回委員会活動を実施している学校 … （N区　A小学校の事例）… 55

6. 研究の成果と今後の課題 …… 57

コ　ラ　ム

1. シラケの意識をどうとらえる？　36

2. 活動の活発化を図る手だてとして（ある学校の放談会から）　37

3. 組織づくりのくふう（特に委員会活動に，移行期を）　48

4. 業間休みの子どもの対話（落葉焼き？）　50

5. 美しきニューフェイスの声より　56

○ 研究の経過

53. 6. 8（木）	総会後，組織づくり，研究主題の検討
53. 6. 27（火）	研究の方向づけ（問題点の洗い出し），テーマの設定
53. 9. 19（火）	委員会活動の必要性とその育て方について検討
53. 10. 19（木）	授業研究の視点検討　仮説の設定
53. 11. 22（水）	委員会活動の授業研究 ── 本年度の仮説の検証 ── （新宿区立落合第四小学校）
53. 12. 12（火）	望ましい委員会活動のあり方について再検討 ── 子どもの発想を生かした，自発・自治的委員会活動の展開
54. 1. 16（火）	執筆プロットの検討，執筆・発表分担の決定
54. 1. 26（金）	集録内容・集録原稿の内容検討
54. 2. 17（土）	発表の準備，打ち合わせ

研究・執筆者名簿

部　長	渡辺　寿	練　馬・開進三小		石岡　勝彦	江　東・三砂町小
副部長	星野　隆治	中　野・桃園三小		渡辺　弦	世田谷・奥沢小
〃（司会）	米本　滋雄	葛　飾・葛飾小		中川　健二	世田谷・山野小
〃	小川　進一	新　宿・西戸山小	（発表者）	網　保夫	世田谷・松原小
	吉田　了	千代田・西神田小		有村　久春	中　野・新井小
（記録）	吉仲ミチ子	千代田・九段小	（記録）	藤田　俊範	豊　島・千早小
	島津　匡雄	中　央・月島一小		嶋根　弘子	板　橋・高島五小
	斉藤　晴光	港　・高輪台小		渡辺　史朗	板　橋・中台小
	大立目恵子	港　・竹芝小	（司会）	神戸　のぶ	練　馬・下石神井小
（発表者）	河野　紀之	新　宿・落合四小		日高　俊郎	三　鷹・三鷹五小
	岡田　豊人	新　宿・淀橋二小		藤平　洋子	昭　島・昭島東小
（発表者）	池田　令子	文　京・千駄木小		山本　展子	小金井・小金井四小
	宮下　花子	台　東・西町小		鈴木　子	小金井・小金井四小
	鈴木　順子	墨　田・中和小		森田　善朗	清　瀬・清瀬八小

1. 研　究　の　視　点

(1) はじめに

新しい教育課程の実施に向け，今各校では「人間性豊かな児童生徒の育成」に果たす特別活動の重要性が見直されていることは言及するまでもあるまい。

しかし，特別活動が教育課程に位置づけられてから二十余年が経過する現在，なおそれらの特質が生かされないまま，形式的に実施されている学校が少なからず見られることは否定できない事実である。その原因については，これまでいろいろとりざたされてきたことであるが，その根底にある要因は，「特別活動で何を育てるか」といった，最も素朴で本質的な指導者自身の自己への問いかけの不足にあったと言ってもよかろう。今回の改訂で，各校の創意を生かした教育課程の編成・実施が，一層強調されている時機だけに，この問いかけは，学校教育の目標達成のために欠くことのできない基本構想の原点としなければならない。

都特活児童会活動研究部では，ここ数年来「子どもの側に立って見直す委員会活動」を研究視点の柱とし，「どこででも，だれにでも実践可能な研究資料を」をめざして研究を積み重ねてきた。今年度は，特別活動の基本的性格を明らかにすべく「委員会活動で何を育てるか」といった本質論を堀りおこしながら，これまでの研究路線をさらに推進し，現場に役だつ実践事例研究をねらいとするものである。

(2) 研究の基調

現場にはあまりにも多くの問題が山積しているだけに，研究の焦点化に苦慮する。今年度は次のような研究の基調を設け，研究の方向づけとした。

① 新教育課程の思想をふまえ，学校教育の全体構想のなかで児童会活動をどのように意義づけ，役わりを果たすべきかをふまえながら研究をすすめる。

―― 学校の教育目標の具現化と委員会活動とのかかわりを中心に ――

② 子どもの側に立ち，子どもの発達段階の実態や意識の流れなどを的確におさえ，それらをもとに，指導や助言のあり方を考え直す。

めあての持たせ方，活動内容，活動方法のあり方，時間のとり方，教師の共通理解の方法などについて研究の視点をあててみる。

―― 子どもの発想をどのように生かし，自発的な活動をどう展開させたらよいか ――

③ 今までの研究成果で，十分でなかった点に焦点をあて，各学校・各地域の実態に即した仮設を実証するといった方法で，少しでも問題点を明らかにしていく。

―学校規模・諸条件のちがいのなかで，委員会活動をどのように運営したらよいか―

④ 高水準の研究を求めるものでなくてもよい。各学校の実践をもとに，当面する問題や悩みを解決し，子どもたちの学校生活への喜びや生きがいを高めるにはどうしたらよいか十分な検討を図り，どこの学校にも役だつ研究を残す。

(3) 研究へのとりくみ方

研究主題を追求するにあたっては，次のような手順を考え取りくんでいくこととした。

① 研究テーマの解釈と研究の基本構想についての検討

・ 特にサブテーマ「委員会で何を育てるか」という委員会活動の意義論を研究の原点にすえ，「何をどのようにしたら」という視点から仮説を立てる。

② 仮説に基づき，委員会活動現状の問題点を究明する。

・ 具体的な事例分析を通し，ねらいのおき方，活動内容，活動方法，時間のとり方，指導者の意識等の問題要因を明らかにする。

③ 自発的・自治的な委員会活動のあり方をめざして

・ 望ましい委員会活動のあり方をめざして，仮説に基づく授業研究の検証と考察

④ これからの委員会活動のあり方

・ いろいろな学校規模や教育課程編成上のちがいのある学校で，この移行期にどのような委員会活動の展開が考えられるか試案を出す。

⑤ 研究の反省と今後の課題

―コラム1　シラケの意識をどうとらえる？―

移行期の2年めに向けて，委員会活動の改善を図る資料にと，ある学校で次のようなアンケートを全対象児童に実施してみました。

▶設問　「もっと楽しく充実した学校にするために，今後委員会活動をどのようにしたらよいと思いますか。いちばんぴったりするもの一つを選んでください。

(委員会活動に対する子どもの意識調査から)

(ア) 委員会活動の時間をもっとふやす必要がある …… 31％

(イ) 活動の内容をもっとくふうしなければならない …… 59％

(ウ) 委員会活動はあまり必要とは思わないので，やめにする …… 10％

それぞれの学校での活動の実態によって，多少数値の移動はあるでしょうが，それにしても(ウ)のようなシラケの意識の傾向が増えている現状を放置しておくわけにはいきません。学校ぐるみで，改めて「委員会活動で何を育てるか」のきびしい問い直しが必要です。

2　研究の基本構想

われわれは，3年間楽しく充実した委員会活動をめざして，研究をつみ重ねてきた。子ども達の生の声を聞き出し，子ども達が何を考え何を求めているのかをさぐって，指導の手だてを講じてきた。しかし，実践しながら，常に立ちはだかる問題点は多い。

コラム2　活動の活発化を図る手だてとして
（ある学校の放談会から）

A　「活発ということは，時間をかけてやることではなく，子どもたちがいかに自発的・自治的に創意ある活動を営んでいるかということにつきるのでは。」

B　「しかし，現実には子どもたちの発想が乏しく，活動全体が受動的であるわけですがその原因として，学校運営上必要とされ，くみこまれている補助的な活動が主流を占めているからだと思うのですが。委員会独自の自主的な活動と分離してあげたほうがよいのではないでしょうか。」

C　「委員会の常時活動の場面一つを見ても，学校の諸行事諸活動のあい間をぬって行われている。子どもたちにも指導者にもゆとりの時間が感じられない。活動時間の保障が特に大切だと思う。」

D　「強引にひきずる担当者と，反対にあなたまかせの担当者とが見られるようです。又一般に，指導者側に年間を通した指導の見通しの不足を感じさせますが，年間の指導計画を持ち，計画的な指導，助言が行われるようにしたいものですね。」

E　「委員会を担当してみると，各学級での差のようなものを感じるのですが，委員会活動を質的に高めるための基盤は，低，中学年での係活動の指導によって培われると考えられる。低，中，高と一貫した学級での指導のもとで，子どもたちの質を高めておくことが，委員会活動の活発化の決め手となっているのではないでしょうか。」

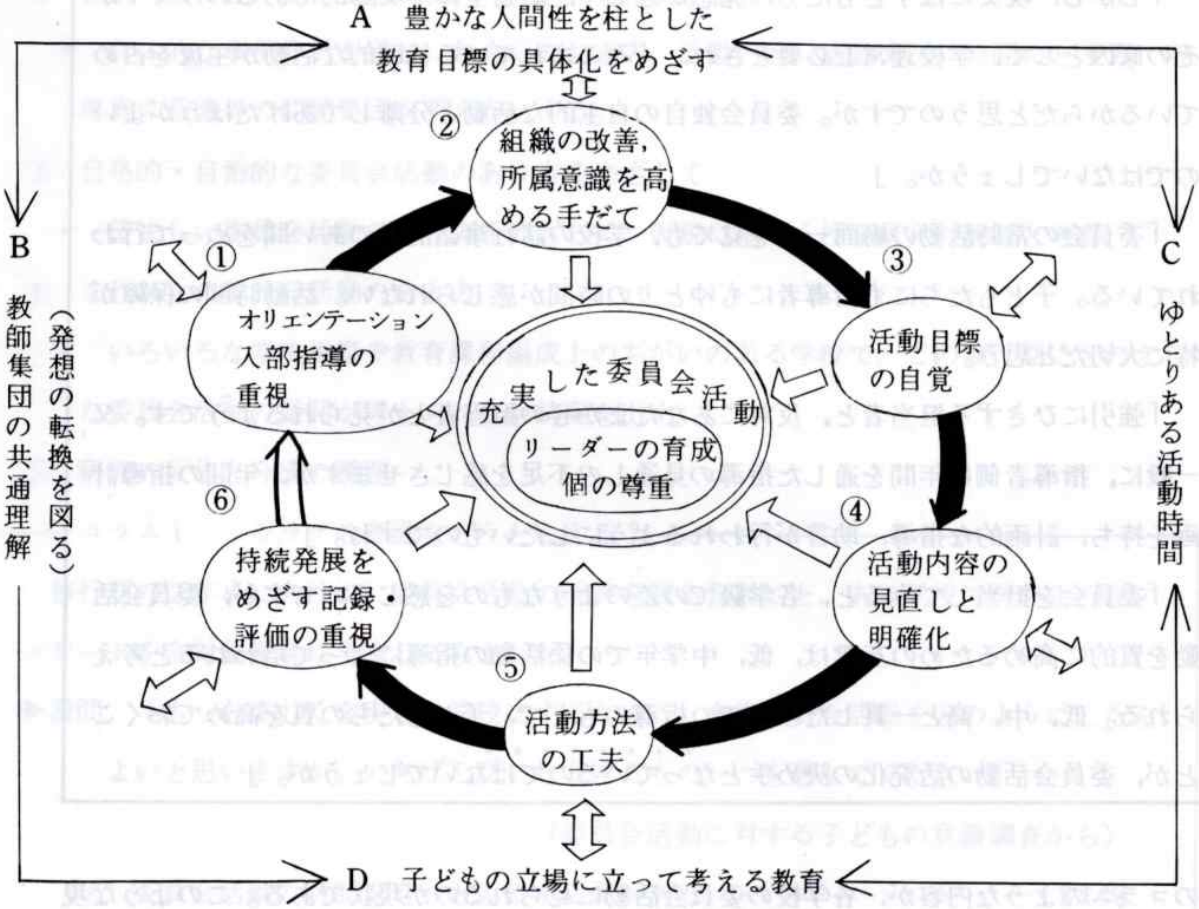
上記のコラムのような内容が，各学校の委員会活動に見られるのが現状である。このような現状の打開に大きな光明となったのが，新教育課程の改善策であった。答申の主旨は，われわれが3年間研究してきて，つき当った根本の問題，「なぜ，委員会活動をするのか」「どんな教育的意義があるのか」という，命題に対して，「豊かな人間性の育成」という指針を与えてくれた。また，「時間を確保したい」という願いに対しては，「ゆとりと充実」ということで，時間確保の見通しがついた。しかし，その学校で委員会活動に時間を確保するかどうかの保証

はない。今まで通り，月１回の定例委員会の時間しか確保されないかも知れないし，月２回に増加されるかも知れない。そこで『月１回の委員会活動と月２回の委員会活動では，子どもの発意や発想の生かされる度合，活動内容等にどれくらいの違いがあるのか』を分析することによって，新教育課程になった時の，とるべき方向が打ち出せるのではないかと予想した。

委員会活動の現状ということで，具体的事例研究を進める一方，自治的活動をめざして，月２回の委員会活動を展開している，新宿区立落合第四小学校に，授業研究の場を求めた。また小規模校での実践のようすにもメスを入れた。

基本的には，問題の視点を，次の図のようにとらえて，研究をすすめた。

楽しく充実した委員会活動をめざして



(1)　委員会活動は豊かな人間性を育てる格好の場である。

今回の教育課程の改善の基本方針の大きな柱は，「人間性豊かな児童生徒を育てる」ということである。人間性豊かな児童生徒とは，人間にしか持ち得ない，次のような特性をそなえた児童生徒として，おさえてみた。

①　自主性・自律性（自分からよく考え，しなければならないことは実行し，してはならな

いことは自らやめる。取り組んだことについては，責任を持つ特性)

② 創造性（新たな価値をつくり出していく力。今までの習慣のものでは満足できず，新たな取り組みをしていく特性)

③ 感受性（豊かな情操。これがなくしては，人間が人間として存在しない特性)

④ 協働性（一人で働くのではなく，大勢の人が一緒になって仕事をする特性)

委員会活動は，その特質から豊かな人間性を育てる格好の場である。各学校にあっては，教育目標の達成をめざし，特別活動の全体計画を立て「特に委員会活動で，何を育てるのか」「何に重点をかけるのか」，十分な共通理解の上に立って委員会活動を実施していくべきである。

委員会活動が，その学校の教育目標を達成するのに，非常に大切な働きをするという共通理解がなされたとき，委員会活動を充実するには，どうしたらよいかという真剣な討議がなされるであろう。その場合，子どもの立場に立って発想を生かすには，どうしたらよいか，自治的活動が行なわれるには，どう指導助言していったらよいか。委員会活動には，どれだけの時間が確保されるべきか。などについて検討が加えられ，充実した委員会活動が展開されるように配慮されるべきである。そして，その学校では，委員会活動を核として，教科と領域の働きの相乗効果で，人間性豊かな児童が育成されることになるであろう。

(2) 教師の発想の転換が子どもの発想を生かす

一昨年，児童活動部が行なった実態調査で，各校に設置されている委員会には，どんなものがあるかわかった。「集会・飼育・栽培・放送・新聞・保健・図書・給食・体育・美化（整美)・生活（安全）などである。」

しかし，名前は同じでも，どんな考えで，その委員会が運営されているか。どんな活動をしているかは，学校によって，また担当者によって非常に大きな開きがある。子どもの立場に立ち，子どもの発意を大切にした方向に全教師の目を向けていきたい。

委員会活動は，学校の中でも一部の特活の好きな人がやっているもので自分には，関係がないという顔をしている先生が多く，学校全体に特活が浸透しない大きな障害となっている。現場では，教えること，奉仕させること，という観念をぬぐい去れない人，また，性格上子どものやることを待っていられない人，子どもにまかせられない人，等々，子どもの自治的活動に拒否反応を示めす先生が多い。特別活動には教科書がない。それだけに，「特活勉強会」という名で講師を招いて共通理解をはかったり，新教育課程の研究会を開いたりして，「主体は児童なのである」「自発的・自治的活動を通して児童を育てる。」このような意義をわかり合うための校内研修会を現場で持ちたいものである。

— A校の校内研修会の例 —

年間3回「特活勉強会」をもった。1回について約2時間である。あるときは特別活動の本質，委員会活動の本質について，あるときは，各委員会担当者から指導の現状，指導上の悩みなどが出されて話し合いをもった。担当外の教師から，「放送委員会は，いつも同じレコードをかけ，同じテープの話をかけている。もう少し内容に工夫を加わえたらどうか。」という意見が出された。

一方的に放送を流している感がつよいので，もっと全校の児童と血の通った活動にもっていくことが何より大切ではないかということになった。担当者は，さっそく次回の委員会活動の時間に問題をなげかけた。子どもたちは，問題を真剣に受け止め，話し合いをもった結果，放送委員会の役割の見直し，目標づくりが行われ，その後の放送内容は，児童会活動ニュースを中心に，学級めぐり，作文紹介，のど自慢大会など，充実した楽しい内容になっていった。

(3) ゆとりの時間を生かし，活動内容・活動方法を見直す

① 活動目標の自覚と活動内容

自分の所属した委員会は，だれのために，どんな活動をしていくのか，このことを児童自身に考えさせ，自分の委員会の活動のめあてを作らせることが大切である。これが活動の柱となり，活動内容が生まれ，活動の計画が立てられ，グループづくりがなされる。多くは，自分の委員会の活動のねらい，全校児童の○○のために活動するのだという基本の押さえが児童自身に出来ていないので，グループ編成時や活動時にわがままや不満のみが出る結果になり，活動に活気が出ないのである。全校児童と血の通った活動を常に考え，そのことを織り込んだ実施計画をたてるようにさせたい。また，活動の段階では，常に全校児童の声を聞きながら，その声を生かしていくように指導したいものである。

② 活動を豊かにするための指導計画と実施計画づくり

だれがどの委員会を担当してもその委員会を指導できる指導計画を学校として作成しておくことが必要である。当該委員会の指導目標，予想される活動，指導上の留意事項を盛り込み，予想される活動については，担当以外の意見も入れ補充するようにしたい。このことは児童側にとっても言えることで，実施計画を立て，実施記録をとった後，次年度へ申し送り事項として記録にとどめ，次年度の実施計画を立てる際の資料として活用する。教師は，綿密な指導計画を用意し，実施計画の立案に共に加わり，助言を与えるようにする。

③ 活動時間の確保とゆとりある活動過程（略）

3. 委員会活動の現状の問題点

(1) 委員会活動の問題点

人間性回復がさけばれている現在，特別活動の果たす役割が大きいことは周知の事実である。にもかかわらず，教科にくらべると軽視される傾向にあることは否めない事実であろう。それには種々な要因が考えられるであろうが，その根源をなすものは教師の特活に対する意識の低さと物理的条件の不備（時間の保障も含む）ではないだろうか。特別活動の中にあっても，学級会活動は学級が単位であり時間の保障もされ物理的条件に問題がないため，実施上の問題は少ないが，委員会活動においては時間的保障はほぼ月１回程度であり，常時活動の時間的保障はなく，そのメンバーは，他学級，他学年の集団であるため，必然的にその活動にも，指導にも，困難さが生じてくる。

以上のように，委員会活動の問題点はまず物理的条件の整備で，それは，教師や学校がその気にさえなれば解決できる問題である。５５年度の新教育課程にむけて十分検討し，最低限度，活動が十分におこなえるような措置を構じる必要があろう。

(2) 実践事例―計画委員会（Ｓ区Ｍ校）

① 計画委員会設置の理由

○委員会活動の一つとしなければ全校一律の時間的保障がなく，休み時間や，放課後となり集まり具合もわるく活動が円滑に進まない。

○全委員会が一斉に活動しているので連絡等もとりやすい。

② 計画委員会のめあて

○代表委員会が円滑にすすむようその計画運営にあたる。

○全校集会や，生活問題解決のための原案作成にあたる。

③ 主な活動内容

○議題の集収 ― 議題箱，各学年担当者の児童からのききとり。

○議題の選定 ― 選定及びその後の処理

○代表委員会の議事進行計画

○代表委員会提出議題についての計画，委員会原案の作成

○計画委員会だよりの発行

○議事進行（議長，副議長，書記）　委員会原案の提示

○全校集会（大集会）の時の運営

④ 活動時間のとり方

○毎月第1木曜6校時 ― 話し合いや計画が中心。

○その他に毎週月曜放課後を活動日 ― 議題の集収，計画委員会だよりの配布，その他

⑤ 児童の組織と役割分担

○五六年の各学級より計画委員を1名選出（五六年とも五学級）合計10名の委員より構成される。

○計画委員はAグループとBグループの2グループに分かれ，議長団グループと原案提案グループを交互におこなう。

⑥ 担当者

○代表委員会に直接関係があるので4～6年の各学年から1名ずつ担当する。

⑦ 活動の実際と問題点

○全校児童会の中心になる委員会だけにやりがいがある仕事ではあるが，それだけに，活動内容も他の委員会とはちがい，作業より，計画や運営方法の検討ということが，主になるため，児童にとってはあまり楽しくないということがないか。

○計画委員会が，委員会の一つとして組まれているため，計画委員に選出されたものは，他の委員会に属せないという不満はないか。

○児童に委員として全校児童をリードするという自覚に欠けることがないか。

○活動内容が多い上，活動時間が少ないため，下校時間がおそくなるとか，臨時の会合が，多くなるということがないか。

○計画が不十分だったため，代表委員会が，円滑に進まず，時間の延長はないか。

○計画委員会の段階で，集会や生活上の問題についてその原案や，解決策まで話し合うため，代表委員会では，計画委員会の独壇場となり，他の委員は聞き役や，賛否の挙手だけにおわることはないか，全体的なもりあがりにかけることはないか。

○教師の意識の中に，結果重視の傾向はみられないか。

⑧ まとめ

○最後に委員会活動をもりあげるためには ― 児童のやる気（自分たちの学校は自分たちでよくしよう）とそれを育てる教師のやる気。やる気を持続させるための，十分な時間の保障，結果よりも，やっている活動そのものを重視する。教師の目が大変，重要であることを付記しておきたい。

□ 委員会活動のねらい

学校生活の諸問題を，児童が同じ集団の成員として互いに尊重し合いながら協力して活動が展開できるように組織化する。

○ 児童の自発的・自治的な活動を通して，年間の計画・目標にそって，自主的実践的な態度を育てる。

(3) 実践事例 〔集会委員会 Ⅰ区 M校 児童数 1,060名 集会委員数 36名〕

委員会活動のすべてに，問題点は数え切れない程ある。中でも，時間的な保障は少ない。ここでは，特に全校児童の交流の場を作り，節分などの季節の行事を生かしてより楽しい学校生活を送る努力を続けている集会委員会を例として提示し，上記委員会活動のねらいに迫る問題点を考えてみたい。

○ 第1週 〔水曜音楽朝会，体育館への引率・整列・司会は集会委員，指導は担当教師〕

・誕生集会（金曜の朝，20分間。1班9名が主として分担する。）

4月の誕生を祝われる該当児童と教師は約120名。この準備は，①全校児童名簿から4月生まれの児童をピックアップする。②祝われる児童にかぶらせる王冠120個の製作。③該当児童を集めて当日の並び方とあいさつの練習をさせる。④集会委員の当日の司会・進行・整列（コの字型）の世話をする。

○ 第2週 〔水曜体育朝会，校庭への整列・司会・道具の予告集会委員，指導は教師〕

・発表集会（金曜朝20分間。2班9名の分担）

①委員会の紹介 ②遠足などの報告 ③クラブだよりなど，年間計画にそって，それぞれに連絡し，練習に立ち合うなどする。

○ 第3週 〔水曜音楽朝会……第1週に同じ〕

・学年集会（金曜朝20分間。3班9名とその学年の担当教師の分担）

①学級だよりの内容の確かめ，②学年集会の会場の確認，③学年相互の連絡調整による全校対象か，分散形式かの確かめ。

○ 第4週 〔水曜体育朝会……第2週に同じ〕

・たのしみ集会 （金曜朝20分間。4班9名の分担）

①全校ゲームや，全校ダンスなど月毎の内容を決める。②事前の予告・事後のアンケート整理。③福笑いなどゲーム用品を作る。④各教室へ事前にダンスなどを教えに行く。⑤司会・進行のリハーサルをしておき，当日まごつかないようにする。

ア　活動内容に対して時間の保障が少なすぎることについて

第1週から第4週までの短時間集会のほかに，〔 〕内の音楽・体育朝会の補助も集会委員の児童が長年続けている。発足当時は，音楽も体育も児童が主役の集会だったので，この世話を打ち切ることは困難という家庭の事情もある。

しかし，これら1ヶ月間の活動すべてに対して与えられた時間は，1単位時間（第1木曜6校時）のみである。たった1時間の委員会活動の時間の中で，内容を決め，係り分担を確かめ，プリントを作ることまではできる。習慣として身についているからである。

委員達は，分担した仕事を業間休み・放課後を殆んど休みなしに使ってこなしている。担当教師も，給食を配る時間に司会の児童を呼んで，練習の手順を打ち合わせたりとにかく忙しい。「集会に追いかけられていやになった。」と言い出す教師もいないではない。

これらは，活動内容に対して時間の保障が少なすぎることから起きたひずみである。せっかく子どもが何年間にもわたってつみ上げた実践活動を打ち切るよりは，教育課程にもっと委員会活動の時間を増設した方が望ましいのではなかろうか。週1回をゆとりの時間としてとり，子どもの必要に応じた活動をさせる。委員会でも，自由研究でも子どもの成長には同じプラスがあると考えている。

イ　その他の問題について

教師の指導組織は，大規模校ゆえに却って弱点が多い。各学年1名ずつ6名で担当した年は，船頭多くして舟山へ登る状態になったし，3人に減らしても働くのはたった1人だったりした。これらは，教師自身の意識の低さが問題として問われよう。子どもにまかせておけば，子どもは勝手に働いてくれる。子どもにやる力があるから安心などと，教師の手抜きを子どもにカバーされてはいないだろうか。成就感・満足感が把握できているのか。

伝統を見直し，子ども自らが深く考え正しく判断し実践し抜くことができる学校側の配慮をもう一度考えたい。そのためにも教師の緻密な指導と賞讃の方法を問いなおしたい。

①　子どものリーダーが，部員を傷つけたり，部員をリードできないでいはしないか。

②　子ども同志で，どのように悩みつまずき，どのように解決しているのか，その手順を教師があやまりなく把握できるてだては，今のままでいいのだろうか。

③　児童の実践活動コーナー（児童会室）などの整備充実と予算の裏付けはあるのか。

4. 自治的な委員会活動をめざして

―― 新宿区立落合第四小学校の実践 ――

本校は，昭和４５年来，教育計画を，教育課程と教育課程外のものとに明確化し，学校教育目標にせまってきた。

この中で，児童の自発的・自治的な実践活動を育てる児童会活動と，児童に経験させることにより教育的意義が認められる補助活動（管理・補助的な分野を組織化し，教育課程外に位置づけた）とを指導してきた。この間，若干の修正を加えつつ現在に至っている。

今回，都特活児童会活動部の皆様に，授業公開をいたし，さらに，本誌に発表させていただくなかで，皆様より御指導をいただき，さらに充実させていきたいと思う。

(1) 本校の児童会活動のねらい

○ 児童が自発的，自治的に学校生活に関する諸問題を取り上げ，自主的に話し合って解決できるようにさせる。

○ 学校内のしごとを分担処理していく意識をもたせ，楽しい充実した学校生活がおくれるようにさせる。

○ 児童の話し合いにより，必要に応じて種々の集会が計画的にもてるようにする。

(2) 児童会活動の内容

○ 委員会活動 （くわしくは次ページ）

学校内のしごとを分担処理して，学校全体がより楽しい豊かな集団生活であるための諸活動をする。

○ 集会の拡動

学校全体の児童が，より一層成員性を高め，楽しく生活するための集会を，自発的，自治的に計画し実践する。

今年度の集会（定例児童集会，一年生を迎える会，スポーツ集会，卒業生を送る会）

(3) 組 織・運 営

① ５，６年生全員で組織する。

② 期間は通年制 （役割の分担は自由）

③ 各委員会は，委員長１名，副委員長２名，書記２名をおき，その他必要に応じて，諸係を委員の互選により選出する。

本校の委員会活動の内容と実践

名称	活動のめあて	予想される活動
代表	学校生活をより楽しく豊かにするために話し合い，実践による解決をする推進母体となる。	・児童集会の計画と実践 ・学校生活に関する諸問題の処理 ・委員会活動の連絡・調整
新聞	学校生活に寄与する楽しい，有意義な報道の計画をたて，全校のための広報活動を行う。	・学校生活に寄与する新聞の発行 ・壁新聞・ガリ版新聞
放送	学校生活に寄与する校内放送の流動を計画し実践する。	・お昼の校内放送 ・機械の操作やアナウンスの練習 ・集会時の放送
読書	進んで読書に親しむように，読書活動を計画し実践する。	・読書傾向調査 ・読書週間の計画 ・朗読・読書コンクール
健康	健康を増進する諸活動を計画し実践する。	・保健衛生の知識向上のための実践活動 ・健康増進の行事等を計画・実践
運動	楽しい学校生活にする，スポーツダンス・遊び等の集会を計画し，実践する。	・校内スポーツ集会の計画・実践 ・運動やあそびの案内と世話
飼育	飼育舎の管理を行い，動物の飼育によって，楽しいふんいきを作り出す。	・動物の飼育を計画し実践する。 ・飼育舎の清掃管理・世話
栽培	植物を育てることを計画し，実践することによって，学校を美しくする活動を行う。	・栽培計画とその実践 ・はち植え，切り花をして，美化の計画をたて実践する。
美化	校舎内の掲示・展示活動を通して校舎内を美化する計画を立て実践する。	・校内美化の計画と実践 ・掲示・展示活動 ・美術作品の展示

活動場所	人　数	主　な　実　践　活　動	補助活動	仕事の内容
6 － 1 児童会室	28 (4)	・定例集会の計画（発表・ゲーム） ・掲示板の割り当て ・スポーツ集会の計画		
4 － 4 児童会室	36 (3)	・低，中，高学年新聞の発行と掲示	校内部	・下校放送 ・校章旗の掲揚，降納
5 － 1 放送室 視聴覚室	38 (4)	・校内放送の計画・実施（ニュース朗読，インタビュー，クイズ） ・集会の放送準備	技術部	・放送器具の取扱い（朝食・行事）
図書室	35 (3)	・ポスター作り ・しおり作り ・本の紹介	図書部	・図書の整理 ・購入登録・配架の手伝い
4 － 3 保健室	32 (3)	・健康新聞，ポスター作り ・歯みがき体操の発表 ・研究発表	保健部	・手洗い場の石けんの補充 ・保健室補助
1 － 1 体育館 校　庭	30 (3)	・スポーツ集会の種目の工夫 ・ポスター作り，新聞作り ・なわとびの工夫，なわとびの音楽	体育部	・運動用具手入れ ・遊び用具の配給 ・体育館・砂場
6 － 3 飼育舎	31 (3)	・にわとりの飼育 ・小屋のそうじ	給食部	・ワゴンの整とん ・残業調査の手伝い ・給食の手伝い
3 － 3 学校園	33 (3)	・花壇の手入れ ・たねまき ・花づくり	造園部	・学校園等施設の管理の補助（花だん作り・用具）
5 － 4 図工室	28 (3)	・ポスター作り ・手洗い，廊下の壁かざり作成	整備部	・おとしものの整理 ・軽備品の修理 ・清掃用具の点検

※（　）は指導者数

④ 原則として，毎月，第２・第４水曜５校時を固定時間とするが，各委員会の必要に応じて授業時間帯以外に随時活動ができるようにする。

⑤ 毎週土曜日の朝，１５分間を児童集会の時間とする。＜8：45～9：00＞

⑥ 定例の児童集会は，３年以上の児童が参加する。（低学年は教師の計画による集会）

⑦ 定例外の全校児童集会は，必要に応じて，昼休みにもできるが，児童活動として授業時に行う。＜年間の教育計画に，予測できる時間は設定しておく。＞

(4) 指導上の留意点

○ 話し合う問題が学校生活の範囲内で，児童の望ましい集団生活に密着した，児童にまかせられるものであり，児童によって解決処理のできる見通しのあるものを取上げ，指導助言しなければならない。

○ 指導では，常によりよい一員としてのぞみ，結論をおしつけることなく，児童の共同思考，実践の方向づけに努め，ささやかなものでもそれらの創意発想を育てるようにする。

○ 計画や実践を通して，教師の意図や学校経営，管理上のしごとをおしつけないように，課程外の補助活動（後述）との区別を明確にする。

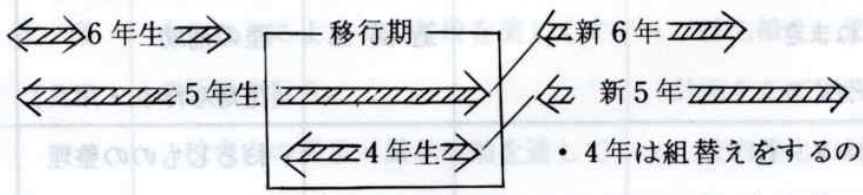
○ 全職員が共通理解をもって参加し，自治的活動に対しての励ましや，自発的活動への暖かい見守りや配慮が必要である。

○ 活動の発表の場が多くなるよう工夫させる。（児童集会，校内放送，掲示板など）

○ 人数が多いところは，グループで交替制をとるなど，ひとりひとりに何らかの活動の場があるように工夫させる。

コラム３　委員会活動に移行期を

６年生が卒業し，新学期が軌道にのるまで，委員会活動は途切れがちになる。しかし，この時期は，「６年生を送る会」や「一年の勧迎会」など全校集会や学校行事で児童会が活動する機会が多い。そこをスムーズに運営できるために移行期を設けた。



・４年は組替えをするので仮所属し，オリエンテーションの意味も兼ねる。・春休みも活動が続く。・６年の引退後，５年は慣れた委員会で責任をもって活動しはじめる。・６年は，お別れ会や文集作り，卒業式の練習に専念できる。・高学年の担任や特活担当の教師はゆとりをもって組織，編成できる。

◎ 本校の補助活動

(1) 位置づけ

教育課程外にあって経験させることにより教育的意義が認められる児童の諸活動のうち，管理的な分野を組織化し，適切な指導によってすすめる教育活動とする。

(2) 目　標

ア．勤労，奉仕，協調等の教育意義を，学校生活における経験を通して身につける。

イ．高学年児童が，全校児童のためになる諸活動をすることによって，高学年としての責任や自覚を高める。

ウ．補助的な活動を通して，学校の管理秩序的仕事に参加し，将来のための望ましい経験をさせる。

(3) 活動内容……別表参照

(4) 留意事項

ア．児童会活動の委員会活動との立場や位置づけ・ちがいを正しくおさえ，活動のねらいや内容において指怒の混同をさけ，自発的自治的活動を阻害しないように留意する。

(5) 組織の変化

発足当時は，6年生の中から希望を尊重して各部に所属させ，指導者は委員会担当と，補助活動担当とに分けた。現在は，委員会の組織を使って当番制にしている。

以上が，本校の委員会活動と補助活動の基本的な考えと実態である。この結果，指導者としては，委員会活動では何をなすべきかという点で，一応の成果を上げたと考える。これは，委員会活動に特別の意味をもたせたり，目新しいものをねらったりしたわけでなく，より児童活動のねらいにそうようにと考えてきたことによると思う。

◎ 読書委員会の実践例

「しおり作り」

(1) 活動のねらい

一年生にも本を楽しく読んでもらう。

(2) 活動予定

11月 8日……どんなしおりを作るか，グループごとに話し合い。したがき。

11月22日……しおり作成。

12月12日……完成，一年生の教室へくばる。

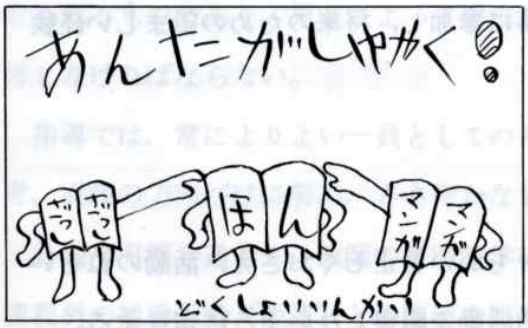
(3) 活動の実態

グループでどんなものを作るか，にぎやかに相談した。しおりにかくことばや絵は，テレビや漫画の中から取ったものが多かった。

作業は1人分が6～7枚だったが，グループ内で下絵をかく人，色づけをする人，文字を入れる人など分担したり，1人が1枚1枚を仕上げるなど，様々であったが，結構みんな楽しそうにやっていた。しかし，時間は予定をオーバーして，完成は1月になってしまった。

できあがったものは，一年生の各組（5学級）に40枚ずつくばった。

(4) 製作品の例



(5) 考　察

多くの図書委員会の仕事は，図書の貸し出し，返本の整理が中心になろうかと思われる。本活動は，二学期の計画で取り上げられたものであるが，児童の自発的創意としては評価してよいと考える。対象が1年ということで利用価値に問題があるが，委員会活動と低学年児童との結びつきという点では意味があったように思う。

コラム4　業間休みの子どもの対話

○「ねえ，この卵10円だったのよ。私，あっためてひよこにしたいわ。」

△「できるさ，飼育委員から買ったんだろ。理科委員にふ卵器を借りるといいよ。」

○「じゃあ，先生にお願いして見ようかしら。ああ，胸がどきどきする。」

△「それより，今日の落葉焼き見にこいよ，みんなさそってさ。」

○「ええ，楽しみにしてたのよ。栽培で作ったお芋を，集めた落葉で焼くんでしょ。でも，どんな味がするかしら？」

△「ぼくが作ったんだぞ。うまいはずだよ，きっと。」

○「わあって，おされたりしたらいやだわ。」

△「だいじょうぶ，今日は5年と3年の1組だけで焼く日だもの，3ヶ所に分かれて。」

○「わかったわ。またあとでね，私，この卵を何とかしなくちゃ……。」

5. これからの委員会活動のあり方

(1) 小規模校の委員会活動（M区，T小学校）

右表のように本校は超小規模校で，全校単級である。

1年	2年	3年	4年	5年	6年	(名) 計
18	20	22	16	24	16	116

4年生以上で委員会が行われるが，合計56名なので，委員会の数も6つと少ない。

委員会名＼学年	4年	5年	6年	(名) 計
飼　育	3	4	3	10
図　書	3	6	3	12
保　健	3	6	3	12
放　送	3	3	3	9
新　聞	2	3	2	7
集　会	2	2	2	6

時間数は，月1回と毎週金曜日朝の話し合いの時間（8時35分～8時50分）の15分が各担当教師のもとに行われるので，結果としては，月2回相当の時間が当てられている。（ここでの問題点は，担任教師が1～3年の場合，朝は，受け持ちクラスを自習にしなければならないという点である。）

年度は2期制で，10月にメンバー入れかえがある。

・ 小規模校のため委員会活動にプラスの面

① 2期制で3年間に6つの委員会すべてを経験できる。

② 5年では副委員長，6年で委員長，あるいは，児童会会長，副会長，書記などの役員を，ほとんどの児童が経験し，リーダーとしての自覚や資質が育ちやすい。

③ 下級生とのつながりが強くもてる。

・ 小規模校のため委員会活動にマイナスの面

① 小人数なので，全体的に意欲や活発さが欠ける。②なれあい的ふん囲気に流れる。

③ リーダーに必然的になるので，主体的に取り組む姿勢が欠ける。

プラス，マイナス両面あるが，小規模校では，一人一人に目が届くゆとりから，落着いた生活態度，丁寧さ，親切などという面が伸びるが，活発さ，発想の広がり，協同思考などの点で，今一つである。それらの点を伸長するために，特に特別活動の果たす役割が大きい。従来の義務的委員会活動ではなく，創造性を伸ばす委員会活動を目指していかなくてはならない。

＜創造性を伸ばすことのできた集会の例＞

集会委員会は，全校集会が比較的簡単にできるという小規模校の特色を生かし，月2回の児童集会を工夫してみた。より楽しい集会にするため全校アンケートも何回かとった。

○カルタ大会（集会委員の考えた画用紙カルタをとる。）　○ぶっつけおんぶ

○知力体力テスト（コースに算数問題をおき，正解と足の速さをきそう）　○借物競走など

(2) 月1回の委員会活動を行っている例　（B区　S校）

全都的にみて，委員会活動を月1回，定例で特設している学校は多い。本校も，従来からその方式をとってきた。毎月第1月曜日の第6校時が委員会活動の日である。大規模校であるから，5，6年生400名が11の委員会へ所属している。（35～40名平均）

特設の時間以外に随時，委員会ごとに常時活動をし，児童集会の時は（土曜の朝会）集会委員会や放送委員会が活動したり，業間や昼休み，放課後とさまざまである。しかし，しばしば問題にされているのは，連絡不十分であったり，共通の場での話し合いの少ないことである。委員会ごとに工夫したことのいくつかを例にあげると

① 役割分担の明確化（交替制）

多くの委員会で行われていることで，5，6年生が均等な3～4のグループに別れて，仕事を交替で分担する。

		第一週（定例）	第二週	第三週	第四週
新聞委員会	A班（低）	○問題点の話し合い	記事集め・反省	編集・清書	印刷・配布
	B〃（中）	○テーマ設定	印刷・配布	反省・取材	編集・清書
	C〃（高）	○分担の確認など	編集・清書	印刷・配布	反省・取材
図書委員会	A班	図書の貸し出し（月曜昼休み）	返却本の整理（月・木 昼休み）	図書の貸し出し（木曜昼休み）	本の修理，その他（班で相談して，随時）
	B班				
	C班				
	D班	特設の委員会の時間は，全員で反省や問題点を話し合う。年間の実施計画表に基いて話し合う内容が決る。			

このように仕事の内容によって分担したり，活動の場所や学年を分担したり，活動時間を分担したり，いろいろ工夫している。それにより，

―ひとりひとりの役割分担を明確にしたり，軽くしたり，種々の活動を経験したりでき，大規模校の悩みをへらした。―

しかし反面，忘れてしまったり，まちがえたりすることも多くなるので，いろいろ工夫している。・リボンで明示　・一覧表を作って配布したり，掲示する　・札をまわす　・記録ノートや用具を順おくりにする　・委員長から回覧板を回す　など。

② 活動内容の工夫

分担制にし，委員会の話し合いが月1回となると，創造的な活動が少くなり，昨年からの踏襲になったり，補助的活動になりやすい。そこで，実施計画を作る時に，十分時間をかけて，創造的な活動を年間に配分してとり上げている。

— 例　栽培委員会 —

○花壇のせわ（種まき，水まき，除草，追肥，名札作り，刈取り，種とり）の他に≪校庭や温室の樹木や花の紹介（児童集会）1学期≫≪きく作りコンクール（4・5・6年対象）2学期≫

— 例　運動委員会 —

ボール，施設のせわ，業間での低学年のせわ，なわとび運動やフォークダンスの指導，の他に≪運動会の応援団一学期≫≪屋上に遊びのためのラインひき二学期≫ など喜んで，進んでとり組んだ。

年間計画は何年もの実施記録をもとにして，指導しながら，具体的に作っておくと，自主的な方向で，活動が進んでいく。

③ 委員長会議

代表委員会とは別に，委員会の横の連絡のために，月1度行う。

(3) 月に2回実施をしている学校（N区，A小学校）

① 教育目標の具現化のために

本校の教育目標は，・深く考える子ども，・思いやりのある子ども ・ねばり強くやりぬく子どもである。各教科，道徳，特活のすべての領域の中で本校の教育目標を達成していくわけだが，特活では特に「ねばり強くやりぬく子ども」の具現化にスポットをあててみた。そのために，次にあげるような反省点や現状の中から時間的な配慮を試みた。

・本来，児童の自発的，自治的な活動が望まれる委員会活動であるが，「教師のおてつだいになっている。」「学校生活の向上や発展となるような活動がねばり強く実践できない。」などの委員会活動の本質とも言える部分で問題があること。

・子どもたち（高学年）の声にも「委員会はつまらない。」「すぐ時間が来てしまって計画だけに終ってしまう。」「委員会のある水曜日はおそくなることがあってイヤだ。」など，時間不足を訴えるものが多くあげられたこと。→活動時間が確保されると本質的な活動が期待されるだろうと考えられること。

・新教育課程への実践的試行がなされている今日，いわゆる「ゆとりの時間」の活用とし

て，また，特活の充実としての意義が十分に認められると考えたこと。

以上のことから，第２週の水曜日５校時（従来通り）に加えて，第４週の木曜日６校時を委員会活動の時間として設定した。

② 月２回の実施の展開

＜２回の使い方＞ → 第２週目を計画，話し合いとし，第４週目を実践活動とする。

具体的な使い方は各委員会でそれぞれ多様であるが，実践活動の時間が常時活動とは別に１単位時間確保されたことで，児童の立案が児童の手によって自発的に活用されている。

＜事例 ― 集会委員会＞

集会委員会は毎週木曜日の朝（２０分間）の集会活動を担当している。

（11月の例）

第２週(水)
・今月のテーマソングの決定
・３週目と４週目の計画と予定表づくり
・先月の反省
・ポスターづくり

⇒ 第３週と第４週の集会活動の実践 ⇒

第４週(木)
・１週目と２週目の計画と予定表づくり
・来月の役割分担
・クリスマス集会の原案づくり（代表委へ）

⇒ 第１週と第２週の集会活動の実践 ⇒ （12月へ）

月に１回であったときは，１時間の活動の中で「どんな集会をやろうか。」という相談をするにとどまり，木曜日の集会を自分たちの手でしっかりやるための準備が充分なされていなかった。２回実施することによって，計画したことを，ポスターや予定表の印刷等で全校のみんなに知ってもらおうとする手順がはっきりしてきた。「全校のみんなが自分たちの集会に楽しく参加してくれるときがいちばんうれしい。」という声もでるようになった。活動内容をゆっくり事前に検討し，準備できていると子どもたちが自信を持って集会を進行し，この次もねばり強くやってみようという意識の向上もみられるのだろう。

毎月一連の流れの中に乗って活動している集会委員会には，「自分たちは楽しい集会をするのだ。」という意欲がみられるようになった。これは余裕のある時間誠定がその一例だと思う。（今後，一連の流れがパターン化してしまい，マンネリ化しないよう配慮する。）

③ これからの展望

時間の確保があれば望ましい活動ができるとは限らない。２回の時間設定を十分に生かすために，○教師の指導計画によって見通しを持つこと，○成員の個性を尊重して指導にあたること，○他の委員会やクラブとの連携を考慮した創意ある活動を期して計画立てをすること，○活動が全児童の生活に関連しているかをよく吟味することなどを教師の方で配慮していく必要があろう。また，児童なりの活動過程を尊重し，（未熟なものであっても）児童自らの手で成し遂げようとする中に成功感，満足感を育てるように考えたい。

6. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果と反省

石の上にも三年，三年めにはいくらか明るいものを見いだしたいと，今年度も，児童の発想，積み重ね，授業研究，自からの実践をもちよるなどを大切に，一歩前進を試みた。

まずはじめに，一昨年度の委員会活動の組織・運営と内容の検討（児童の意識調査を中心に）を吟味した。つぎに，昨年度の仮説（ひとりひとりを生かす委員会活動の望ましい条件）にもとづいた充実した委員会活動の研究を検討した。その結果，委員会活動における現状には，児童の自治的実践活動が，まだまだ不足しているという声に集約された。

□ 楽しく充実した委員会活動をめざす研究のプロセス例（仮説を中心に）

「５１年度」①目標をひとりひとりに明確につかませる。②活動内容や分担をはっきりする中で活動をくふうさせる。③委員会のメンバーの人間関係を大切にする。④リーダーの養成と教師の指導助言のあり方に配慮する。⑤活動時間を教育課程に位置づけてゆとりをもたせる。⑥活動への取り組みを認め励ます場を多くする。

「５２年度」は①なぜ，委員会活動をするのか，させるのか，必要性をわかりあう。②子どもの考えを多くとり入れた実施計画をたてる。③子どもの気持ちを生かした活動をくふうする。④子どもと子どもの心のつながりを大切にする。⑤ゆとりをもって活動できる時間を確保する。⑥委員会活動が学校生活の中で生きるようにする。

「５３年度」は①委員会活動は，豊かな人間性を育てる格好の場である。②教師の発想の転換が子どもの発想を生かす。③ゆとりの時間を生かし，活動内容，活動方法を見なおす。

こうして，テーマ「楽しく充実した委員会活動をめざして」における，サブテーマ「委員会活動で何を育てるか」が決定し，視点「児童へのまかせ方，児童相互の話合いや協力，自主的な計画・実践・評価」が検討され，自発的自治的な実践活動 ── 楽しく充実した活動── 豊かな人間性を育てると考えた。従って，新宿区立落合第四小学校における授業研究・全委員会の公開授業の参観・検討においては，平常に培っておく「自主・自律的な実践活動のポイントについて」が討議の中心になった。落合第四小児童の運営面のすばらしさを通して，改めて，教育目標の具現化，自治的・創造的委員会活動の積み重ねの大切さを，省みた次第である。

なお，小規模校における委員会活動，月に１回・２回の定例委員会を行っている学校などについて実践研究も行い，教育課程改訂の移行期にあわせて試案を発表し，みなさんのご批

判を通して，役だちたいと思ったが，よく検討されないままに終ってしまいと反省している。

(2) 今後の課題

楽しく充実した委員会活動をめざして，児童の自主的活動，児童会の本質，教育目標の具現化，新教育課程の主旨……と欲ばり，なおかつ，どこででも，だれにででも，実現可能な総資料をと考えてまとめた冊子である。しかし，新教育課程の主旨，特に，ゆとりの時間を生かした月2回の定例委員会の是非についても結論を出すまでにはいたらなかった。

したがって，委員会活動の研究は，今年度がいちおうまとめの段階であるが，子どもの側に立った委員会活動の研修は，今後とも幹事のみなさんといっしょに積み重ねていきたい。

(3) おわりに

年に，9回か，10回の会合で，授業研究から発表まで行う事がこゝ数年続いている。しかし，松野前部長の時代よりのよき伝統（①通知はがきを年内は全員に発送，②会合の発言を模造紙に記録して次回に使用。③授業研究の状態ビデオ 8m/m スライドなどに撮る。④冊子の原稿，発表，司会，記録などには，必ず新しいメンバーの人も入るなど）に支えられて，今年度もチームワークのよさを発揮でき，所属感を味わえることはうれしい次第。

終りになってしまったが，今年度も新宿区立西戸山小学校を研究会場としてお借りしたことと，新宿区立落合第四小学校の先生方に授業を公開していただいたことに，お礼を申しあげたい。また，資料提供してくださった先生方，遅くまで熱心に研究協議，資料づくりに参加してくださった幹事の先生方にも感謝の念をささげて労をねぎらいたい。

1年間いや3年間の研究の成果が各校の実践に少しでも役立てばと考えつゝ。

コラム5　美しきニューフェイスの声より

新人と言っても，こういう会の新人は，年をくっていることが多い。というのも，その道の区内でのお歴々の方が集まるのが都と思われているから。だから，校内の名簿記載上のミスから都特活に出るはめになってビックリ。さぞや……と足がすくんだ。

1回目。いました。いました。都トンカツの親分はじめ子分がぞろぞろ。皆緊張している中に緊張しないでペラペラしゃべっている人たちがいる。実は，この人たちが，御世話役の人たち。

2学期ともなると，人数は激変。さらに等比級数的に減ってしまって，〔次回は原稿割当て〕なる葉書きが届くと，なんとはじめに集まったのは4人。そして最後にやっと12人でした。名簿には，たしか，80名近い人の名がのっていたはずだったけれど……。

来年は，もっと　若い新人が　たくさん　集まってほしいなあ。

Ⅲ　ク　ラ　ブ　活　動

テーマ　「楽しく充実したクラブ活動をめざす指導のあり方」

1. まえがき …… 61
2. 活動を阻害する要因 …… 62
3. 実践事例 …… 68
(1) 図工クラブ …… 児童の活動と指導助言 …… 68
(2) ソフトボールクラブ …… リーダーを育てる指導助言 …… 70
(3) 遊びクラブ …… 楽しい活動を促す実施計画作り …… 72
4. 望ましい指導計画 …… 74
5. 本年度クラブ活動の実施状況と考察 …… 80
6. 研究の反省と今後の課題 …… 84

コラム　小学校学習指導要項に示されているクラブ活動

第4章・特別活動 ― 第2・内容 ― (3)・クラブ活動

クラブは，主として第4学年以上の同好の児童をもって組織し，共通の興味や関心を追求する活動を行うこと。

コラム　小学校指導書・特別活動編・クラブ活動のねらい

同好の児童が，所属する集団の生活を楽しく豊かなものにしようとする意図の下に，共通の興味・関心を追求する活動を自発的，自治的に行うことによって，自主性，社会性を養い，個性の伸長を図る。

コラム　小学校指導書・特別活動編・クラブ活動の内容

ア．クラブの計画，運営に関する話合いの活動

イ．共通の興味・関心を追求する活動

ウ．クラブの成果を発表する活動

○ 研究の経過

53. 6. 8 (木) 定期総会，分科会，組織づくり

53. 7. 11 (木) 研究テーマの検討，研究の方向づけ

53. 9. 5 (火) 研究テーマのほり下げ，持ち寄り資料の検討

53. 10. 17 (火) 1単位時間の流れと指導助言のあり方の検討

53. 11. 21 (火) 活動の阻害要因の分析と対策の検討

53. 12. 14 (木) 研究内容の整理，研究集録の内容・分担の決定

都指導部・北村康富先生の指導を受ける

54. 1. 19 (金) 研究集録原稿の内容の検討

都指導部・北村康富先生の指導を受ける

54. 2. 20 (火) 研究発表の準備（役割分担確認・発表内容検討・資料準備等）

研究・執筆者名簿

部長	小川 国寿	港・桜川小		高松 優逸	江東・深川小
副部長（発表者）	大谷 徹夫	渋谷・神宮前小		藤田 祐子	品川・源氏前小
副部長（発表者）	甲賀 春明	練馬・田柄小		三田 進	目黒・東山小
副部長	小野 真澄	葛飾・葛飾小		佐藤 正吉	中野・北原小
副部長（記録）	根本 正道	中野・桃園小	（記録）	野口 アヤ	荒川・赤土小
（司会）	蛸井 聡	港・白金小	（発表者）	野毛 久子	練馬・石神井小
	池田 和栄	文京・千駄木小		桜井 悦子	練馬・大泉南小
	岡本 正治	台東・松葉小		島根佳津子	葛飾・小谷野小
	小林 祐子	墨田・外手小		梅宮 フミ	小平・第五小
（司会）	岡田隆一郎	墨田・横川小		鳩山 久男	清瀬・芝山小
	石田 泰雄	江東・明治小			

1. ま　え　が　き

(1) 研究テーマと研究内容

都のテーマ「楽しく充実した学校生活をめざす特別活動」を受けた研究の2年目である。

４９～５１年度は「ひとりひとりを生かす特別活動の特質と指導のあり方」という都のテーマを受け，クラブ活動への参加意識を調べ，作文・面接・ソシオグラム等を通して活動の阻害要因を分析し，個人カルテ・活動記録の実践事例をもとに，個々の児童に焦点を当て，喜んで参加するクラブ活動の実現を求めて，研究を進めてきた。

昨年度は，中教審の答申および新学習指導要領の趣旨をふまえ，今後のクラブ活動のあるべき姿を求め，都のテーマを受けて「楽しく充実したクラブ活動をめざす指導のあり方」について，１単位時間の活動の流れを辿りながら，教師の指導助言のあり方を研究した。

本年度は，昨年度に引き続き指導助言を研究するとともに，活動を阻害する要因を調べてその除去の方策を考え，新教育課程の実施に向けて各学校で作成する指導計画の手がかりとして，指導計画例を考えた。また，本年度クラブ活動の実施状況を整理し，各学校の計画作成と実施のための資料として表を作成した。

(2) 研究への取り組み

テーマを追求するために，次のような手順で研究を進めてきた。

① クラブ活動の本質を確かめ合い，単位時間における活動の流れと教師の指導助言のあり方を分析検討することにした。

② 各幹事校の実践事例を持ち寄り，活動の流れと指導助言について検討した。

③ 各幹事校のクラブ活動の実施状況について，資料を持ち寄り，児童の声から活動が活発にならない要因をさぐり，その改善の方策を検討した。

④ ５５年度からの新教育課程の実施に向けて，より豊かなクラブ活動を実現するためのクラブ活動の全体計画を考えた。

⑤ これらの研究の成果をまとめ，今後の活動の展開と指導のあり方を検討した。

(3) 研究の基本的な考え方

人間性豊かな児童の育成，ゆとりと充実のある学校生活を送らせるため，クラブ活動では何をどのようにおさえて計画・運営に当たらねばならないかを前提にして，現場の実践を見なおし，改善できるものから取り組む学校体制を築き上げる必要がある。ささやかな研究ではあるが，各学校の実践のヒントになれば幸いである。

2. 活動を阻害する要因

(1) 調査方法・対象

クラブ活動を阻害している要因をさぐるため５３年９月～１０月に都内２８校（都特活幹事校）を対象にアンケート調査を実施した。児童の声を捨い上げ列挙してもらう方法であったため児童数の差をとらえることができなかったが，とり上げられた校数によって阻害要因の傾向を読みとることができた。

調査対象校　２８校

● ７校以上

◎ ４～６校

○ ３校以下

(2) 調査結果

① 科学的クラブ

活発にならない要因 ＼ クラブ名		科学	実験	写真	科学工作	模型	自動車
用具	忘れものが多い。	○			○	○	
	材料が足りない。	○		○			
	器具をよくこわしてしまう。	○	○				
時間	活動時間が短かい。	◎	◎	◎	●	○	
	準備に時間がかかる。	○	○				
	集合がおそい。	○					
集団	部長の指導力が足りない。		○				○
	まとまりがない。	○					
計画	計画がずさんである。	●		●			
内容・その他	活動がマンネリである。	○					
	お金がかかる。			◎			
	ふざける人がいる。	○				○	
	理論だけに終わりやすい。						○

クラブ活動　指導の流れ

①年間を通した入部指導
- 朝会・集会等を通して
- 学校行事を通して
- 掲示・展示を通して

②直前の入部指導
- クラブ説明会
- クラブ発表会
- クラブ見学会
- 一日入部
- 学級指導　など

③設置したいクラブの希望調査

④設置するクラブの決定

⑤入部希望調査

⑥所属の決定

⑦指導計画

⑧組織づくりと実施計画

⑨活動

⑩反省

⑪発表

② 文化的クラブ

活発にならない要因 ＼ クラブ名		郷土	社会	地理・歴史	鉄道交通	読書	文芸（童話）	放送	トランペン	器楽	音楽	合唱	絵画	マンガ	美術
用具	忘れものが多い。												○		
	用具が足りない。	●		○	●			○		○	○				○
時間	活動回数が少ない。									○					
	活動時間が短かい。	○				○				○	◎	○	◎		◎
	集合がおそい。										○				
集団	協力的でない。													◎	
	人数が多すぎる。									○					
	人数が少なすぎる。			○						○	○	○	○		
	6年生が少ない。											○			
	一部の意見に左右される。														
	部長の指導力が不足。			○				○					○	○	
	4年生の発言がない。										○				
	男子が少ない。														
	役割分担で争いがある。									○	○				
	学年（学級）別グループ						○								
計画	計画がずさんである。	●	○	◎	◎	●				◎			○		◎
内容・その他	活動がマンネリだ。				◎	◎	○							○	
	個人活動が多い。					●								○	
	内容がむずかしい。									●	◎				
	能力差。技能差がある。	○							○	○					○
	勝敗にこだわりすぎる。														
	塾と同じだ。														
	予算が少ない。														
	発言する機会が少ない。									○					
	練習ばかりである。											○			
	ふざける人がいる。									○					○

活発にならない要因 ＼ クラブ名		書道	工芸（工作）	演劇	頭の体操	ゲーム	囲碁・将棋	人形劇	遊び研究	料理	手芸	茶道	あみもの	ぬいもの
用具	忘れものが多い。		◎										○	○
	用具が足りない。		○											
時間	活動回数が少ない。	○												
	活動時間が短かい。		●	●			○			◎	○			
	集合がおそい。						○							
集団	協力的でない。		◎							◎	○	○		
	人数が多すぎる。			○										
	人数が少なすぎる。			◎	○				○					
	6年生が少ない。									○	○			
	一部の意見に左右			○				○						
	部長の指導力が不足。		○	●										
	4年生の発言がない。										○			○
	男子が少ない。			○										
	役割分担で争いがある。													
	学年（学級）別グループ										○			
計画	計画がずさんである。				○		◎				●			
内容・その他	活動がマンネリだ。										○			
	個人活動が多い。	◎												
	内容がむずかしい。													
	能力差。技能差がある。					○	○				○			
	勝敗にこだわりすぎる。						○							
	塾と同じだ。	◎										○		
	予算が少ない。			○										
	発言する機会が少ない。			○										
	練習ばかりである。										○			
	ふざける人がいる。	○	○	○						○	○			

③ 体育的クラブ

活発にならない要因 ＼ クラブ名		バスケットボール	ソフトボール	卓球	サッカー	バレーボール	ポートボール	陸上	剣道	バドミントン	球技	体操	ハンドベース	テニス	高とび・巾とび
場所	場所がせまい	◎	◎		●	○	○	●	○	●	●		●	○	
	校庭が舗装なので危険					◎									
	体育館が使えない。					◎									
用具	用具が少ない。			●		○								○	
	用具の出し入れが大変				◎							○			
	マットが使えない。											○			
時間	活動の回数が少ない。														
	活動時間が短かい。		◎	●	○					○	◎		●		
	準備に時間がかかる。			◎	○					○					
	集合がおそい。			◎		○		○				○			
集団	男女数に差が大きい。						○								
	意見が少ない。														
	部長の指導力が不足。			●		○		○		○	◎	○			
	まとまりがない。														
	6年生が少ない。								○						
	人数が多すぎる。		●					○		●	●		●		
計画	計画がずさんである。			●	○	●					●				
	先生が計画をたてる。						○		○						
内容・その他	基本が身につかない。														
	活動がマンネリだ。												○		
	ふざけることが多い。	○	○	○								○			
	試合ができない。						○		○	○					

活発にならない要因 ＼ クラブ名		野球	つり	バトン	ダンス	柔道	ドッチボール
場所	場所がせまい。	◎		○		○	
	校庭が舗装なので危険。						
	体育館が使えない。						
用具	用具が少ない。		○				
	用具の出し入れが大変						
	マットが使えない。						
時間	活動の回数が少ない。						○
	活動時間が短かい。	○			○		
	準備に時間がかかる。		○				
	集合がおそい。	○					○
集団	男女数に差が大きい。						○
	意見が少ない。						
	部長の指導力が不足。						
	まとまりがない。						
	6年生が少ない。						
	人数が多すぎる。	◎					
計画	計画がずさんである。						
	先生が計画をたてる。						
内容・その他	基本が身につかない。						
	活動がマンネリだ。				○		
	ふざけることが多い。		○				
	試合ができない。						

(3) 考　察

前記の表から，活発な活動を阻害している要因をある程度とらえることができた。

それはクラブ活動全般に関する問題もあれば，科学的クラブ，文化的クラブ，体育的クラブ独特の問題も存在する。

全般に関する問題として

・活動時間の不足

・リーダーの指導力の不足

・実施計画の不備　などがあげられる。

科学的クラブと文化的クラブでは

・用具（資料）の不足　が問題として取り上げられるし，

体育的クラブでは

・活動場所の不足

・クラブ成員の多すぎ　があげられている。

調査結果を整理してみて，活動場所の問題が体育的なクラブに集中していて，他では全く問題に出されていない点，文化的クラブでは個人活動の多いことの指摘なども見逃すことのできない面であると感じている。

望ましいクラブ活動をすすめていくために，これらの問題の中で・時間・用具・場所・成員の配分などは教師が十分配慮しなくてはならない点である。

◇ 時間　ぜひ毎週実施をめざしたい。児童の継続的な活動を促進する上からも，週の時間割に位置づけることが望ましいのである。（指導書P.46，80）　調査結果でも伺えるように準備や集合に時間を要するクラブもあるので，クラブ活動前の休み時間を少し長くとるとか，清掃を前にしておき放課後ある程度時間の延長をできるように工夫したい。教師の出張の少ない曜日を選ぶことも大切である。

◇ 用具　クラブ活動では日常の学習活動で使う以外の用具（資料）を必要とするクラブが数多く存在する。書物，薬品，工作材料，ボールやラケットなど教師の備品・消耗品だけで間に合わないものは年度当初の校内予算に組み入れてもらう努力することである。児童からは直接還元できるもの以外集金しないようにする。

また与えられた時間をフルに活動に使うためには用具の準備を休み時間のうちにできるだけすませておくようにする。

◇ 場所　運動関係のクラブがいちばん悩むことがらである。同じクラブが常に同一箇所を使うというのが一般的だが，担当者で相談し合い場所を交換する方法もよい。バドミントン，卓球が体育館の日には，バレーボールが校庭という方法である。また校内を最大限に活用する工夫も必要であり，屋上でのテニポンはその一つの例である。調査では出ていなかったが演劇（音楽・人形劇）クラブに体育館ステージを年間数回は活用させる配慮も欠かせない。

◇ 成員　クラブ集団は同好者の集まりであるから，全員第一希望で入部させたいと思う。ところが施設・設備の問題からどうしても制限しなくてはならない場合がでてくる。第二希望へ廻すときはその旨をよく児童に納得させておくことが必要である。他のクラブとのバランスを考慮し人数制限をすることはある程度止むを得ない方法である。

◇ リーダー　6年生1人が成員をリードできるのは10人以下だといわれている。多人数が在籍するクラブでは世話役を数人たてるようにし，彼等に責任ある行動をとらせるようにする。小人数のリーダーから高い指導力を学び身につけていくものであるから最初から教師があせり過ぎてはいけない。

◇ 実施計画　このたびの調査でも「活動の計画を先生がたててしまう。」という声が出ていたが自分たちの活動にしていくため，ぜひ児童自身の手で実施計画を立案させたい。教師は裏側にあって助言する立場である。そこに児童の自主性，自治性，個性の伸長を図ることができるのである。

3. 実践事例

(1) 図エクラブ——児童の活動と教師の助言——

時間	内容	リーダーの発言	児童の活動	指導・助言
0分	あいさつ 出席調べ	起立，礼，着席。 出席をとります。	(元気のない返事，落ち着きがなくうるさい。)	すこし静かにしなさい。
3分	今日やること	今日はカードとステンドグラスをやります。カードをやりたい人はやってください。ステンドグラスをやりたい人もやってください。		
	ステンドグラスとカードの説明	ステンドグラスは自分の絵を切りぬくということです。あっ，ちがった。こういうふうに。(見本をみなに示す。)カードもこれと同じです。今日は下書きでいいです。アイディアスケッチをしてください。紙を配ります。	(ほとんどの児童が手を挙げる。)	ちょっと静かにしなさい。やることがわかった人，手を挙げてごらんなさい。 はい。結構
	作業	みんな，紙はいきましたか。始めてください。静かにして。		
		この前(1学期の最初に年間計画をたて，2学期のはじめの方はステンドグラスやカード作りにとりくむことを決めた)の時にみなさんと決めたでしょ。どっちにしろ，共通点は切りぬくということね。切りぬいて作ってみるということでは，わかったでしょ。Aさん。(話を聞いていない子の名を呼ぶ。)だからアイディアスケッチの大きさもその人によってちがってきたりするでしょ。これ		

		（配られた紙）を4つに折ってたくさん書いてみたり，あるいは2つに折って大きく書いてみたりしなさい。ステンドグラスは後ろ側に何をはるの，Bさん。
		セロハンをはります。　B子
11分		セロハンをはればステンドグラスになっちゃうのね。そのまま横に字を書けばカードになっちゃうでしょ。 （以下略）

〔考　察〕

上記の実践例は一単位時間の流れのはじめのところである。興味関心があって入部したクラブであり，2学期最初の活動であるが，子供の態度には意欲が感じられず，言われたことをやるだけといった状態である。

ではいったい，子供の活動意欲を阻害しているものはなんであろうか。ここでは教師の言葉と児童の活動の様子からそれをさぐってみたいと思う。

クラブ活動では，特に教師の言葉は大きな意味を持つ。たとえば，「静かにせよ。」という助言をしなくてはならない原因として，クラブ長の指導力やクラブ員の意欲などが考えられる。この場合，静かにという助言はその場をよくするだけの療法にすぎない。むしろその原因をとり除く指導の工夫が必要である。また教師主導型になりすぎたために，クラブ長の指導力が育てられなかったこともあげられよう。またこれからとりくむ活動について確認している言葉があるが，活動の中心はあくまでも子供であるから，不必要な言葉と思われる。

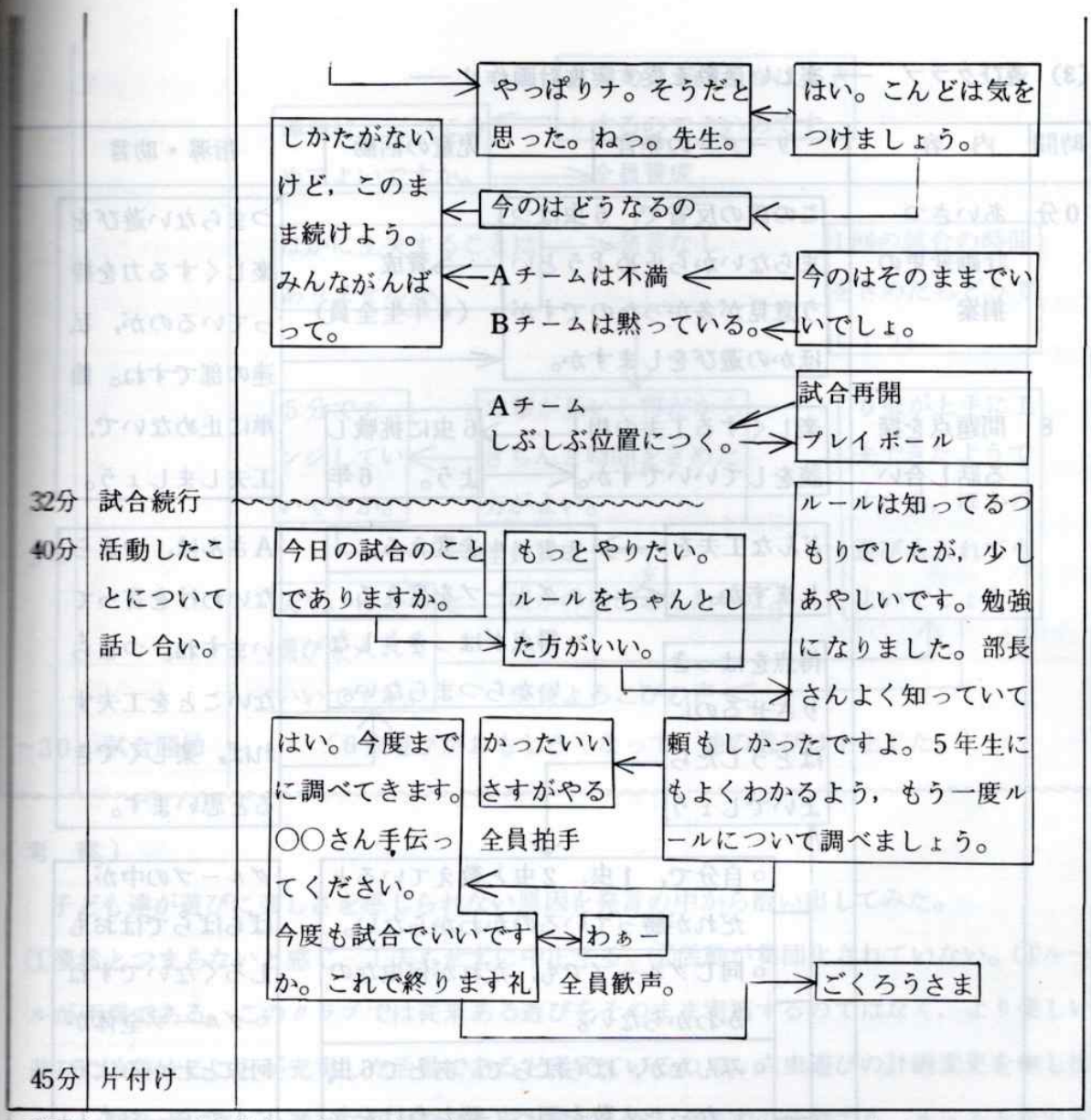
次に，教師がカード作りの説明をしているところがあるが，図工科の授業でないので，ここまで教える必要はないと思われる。これでは，これから考えながら工夫してやろうとする意欲も関心も半減してしまうおそれがある。

また，話を聞いていない子供の氏名を呼んだりする場面があった。子供の注意をこれからの活動に向けさせようとする助言をすることの方が大切ではないだろうか。

こうみてくると，教師の言葉の中に，子供の活動を阻害しているものがかなりあげられる。教師の言葉により子供の活動の様子も変容してくるのであるから，クラブ担当教師は子供一人ひとりのふれあいを大切に育てる中で，自分の言葉についてもう一度考え直してみたいものである。教師の助言の内容は，子供の活動そのものに影響を及ぼすものであるといえよう。

(3) ソフトボールクラブ ―― リーダーを育てる指導 ――

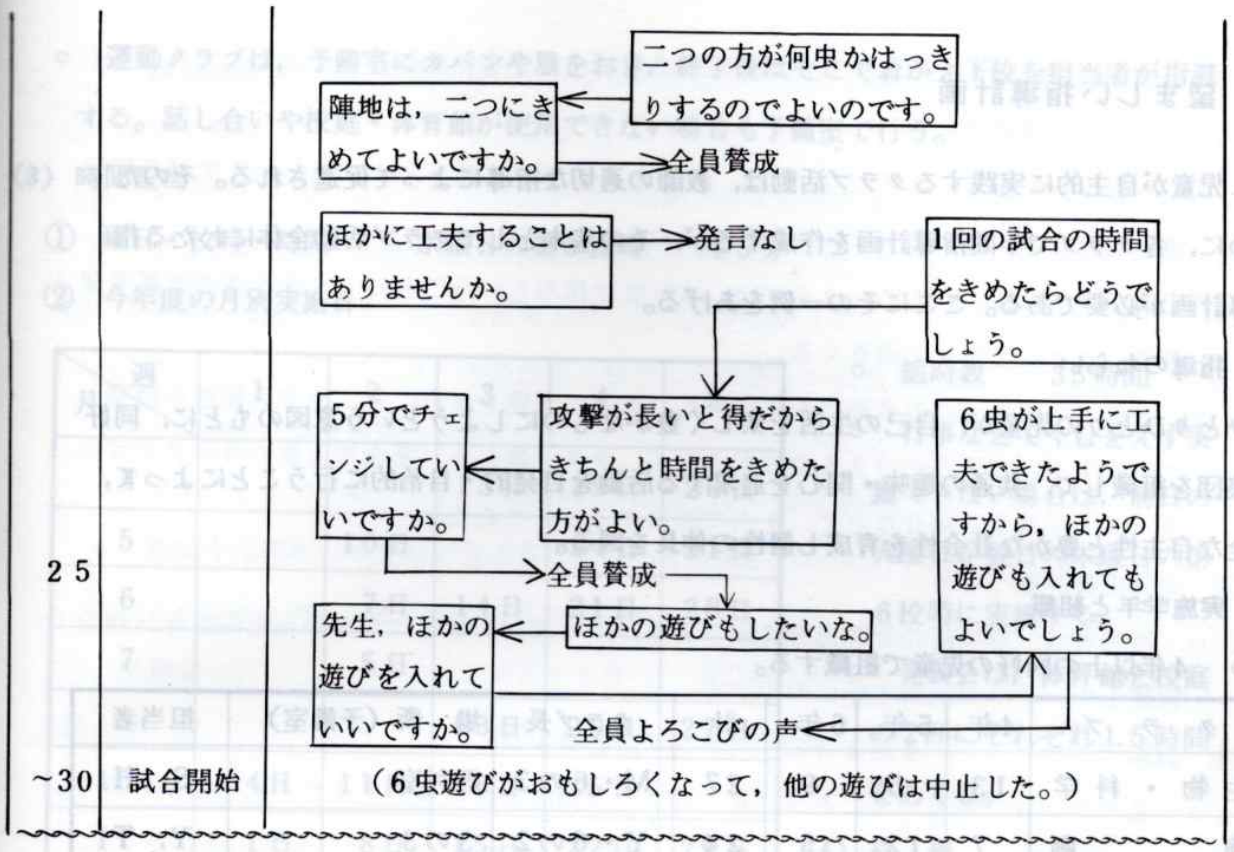
時間	内　容	リーダーの発言	児童の活動	指導・助言
0分	あいさつ 準備体操および キャッチボール	きょうは，Aチーム対Bチームの試合をします。先攻を決めます。キャプテン同志じゃんけんしてください。		きょうは，試合ですね。どちらが勝つかな。
			キャプテンがじゃんけん Aチーム先攻となる。	
		コートにならんでください。	コートにならぶ	
			しんぱん誰にするの	
		攻撃チームが交代でするのはどうですか。	全員賛成	交代でやるのもいいですが，先生も仲間に入れてほしいから，審判をさせてね。
			いいよな。 その方がいいよ。	
		先生に，おねがいしてもいいですか。	全員賛成	
			よろしくおねがいします。	それでははじめます。
10分	試合開始	(中間省略)		
		試合が進んで接戦となった時 Aチームのピッチャーが投球	ボール	
25分	ストライクの判定について話し合い		先生，今のはストライクではないのですか。	今のはボールです。ベースにすれすれでしたよ。
			かすっていればストライクだと思います。	チョットじゃだめ。審判にしたがって。
		高さが範囲内ならベースをかすってもストライクです。	わぁー　ひどいよ。 そんなルールあるの	部長さん，どうですか。



〔考察〕 クラブを児童のものにする上で，リーダーは大切である。教師が意図的にリーダーの育成を心がけなければ育たない。①リーダーシップをとれる子が少ない。②たての信頼が育っていない。③教師への依存心が強い等々マイナス条件は多い。教師自身のふんぎりも重要である。そこで，信頼がリーダーに向けられるような指導を試みた。この六年は野球好きの先生の指導を受けており技能の上達をのぞんでいた。しかし，何度か活動を経ていく中でたてのつながりも生まれた。教師の独断に対する不満とリーダーの役割の中に，その芽を見出せる。〔先生が手伝ってくれなくても楽しくできてよかった。―リーダー〕〔6年の部長が頼もしい。5年〕〔たいへんおせわになった。―5年〕〔ルールを教えてもらい勉強になった。5年〕〔先生があまりよく知らないで不便だったが楽しかった―5年〕 など，児童の反省の中に自分たちですすめていこうとする方向を見出せる。しかし，技能をたかめたいという欲求には他の先生をたのんだが常時は不可能である。何かよい方法はないか。より楽しいクラブのため。

(3) 遊びクラブ ── 楽しい活動を促す実施計画作り ──

時間	内容	リーダーの発言	児童の活動	指導・助言
0分	あいさつ 計画変更の 提案	この前の反省で，6虫はつまらないから止めようという意見が多かったのですがほかの遊びをしますか。	賛成 （4年生全員）	つまらない遊びを楽しくする力を持っているのが，私達の部ですね。簡単に止めないで，工夫しましょう。
8	問題点を探る話し合い	楽しくする工夫の相談をしていいですか。	6虫に挑戦しよう。 6年	
		どんな工夫をしますか。	○ルールを変える。 ○グループを変える。 ○得点がはっきりしないからつまらない。	Aさんは，つまらないわけを言っていますね。つまらないことを工夫すれば，楽しくできると思います。
		得点をはっきりさせるのにはどうしたらよいでしょう	○自分で，1虫，2虫と数えていると誰が勝っているのかわからない。 ○同じグループでも，だれが何虫なのかわからない。 ○みんなが，ばらばらで，あとで6虫になった人数を調べて勝ち負けをきめてもスリルがない。	グループの中が，ばらばらではおもしろくないですね ○グループ全体が何虫とわかるようにしたら，おもしろくなるでしょう。
15	ルール改善の話し合い	ボールを1回投げた時陣へ入った人を1虫と数えていいですか。	全員賛成	
		審判はどうしますか。	審判を作ったらよい。 審判になるとつまらないから自分でアウトをきめればよい。	先生たちが審判をします。
		陣地の数はいくつにしますか	四つの陣では，4年生にむずかしいから，二つにしたらよい。	



〔考　察〕

子ども達が遊びに楽しさを感じられない原因を発言の中から拾い出してみた。①漠然とつまらないと感じ，工夫もせずに中止する。②活動が集団化されていない。③ルールが不満である。このクラブでは従来ある遊びをそのまま実施するのではなく，より楽しい遊びに改善することが充実した活動であると考えているので，六虫遊びの計画変更を申し出ても，認めずに楽しい遊びに作り変えようと励ました。今までの活動でも，ルールを作り変えることを経験しているので，あまり抵抗を感じないでルール作りに取りかかった。しかし問題点が捕まえられず，観念的にルールを変えようと考えている子どもが多かった。そこで，得点についての発言を取り上げる教師の助言によって，解決の糸口をつかむことができた。得点の問題を通して楽しさを追求すると，個人個人が，自分の得点のみを求めているのでチームとしての試合の経過の楽しさを味わっていないことに気づいた。この問題を改めることによって，試合は集団としてまとまらなければならなくなり，メンバー相互の協力によって競技が進められるように改善された。

遊びの中には，ひとりで楽しむものが多い。それらを集団の活動として育てるために，教師は，子どもと共に活動することによって，問題点を適確に捉え，きめ細かな助言と援助を与えていかなければならないと思う。

4. 望ましい指導計画

児童が自主的に実践するクラブ活動は，教師の適切な指導によって促進される。そのために，各クラブで年間指導計画を作成するが，その基本としてクラブ活動全体にわたる指導計画が必要である。ここにその一例をあげる。

(1) 指導のねらい

ひとりひとりの児童が，自己の生活を楽しく豊かなものにしようという意図のもとに，同好の集団を組織して，共通の趣味・関心を追求する活動を自発的・自治的に行うことによって，健全な自主性と豊かな社会性を育成し個性の伸長を図る。

(2) 実施学年と組織

○ 4年以上の同好の児童で組織する。

クラブ	4年	5年	6年	計	クラブ長	場所（予備室）	担当者
生物・科学	13	5	9	27	M・6の3	理科室	S，H
演劇	7	12	5	24	Y・6の2	3の3	Y，T
音楽	11	3	3	17	A・6の2	音楽室	W，T
美術	8	5	8	21	N・6の2	図工室	H
手芸	9	8	2	19	G・6の1	2の3	T
料理	14	10	7	31	S・6の1	家庭科室	T，O
ポートボール	4	8	12	24	K・6の2	校庭（6の2）	O，K
バレーボール	3	4	9	16	H・6の3	校庭（1の3）	K
ドッジボール	18	17	0	35	I・5の3	校庭（5の1）	M
バドミントン	16	3	7	26	T・6の2	体育館（6の1）	S，M
卓球	9	13	12	34	W・6の2	体育館（5の2）	Y，N
高とび幅とび	2	5	4	11	S・6の2	校庭（5の3）	I
フォークダンス	0	4	10	14	K・6の1	2の1	A
剣道	12	9	8	29	Y・6の3	体育館（4の2）	O

○ クラブ員の互選により，クラブ長1名，副クラブ長（6年1名・5年1名）・その他必要な係（書記・班長など）をおく。

○ グループ編成をする場合は，縦割りで6～9名の編成にする。

○ 期間は1年間とする。ただし，4年生だけは2学期はじめに所属の変更を認める。

○ 運動クラブは，予備室にカバンや服をおき，終了後はそこで着かえ下校を担当者が指導する。話し合いや校庭・体育館が使用できない場合も予備室で行う。

(3) 時間配当

① 曜日・校時・時間　　水曜日の第5校時　45分

② 今年度の月別実施日

月＼週	1	2	3	4	5
4			13日	19日	26日
5		10日		24日	31日
6		7日	14日	21日	28日
7		5日			
9			13日	20日	27日
10	4日	11日	18日	25日	
11	1日	8日	15日	22日	29日
12		6日	13日		
1		10日	17日	24日	31日
2		7日	14日	21日	28日
3		7日			

○ 総時数　35時間

○ 行事などでやむをえず実施できない場合は，前日の火曜日か翌日の木曜日の第6校時に実施する。

○ 発表会は，体育館と校庭の2回にそれぞれ1.5時間をあてる。

(4) 経　費

○ 実施計画をもとにして，必要な用具・材料などを予算請求調査書に記入してクラブ活動主任に提出する。これを特別活動部でまとめて学校予算から支出する。

○ 個人負担になる道具・材料などは，過重にならないようにする。

(5) 年間の主な活動と指導

① 設置するクラブの希望調査　　4月7日

○ 「どんなクラブがほしいか」を，4・5・6年児童に対して調査する。特に，4年生には，クラブ活動のねらいをよく理解させてから実施する。

○ 集計をもとにして，本年度実施できるクラブをまとめる。

② 所属希望調査　　4月10日

○ 「どのクラブに入りたいか」を第2希望まで調査する。設置希望調査の結果を発表して，設置できなかったクラブについてその理由を理解させる。所属希望調査に出ている各クラブの活動についてよく説明してから記入させる。

○ 第1希望の集計をもとにして，今年度のクラブを決定する。7人以下のクラブは設置

しない。設置できなかったクラブを第1希望にした児童にその理由を説明して，設置したクラブに変更させる。

○　人数の多すぎるクラブについては，希望した児童に人数が多すぎるために生じる問題点を説明して，他のクラブへの変更を認める。

○　前年度に設置されていたクラブは，本年度は休みということにして来年度の所属希望調査のときには加えて調査する。

○　設置したクラブの担当教師を決定する。教師の希望を参考にして特別活動部を調整して決定する。できるだけ2人で担当するが，クラブ数の多い場合や人数の多いクラブに2～3人配当する場合などで，1人で担当することもある。

③　年間指導計画づくり

○　担当者は，前年度の年間指導計画と実施計画・記録を参考にしながら年間指導計画を作成して，クラブ活動主任に提出する。

④　組織づくり　　4月13日　（クラブ活動第1回）

○　各クラブ毎に集まって，クラブ長・副クラブ長などを互選して各自の希望を出し合う。

⑤　実施計画づくり

○　クラブ長を中心に，全員の希望を生かした活動内容をもとに年間の実施計画を作る。

○　1時間の活動の進め方を計画する。

○　実施計画をもとに活動しやすい組織づくり（グループ編成など）をする。その組織に適した係や当番をおく。

○　クラブノートやクラブカードなどを作らせる。

○　実施計画は，印刷して児童に配布するとともにクラブ活動主任に1部提出する。

○　クラブ活動主任は，各クラブの年間指導計画，実施計画を整理して，本年度のクラブ活動指導計画をまとめる。

⑥　クラブ長会　　6月7日

○　各クラブの活動状況を報告しあって今後の参考にさせる。

○　各クラブ長のもつ問題や悩みを出し合って，その解決策や対策をくふうさせる。

⑦　反省会　　7月5日

○　1学期の活動について，各クラブ毎に反省して2学期からの活動に生かすようにさせる。

○　クラブ毎にひとりひとりの児童に反省カード（所定の用紙）で自己評価させる。

⑦　評　価　　7月20日

○ 担当教師が1学期の活動についてひとりひとりの児童に励ましの評価を与える。

⑨ クラブ長会　　9月8日

○ 2学期の活動の進め方についてクラブ活動主任が指導する。

○ クラブコーナーの割り当てや活用を調整させる。

⑩ 2学期の活動の確認　　9月13日　（2学期第1回）

○ クラブ長を中心にして，実施計画を修正したり新しい活動を加えたりしながら，全員で2学期の活動を確認し合う。

○ クラブとして・個人としての2学期のめあてをもたせる。

○ 組織や運営のしかたなどを改善していっそう楽しいクラブにするようにさせる。

○ クラブコーナーの使い方をくふうさせる。

⑪ 反省会　　12月13日　（⑦を参照）

⑫ 評　価　　12月25日　（⑧を参照）

⑬ クラブ長会　　1月9日

○ 3学期の活動の進め方・今年度の活動のまとめについて指導する。

○ 3年生のクラブ見学・1日入部とクラブ発表会の計画について指導する。

⑭ 3学期の活動の確認　　1月10日　（3学期第1回）

○ ⑩を参照

○ クラブ見学・1日入部の受け入れ方や発表会への参加について計画する。

⑮ クラブ見学　　1月17日

○ 各クラブで当日の実施計画をたてて受け入れ態勢をつくる。

○ クラブ活動主任の指導により，3年生は学級担任が第4校時に事前指導を行う。

○ 見学が集中しないように見学順路を調整して，学級担任が引率する。

○ 見学終了後，教室で学級毎に見学の感想を話し合わせながら，クラブ活動の特質を理解させる。

⑯ クラブ1日入部　　1月31日

○ 各クラブで当日の実施計画をたてて3年生に活動の体験をさせるくふうをする。

○ 3年生は学級担任が第4校時に事前指導して，参加態度・意欲を高める。

○ 3年生は自分の希望するクラブに行って1時間そのクラブの一員としての活動をする。

○ 3年は翌日学級指導の時間を設けて，1日入部の感想を発表させながらクラブ活動参加への理解を深める。

⑰ クラブ長会　　2月2日

○ クラブ発表会の計画をたてる。

・ 展示で発表するクラブ，校庭で発表するクラブ，体育館で発表するクラブを調整する。

・ 展示場，校庭や体育館で発表するクラブの持ち時間を決める。

・ 発表会の準備・進行などの役割分担を決める。

⑱ クラブ展示発表　　2月14日

○ 作品や説明を所定の場所に展示して，全校へよびかける。

○ 3年生は，学級担任が見学のしかたを指導して随時見学させる。

⑲ 校庭での発表会　　2月19日

○ 係が昼休みに見学場所を校庭に決めておく。（3年は学級単位，4・5・6年はクラブ単位）

○ プログラムによって進行係が会を進める。

○ 雨天や校庭の状況によっては，体育館での発表と入れかえる。

○ 3年生は事前に学級担任が発表会参加について指導する。

⑳ 体育館での発表会　　2月21日

○ 係が昼休みに座席を決めておく。（3年は学級単位，4・5・6年はクラブ単位）

○ プログラムによって進行係が会を進める。

○ 翌日学級毎にクラブ発表会についての話し合いをもちクラブ活動に対する理解を深め参加意欲を高める。

㉑ 反省会　　3月17日

○ ⑦を参照

○ 1年間の活動について反省させて，次年度（6年生は中学校）でのクラブ活動への意欲かけをする。

㉒ クラブ活動の評価　　3月19日

○ クラブ活動主任を中心にして，本年度のクラブ活動について全教師で反省・評価する。

○ 来年度のクラブ活動の改善点をまとめる。

㉓ 評　価　　3月23日

○ 担当教師が，3学期およびこの1年間の活動についてひとりひとりの児童に励ましの評価を与える。

(6) 指導上の留意事項

○　年間指導計画は，指導のめやすとして使用する。児童が実施計画を作るときなどの助言の資料にし，活動内容をおしつけないよう配慮する。

○　実施計画は，児童が自分の所属するクラブの活動を年間にわたって見通しをもてるように児童に作らせる。

・　クラブ員の希望や発想をじゅうぶんとり入れ全員が満足できる活動内容になるよう助言する。

・　教科の延長や補習的な内容，能力をこえたものにならないようにさせる。

・　個人的な活動が多くなりがちなクラブは，グループ活動ができるようなものをとり入れたり相互発表などをとり入れるよう指導する。

・　活動内容が児童の自主的・自治的範囲をこえたものにならないよう指導する。

・　組織づくりも，児童の自主的運営が円滑にできるように活動に適したものをくふうさせる。

○　担当者は，技術指導よりもクラブの運営や人間関係の調整などの指導に重点をおき，児童がお互いに進歩・向上を図れるようにする。特に4年生の指導は，6年生が中心となって行うように助言する。

・　活動の成果よりもその過程を大切にするように心がけて，ひとりひとりの児童の活動を見つめ賞揚・激励に力を入れる。

(7)　各クラブの年間指導計画と実施計画　　(略)

(8)　評　価

①　評価の観点

ア　児童　○　自分の希望を生かした計画をたてたか。

○　計画したことや分担したことを最後までやりとげたか。

○　みんなと相談したり協力したりして活動できたか。

○　友だちの立場や役割を理解して活動できたか。　(以下略)

イ　教師　○　指導体制がととのっていたか。

○　指導計画は児童の活動に役立ったか。

○　児童が常に創意くふうするよう助言できたか。　(以下略)

②　評価の方法

○　クラブノート（カード）・反省カード・実践記録などで行う。

○　全教師で反省の話し合いをする。

5. 本年度クラブ活動の実施状況と考察

調査校数　都内２８校

A 活動時間について

(1) 月回数　（２５）

毎週	1校
4回	2
3～4回	1
3回	17
2回	4

(2) 時間割上の位置

月曜６校時	13校
水曜５〃	5
木曜６〃	2
月曜５〃	1
金曜５・６〃	1
土曜４〃	1

(3) １回の所要時間

所要時間	校数
40	■■■■■■■
45	■■
50	■■■
40～50	■
60	■■■■■■■■■
80	■
100	■

(4) その他

- ○ 前期・後期に分れている ― (1)
- ○ 後期から４年入部 ― (2)
- ○ 特別時程としている ― (1)
- ○ 夏季は，木曜５校時を土曜４校時とする ― (1)

B クラブ参加児童数と参加学年　■は一校

児童数（人）	4・5・6学年参加	5・6学年参加
100人～150人	■	■
150～200	■	■■
200～250	■	■
250～300	■■	■
300～350	■■■■	■■■
350～400	■■■■■■	
400～450	■	■
450～500	■	
500人以上	■	

C クラブ設置数

設置数	校数
14	■■■■■■■
11	■■■■■■■
13	■■■■
12	■■
16	■■
24	■
18	■
17	■
15	■
10	■
7	■

D　どんなクラブを設置しているか　　（　）内は校数，順序は設置校の多い順である

(1) 運動系クラブ

卓球 (24)　バドミントン (17)　バレーボール (12)　サッカー (9)　器械運動 (9)

球技 (8)　剣道 (8)　ソフトボール (8)　ポートボール (7)　バスケット (7)

陸上 (7)　体操 (4)　フォークダンス (3)　テニス (3)　ドッチボール (2)

野球 (2)　バトン (2)　ハンドベースボール (1)　高とび・幅とび (1)

柔道 (1)

(2) 文化系クラブ

1. 図工的クラブ

美術 (10)　工作 (10)　模型 (6)　絵画 (5)　造形 (3)　図工 (2)

工芸 (2)　レタリング (1)　焼物 (1)　おりがみ (1)

2. 趣味的クラブ

演劇 (19)　囲碁将棋 (16)　マンガ (12)　習字 (5)　写真 (2)　つり (2)

娯楽 (1)　人形劇 (1)　切手 (1)　旅行 (1)　茶道 (1)

3. 国語的クラブ

読書 (5)　文芸 (2)　童話 (2)

4. 社会的クラブ

郷土 (6)　社会 (2)　地理 (2)　地歴 (1)

5. 音楽的クラブ

器楽 (13)　音楽 (10)　合唱 (4)

6. 理科的クラブ

科学 (23)　理科実験 (1)

7. 家庭的クラブ

手芸 (25)　料理 (10)　あみもの (1)　ぬいもの (1)

8. その他

鉄道 (6)　遊び研究 (6)　自動車 (1)　トラペン (1)　頭の体操 (1)

運動系クラブ　２０種　文化系クラブ　４２種　計６２種

E．1クラブの構成人数

構成員	4～6年参加	5・6年参加
4(人)	1	
5	4	3
6	3	2
7	1	2
8	8	1
9	10	2
10～15	75	14
16～20	40	11
21～25	30	16
26～30	45	10
31～35	29	8
36～40	17	5
41～45	14	1
46～50	9	2
51	1	
55	1	
57	1	
61	1	
62	1	
65		2
70		1

F．考　察

A．活動時間について

(1)の月回数では，3回実施の学校がたいへん多い。「毎週，計画的，継続的に実施されることが必要であり……」ということから考えて，もうひと息の工夫と努力を期待したい。

(2)の時間割上の位置づけは，月曜日6校時が多い。おそらく月曜日の放課後は行事を組まないで，時間確保に努めているためであろう。水曜日5校時が次に多いのは，教師の出張が少なく，他の曜日に比べて支障が少ないためと考える。

(3)の1回の所要時間では，60分が最も多く，40分がこれに次ぐ。クラブ活動の時間は，教科・道徳と同時間では充実した活動の実施が困難であることを示すとともに，各学校の努力の様子がうかがわれる。

その他，児童数や季節等の条件を考慮して，前・後期に分けたり，平常時と夏季とで時間割上の位置づけを変えたりして，学校の実情に応じた工夫をしている。

要は，各学校の実情をふまえ，支障の最も少ない曜日を選び，年間の見通しの下に，毎週，必要な正味時間を確保することに一層の工夫と改善を期待したい。

B．クラブ参加児童数と参加学年

4年生からのクラブ参加が学習指導要領に示されているが，現段階の状況を見ると，Bの表でもわかるように，4年生から参加させている学校が多いことは当然として，「児童数が多くては実現が困難である」という問題を持っている学校ですら，4年生参加のクラブを実施していることがわかり，心強い。

その反面，児童数300名未満の学校で4年生参加にふみ切れない学校も見られるのは，校内の事情もあるかと思われるが，クラブの種類をふやすとか，施設設備の使い方を再検討するなど，学校の創意工夫と努力で改善の方向へ持っていきたいものである。

C. クラブ設置数

参加児童数や参加学年が関係するため，７クラブから２４クラブまで，かなり開きがある。この中で設置数14，11の学校が多いが，16，24，18，17，15の学校に目を向けたい。4年参加のクラブを実施している学校にこの数が多いのである。

参加児童数を20～25で割った数が，設置数の目安となるであろう。

D. 設置しているクラブの経験

広範多岐に亘るクラブを，運動系クラブと文化系クラブに大別して分類整理してみた。

運動系では，教科体育とは直接関係のない，卓球・バドミントン・バレーボール・剣道等が多く，一般のスポーツにおける種目の名称をクラブ名としているものが多い。

文化系でも，教科学習に直接関係のない，演劇・囲碁将棋・まん画等が多いことに注目したい。また，国語・社会・理科・音楽・図工・家庭等の各教科の発展または関連のあるクラブもかなり多い。さらに，子どもの発想を大切にした，鉄道・遊び研究・自動車・頭の体操等があることにも注意したい。

細かく見れば見直しを要する点があるにせよ，各学校で限られた教師数や施設設備の下でクラブを育成している姿に敬服するものである。

設置数とともにクラブの種類は，各学校の施設設備・児童の希望・指導体制・クラブの伝統や地域性等，諸条件を十分考慮して決めたい。

E. クラブの構成人数

最少４人から最多７０人まで，１つのクラブの構成人数には大きな開きがある。クラブの種類によって，それぞれ望ましい人数があるが，構成人数として理想と考えられている１０～３５人の範囲に集中しているのは，よい傾向であるといえよう。

しかし，4，5，6，51，55，57，61，62，65，70等の人数は，クラブの運営上，いろいろな問題を含んでくるのではないかと考える。

(次ページより続く)

③ 活動内容の充実と適切な指導助言他

各自の能力・特性を発揮させながら，集団として活動できる内容，児童の発想を大切にして主体的に取り組める内容を十分検討し，豊かな内容で活動させたい。また，リーダーやメンバーのあり方を学びとらせる指導助言に努め，楽しく充実した活動を具現化したい。

活動記録のとり方や評価，楽しい表示，日常のＰＲ活動等も，学校の実態に合わせて創意工夫し，豊かな人間性の育成に資するクラブ活動が展開されるよう努めたい。

6. 研究の反省と今後の課題

(1) 研究の成果と反省

本年度は「1単位時間の活動の流れ」と「児童の実態や各学校の実践の中から問題点をさぐること」を中心に，クラブ集団で育てなくてはならないもの，クラブを伸ばす手だてなどを研究してきた。

活動を阻害する要因を分類・分析し，手だてを考えたものが2である。ポイントをおさえた計画や運営をすることが，本質に迫るクラブ活動に直結すると考えたためである。

3では，各幹事校における各種のクラブの活動記録の実践事例の中から3つを取り上げ，1単位時間における活動の流れの中から主な部分を表の形式でまとめ，考察を加えた。紙面の都合で一部割愛させていただいたが，ご賢察を願いたい。

4では，新教育課程の実施へ向けて，改訂の趣旨をふまえ，クラブ活動の基本構想のあり方を求め，全体計画の一例を示した。各学校において，実情に即したクラブ活動の全体計画を作成するときに活用いただけば幸いである。

5では，各幹事校のクラブ活動の実施状況を整理して表に示し，考察を加えた。これも，計画作成や指導運営の参考資料として活用いただきたい。

限られた回数・時間内における幹事会のため，研究の内容や方法に不十分な点も多々あるが，熱心に参集された幹事の先生，およびご指導いただいた都指導部指導主事・北村康富先生に対し，心から謝意を表する。

(2) 今後の課題

基本的な性格の変わらないクラブ活動の本質を見直し，楽しく充実したクラブ活動の実現をめざし，着実な歩みを進めたい。計画や運営に当たっての手がかりをあげる。

① 時間の創意工夫

教科時間の削減によって生ずるゆとりの時間に着目し，その活用を図りたい。活動の計画や準備・後しまつ・反省等に要する時間も考え，５０～６０分をクラブに確保したい。また，必要に応じて時間の延長も可能な時程の工夫をしたい。

② 設置するクラブの種類や数の検討と4年生参加

各学校で実践しているクラブについて，クラブの本質にてらして望ましいものは継続しよい伝統を築き上げるとともに，児童の発想を大切にし，新しい視点からクラブを設置するための創意工夫に努めたい。そして4年生も参加できる方向に進めたい。(前ページへ)

Ⅳ　学　級　指　導

テーマ　「好ましい人間関係を育てる　適応に関する指導のあり方」

1. まえがき …… 87

2. 学級指導における適応に関する指導 …… 88

3. 学級指導の指導計画 …… 93

4. 指導計画の例　（全体の指導計画・内容別年間指導計画・月別指導計画）…… 95

5. 「適応に関する指導」の指導事例 …… 100

(1) 「机の中をきれいにしよう」（2年）…… 100

(2) 「家庭での自由勉強」（4年）…… 102

(3) 「好かれる人」（6年）…… 104

6. 研究の反省と今後の課題 …… 106

コ　ラ　ム

1. 「適応」と「順応」…… 88

2. エンジンのついた子ども？ …… 89

3. 中学校学習指導要領の学級指導 …… 91

4. 特活の時間設定 …… 92

5. 適応指導とは …… 103

○ 研究の経過

53. 6. 8 (木)	定期総会，部会，組織づくり，研究主題の決定
53. 7. 3 (月)	研究の進め方，適応に関する指導の指導内容の研究協議
53. 9. 11 (月)	指導内容の精選の観点について協議
	各校の指導計画の比較検討
53. 10. 16 (月)	適応に関する指導の指導上の工夫，指導事例の考察
53. 11. 20 (月)	研究授業「机の中をきれいにしよう」……（2年）
	（新宿区立東戸山小学校　富田嘉子教諭）
	講師　岡本　孝司先生
53. 12. 9 (金)	研究のまとめ，研究集録のプロット検討，執筆分担
54. 1. 23 (火)	研究集録の内容検討
54. 1. 30 (土)	研究集録の原稿持ち寄り検討
54. 2. 22 (木)	研究発表の準備（役割の分担）

研究・執筆者名簿

部　長	安岡　正凱	練　馬・光和小	(司　会)	飯田　良一	葛　飾・葛飾小
副部長 (発表者)	新倉　剛	世田谷・喜多見小		前田　昭	立　川・柏　小
副部長 (司　会)	水野　稔	立　川・大山小		芦沢　智江	三　鷹・高山小
副部長	鈴木　和子	港　・白金小		森山　裕夫	三　鷹・井口小
	冨田　嘉子	新　宿・東戸山小		中田　利明	小金井・小金井第四小
(記　録)	伊藤　隆雄	墨　田・第四吾嬬小		伊東トミェ	東村山・久米川小
	篠崎たか子	豊　島・西巣鴨小		長沢　静	江　東・臨海小
(記　録)	橋本　肇	豊　島・仰高小		建守　紀子	台　東・待乳山小
	金田　茂雄	荒　川・第五峡田小		伊藤　宏一	目　黒・鷹番小
	阿部　好三	板　橋・板橋第四小		中島　孝	千代田・神田小
	日比野政好	足　立・千寿小		重松　誠	港　・高輪台小
	広瀬　信彦	足　立・柳原小		中尾　国勝	板　橋・大谷口小
(発表者)	井上恵美子	足　立・渕江小		釜田　武	東久留米・久米川小

1. ま え が き

(1) 研究主題について

「楽しく充実した学校生活」を目指す新教育課程の実施を前にして，望ましい集団活動に対する関心が高まっている。いわゆる「ゆとりの時間」の活用にしても，その基盤として，学校や学級における好ましい人間関係が育成されていなければならない。そして，学級のひとりひとりの児童が安定した状態でその集団によく適応し，望ましい生活態度を身につけているかどうかによって，望ましい集団活動の展開が大きく左右される。

学級の好ましい人間関係の育成・心身の健康の増進・健全な生活態度の育成は，学級指導の目標として従来から考えられていたことであるが，更に，(1)日常生活を営むために必要な行動の仕方を身につけさせる。(2)集団の中で，自己を正しく生かすことができるようにさせる。ということが一層明確なねらいとして指導書にも示された。

本研究部では，昨年度から「適応に関する指導」を主題として取り上げて，「適応」についての考え方の共通理解を深めるとともに，その指導内容を検討してきた。

本年度も続けて，指導内容の分類，学校の実態に応じた指導計画の作成上の留意点，指導上の工夫などに焦点をあてて研究を深めることになった。学級指導は，特に適応に関する指導は，日常の教育活動と深いかかわり合いがあり，学級担任の学級経営との関連に立って指導が展開されなければならない。日常の生活指導や学級経営のはたらきによる指導の中から特に，学級指導における適応指導として取り上げて指導した方が効果がより上がると考えられるものを精選しなければならない。その精選の観点，望ましい指導計画のあり方などを追求しようと考えた。

(2) 研究へのとりくみ

学習指導要領に明確に「適応に関する指導」が明示されてから，従来の指導計画の一部修正にとり組んでいる学校も多い。また，新たに指導計画の作成にとりかかっている学校もある。更に，教育課程全体とのかかわり合いの上で，学級指導の時間設定に創意工夫している学校も多く見られる。

従って，各区や各学校の実践事例や指導計画を数多く持ち寄り，相互に実状や工夫点などを交換し合う中で，望ましい指導計画のあり方を考察していこうと考えた。更に，実際の授業を通して「適応に関する指導」について研究協議すると同時に，適応に関する指導と日常生活における道徳性の指導との差違や関連についても追求する。幹事の先生方の指導事例を

出し合い，同じような主題の授業であっても，児童の実態，発達段階に応じた指導上の工夫や配慮をどのように考えなければならないかを研究していこうと考えた。

2. 学級指導における適応に関する指導

(1) 児童達は，次のような時に不適応の状態になると考えられる。

- 教師と児童，児童と児童の人間関係が好ましい状態でなく，児童が集団にとけこめずに孤立している場合や成員間に対立的な感情がある場合
- 学校生活における行動の仕方や対処の方法など分らずに不安感をもっている場合
- 望ましい基本的な生活習慣が身についていない場合
- 学習に興味や意欲を失ったり，劣等感をもっている場合

以上のほかに，家庭に問題がある場合や身体的に障害による不適応状態になることも考えられる。このような不適応の状態にあれば，学校におけるすべての教育活動の効果は期待できないことは当然である。

コラム1 「適応」と「順応」 ——（広辞苑には）

○適応 ＝ ○かなうこと，ふさわしいこと，あてはまること
○動植物が環境に適合するように自己の形態，習性を変化させる現象

○順応 ＝ ○境遇に従って，これに適応すること
○生物に同一刺激が変化せず持続的に与えられるとき，これに適応するように感覚作用が変化する現象

(2) 学級指導は，教育課程に位置づけられた授業である。

児童の不適応の状態の解消は，学級指導のみが担うものではなく，学級経営や生活指導の働きはもとより，教科を初めすべての領域を通じて，常に配慮されなければならないことである。「適応」ということを広い意味でとらえると，学級指導はもとより，学校教育の大部分は適応指導であるとも言える。更に，児童の不適応の状態は，個別指導，教師のひとことの励ましのことばや暖かい配慮によって解消される場合が多い。学級指導は「教育課程に位置づけられた計画的な教育活動」であるから，次のような条件を備えていなければならない。①指導計画による意図的・計画的な指導であること。②全員を対象にした指導であること。

③明確なねらいと，指導内容をもっていること。④指導過程が設定されていること。⑤予め指導時間が設定されていること。

以上のように考えると，「学級指導」と日常の「学級での指導」とは区別して考えられなければならない。「道徳」の授業が，日常の生活指導と関連をもちながらも，明確に区別されているのと同じことであると考える。従来，朝の会や帰りの会の時間に行われる短時間の指導をショートの学級指導とか随時指導と称して学級指導の中に含めて考えていたことが，（それは，それなりに意味があり，日常生活に密着した指導を進める上で大切なことであったが），学級指導の指導計画の作成を初め，学級指導の時間の設定や授業としての定着を遅らせる大きな原因の一つになっていたと考える。

(3) 学級指導で取り上げる適応に関する指導

「適応」の指導は，前述のように広範囲にわたるものであるが，学級指導の授業として取り上げる適応に関する指導の指導内容は，①人間関係改善に関する直接的な指導，②児童の不安・劣等感・なやみなどを解消するための指導，③日常生活における行動様式に関する指導の3つが中心になるものと考えられる。しかも，学級生活や学校生活への適応指導であり，日常生活における基本的行動様式の指導は，「保健」「安全」「学校給食」に関する指導が大部分であろう。このように，指導内容を精選して考えることが極めて大切なことであるが，「適応」ということを単なる順応している状態を意味するのではなく，進んで個性を生かし，集団の一員として他の成員と協力して所属する集団の生活をより一層向上させようとする積極的な面も含んでいると解すべきである。

従って，児童に不安やなやみもなく特に問題が認められないから「適応に関する指導について時間を特設する必要はない」というようなことは考えられない。担任が児童の実態を把握すればするほど，そこに，さまざまな問題や，近く当面するであろうと予想される問題に気がつくであろう。また，その学校の何年かの実践の積み上げによって，当然必要とされる指導内容が選定されてくるであろう。

コラム2　エンジンのついた子ども？

与えられた諸条件に退屈せず，不満を抱かずにうまく暮すこと。―こんな「適応」であってはならない。―風や波にさからわずにただよう船ではなく，強力なエンジンをつけて目的に向って進む。その進み方を指導してやるのが「適応指導」であろう。

次に大切なことは，学級指導は，可能な限り「集団活動を通して」指導されなければならないということである。一例をあげると「忘れもの」の指導で，過去の記録で，忘れものが多い児童だけが対象になって，忘れものを殆んどしない児童が自分には関係ないと感じたままで授業が終始したとすれば，特別活動に位置づけられた「学級指導」の授業とはいえない。好ましい人間関係を基盤として，学級指導が展開され，授業を通して更に学級としての集団が高まり，より望ましい集団活動が期待できるものでなければならない。

もちろん，個人的な基本的行動様式に関する指導も，学級指導における適応に関する指導の内容として取り上げられることも多い。その場合も，ねらいとされるそれらの行動が，どう集団の他の成員と関係するのか。学級集団として，ねらいを達成するために協力し合ったり，援助することはどんなことか。そのねらいを達成することによって学級集団はどのように高まっていくかなど，個と集団とのかかわり合いを大切にして指導が進められなければならない。

(4) 適応に関する指導の内容

適応に関する指導の内容の分類は，学校生活への適応に関すること，学級生活への適応に関することと2つに分けて考えたり，個人的適応に関することと社会的適応に関することに分類したり，中学校の学習指導要領に示されていたように，個人的適応に関すること，集団生活への適応に関すること，学業生活に関することというような分け方もある。

具体的に，各区で作成されている指導計画の基底資料や，各学校の指導計画にある指導内容を分類してみると次のようになる。

① 学校のきまりや校内の生活の行動様式に関するもの（学校の一日・廊下歩行等）

② 学校の約束ごとに関するもの（朝の会のもち方・日直の仕事等）

③ 教師と児童，児童の相互理解に関するもの（男の子と女の子・先生への手紙等）

④ 遊びに関するもの（遊びのグループづくり・雨の日の遊びの紹介等）

⑤ 施設・用具の正しい利用についての指導（プールでの約束・校庭の使い方等）

⑥ 学級・個人の生活のめあて，生活設計・生活の反省に関するもの

⑦ 学習生活に関するもの（学用品の使い方・家庭での学習等）

⑧ 児童活動に関するもの（委員会・クラブ活動の参加の心がまえ・選択指導等）

⑨ 整理・整とん，清掃・美化に関するもの

以上のほかに，入学当初の指導，卒業前の指導，特別の場合として心身に障害をもつ児童に関する学級全員に対する指導などがあげられる。

⑨の整理・整とん，清掃・美化に関するものについては，保健の指導としてもよいのではないかという意見もある。また，整理の仕方や清掃の方法について指導の場合は，適応に関する指導と考えられるが，整理の方法や技術については充分に理解されているが，整とんがうまくできない場合に，その必要性を理解させたり，意欲を高めるねらいでの指導は，「日常生活における道徳性の指導」に位置づけられよう。

本研究部では，これらの指導内容の分類は，年間の主題選定に際して活用できる項目であり，各学校で独自に考えられて設定されるべきものと考えている。つまり，年間指導計画を作成するに当たっての視点である。主題を設定して実際に指導が展開される時点では，そのねらいを明確にして指導されることが肝要なことであり，必要以上に項目や分類にこだわることはないと考える。

(5) 指導内容の精選の観点

学級指導の指導内容は，児童の日常生活全般にわたるものであり，日常の教育活動のすべてかかわり合いがある。広い範囲にわたり必要と考えられる内容は極めて多い。

本研究部では，どのような観点で精選したらよいか，その配慮しなければならないことについて研究し合った。学級指導の内容は，各学校の実態に応じて学校が独自に選定するものであるが，学級指導に充て得る授業時間は限られたものであり，他の教科領域と同じように

コラム 3　中学校学習指導要領に示されている学級指導

(1) 個人及び集団の一員としての在り方に関すること。

新しい学校生活への適応，個人的な悩みや不安の解消，望ましい人間関係の確立，自己の個性の理解などを取り上げること。

(2) 学業生活の充実に関すること。

選択教科等の適切な選択の援助，学業上の不適応の解消，学習の意欲や態度の形成，学校図書館の利用の方法などを取り上げること。

(3) 進路の適切な選択に関すること。

進路適正の吟味，進路の明確化，適切な進路選択の方法などを取り上げること。

(4) 健康で安全な生活などに関すること。

心身の健康の増進，性的な発達への適応，安全な行動の習慣化，学校給食の指導などを取り上げること。

基礎的・基本的な指導内容を選定することが大切なことである。

○基本的な観点

① 学級指導の目標に即した指導内容であること。

② 地域・学校・児童の実態に即した内容であること。

③ 授業として成立するものであること。（時間数など教育課程全般との関連で検討）

○具体的な観点

① 児童の発達課題に即して，その学年やその時期に指導することが最も効果的であると考えられるもの。

② 学校教育目標や学年の重点目標から，重点的に必要なもの。

③ 個別の指導よりも，全員を対象に指導する必要があるもの。

④ 実践にむすびつき，児童の生活を変容をさせるねらいをもつもの。

※ 教科など他領域における指導や，朝の会や帰りの会の時間で指導でき得ると判断できるものは，なるべくそれらの時間内において解決を図るようにする。更に，前年度の指導記録や反省も，内容精選の大切なよりどころになる。

精選の観点は以上のように考えられるが，最も大切なことは，児童の実態を把握することであろう。日常，担任教師が児童とともに生活する中で，児童が当面している問題や不適応の状態を起こしていることに気がつくものである。実態調査や質問紙法など児童の実態把握の方法は数々考えられるが，児童が気軽に担任教師に話しかけられるような好ましい人間関係が育てられている学校では，児童のわずかな変容も見逃がさずに，その場に応じた，その児童なりの援助がさしのべられる。一つの例として，清掃の指導なども教師もともに活動する中で，少しずつ指導していくことが望ましい。このような，日常の教育実践が積み上げられている学校や学級では，学級指導の指導内容の精選も比較的容易にしかも自信をもって行えるものと考える。

コラム４　特活の時間設定

研究会でのある教師のつぶやき……私の学校では，水曜日の５時間目を特活の時間として設定してある。しかし，行事や研究会などでつぶれることが多く，学級会活動も学級指導も年間通してみると，わずかな時間しかとれていない。転任したばかりなので，まだあまり発言できないでいるが，来年度の教育課程の編成の時には考えなければならない。

―― 口では，特活の重要性を述べる人は多いが，まだ，こんな学校も多いのでは――

3. 学級指導の指導計画

(1) 指導内容の分類

学級は，学校教育目標を実現するための最も基本となる単位集団である。この公式的な単位集団が真に学習し合う集団，生活し合う集団となるためには，学級担任教師の意図的な指導によらなければならない。そのためには何といっても学級における教師と児童，児童相互の温かな人間関係が育成されることが肝要である。その中心的な教育活動が学級指導であると言える。いわゆる学級経営のはたらきの中で，その人間関係の調整と育成を中心にし，直接に児童を対象として心身の健全な発達を促すための授業が，学級指導である，と言える。

こうして見てくると，学級指導の内容は，非常に広範囲なものであることが考えられよう。新しい学習指導要領ではその内容が，

(1) 学級生活や学校生活への適応に関する指導

(2) 保健・安全に関する指導

(3) 学校給食の指導，学校図書館の利用の指導など

となっている。この何れも，学級における好ましい人間関係の育成をめざし，児童の心身の健康・安全の保持増進，健全な生活態度の育成を直接的に指導するものである。さらに着目すべきは，指導要領の特別活動の「第3. 指導計画の作成と内容の取扱い」の「4」には，これらの内容については，「学校や学級の実態に応じて計画的に取り上げ指導するものとする。」と示されている。だから，各学校で内容を選択するにあたっては，学校の教育目標やその年度の指導の重点，地域や児童の実態をよくふまえた上で，内容を指導計画に位置づけていかなければならない。

私ども，都特活の学級指導部では，これらの視点に立って，実際に即し指導計画を作りつつある学校の実態などを参考にしながら，一応次のように，内容を分類してみた。

① 学級生活や学校生活への適応に関する指導

② 保健の指導

③ 安全の指導（生活安全・交通安全）

④ 学校給食の指導

⑤ 学校図書館の利用指導

⑥ 学校行事等の事前・事後の指導

⑦ その他　　長期休業前後の指導，清掃美化に関する指導

日常の具体的な性活に即して行われる道徳性の指導

日常生活における基本的な行動のあり方，個人が集団の中で自己を正しく生かしていくことなどは，特に適応に関する指導の中でおさえておきたいと思う。さらに，順応していくことだけではなく，積極的に個を開発し，学習集団・生活集団を作っていく活動をも含めて主題を設定していくことが，それぞれの学校に与えられた課題であろうと考える。

(2) 時間の設定

施行規則別表の標準授業時数によると，学級会とクラブの活動にそれぞれ年間約30時間ずつ充てていくとすると，学級指導に充当すべき時数は，

1年…4時間＋α，2，3年…5時間＋α，4，5，6年…10時間＋α，

となる。このα時間というのは，指導書の108頁にも示されているように，「指導を必要とする月，週に『学級指導の時間』を特設することになるが，そのための時数は，学年によって異なる。一般的に年間10～20単位時間程度と考えられよう。」とあり，最低必要限をα時間ずつ，従来と同じように工夫して生み出す必要があり，各教科の時数削減等による余裕時間の活用も考慮されなければならない。また$\frac{1}{2}$単位時間を必要とする主題については，週のある曜日の時間表の中に，その時間を位置づけておく工夫が考えられるであろう。例えば，朝会を行わない曜日の，第1時間目以前に$\frac{1}{2}$時間程度の「学級指導の時間」を設けることも可能であろう。各学校での創意と工夫が望まれるところである。

さらに，どの内容にどれ位の時間をあてるかは，各学校の実態にまかせられるが，一般的には，「適応に関する指導」については約30％，学校行事の事前・事後の指導に約15％，保健と安全にはそれぞれ約8～15％，給食には集中的に低学年に2～3時間（中・高学年では給食時間中に随時指導する）を当てる，などが考えられる。

(3) 指導計画作成上の留意点

学級指導が授業として実施される以上，指導計画は当然作成されなければならない。それには，地域の特性を生かし，学校・学級の実態を考慮し，発達段階に即した計画化が必要である。指導計画に掲げる項目としては指導内容を集約し，①ねらい，②内容（時間のとり方を含む），③指導上の留意事項，④評価，⑤資料，にわたって具体的に作成されなければならない。学年別の主題なども固定的に考えるのでなく，その学校・児童の実態に応じて一部変更して実施された場合には，次年度以降の年間指導主題についての一部手なおもし考慮するよう，弾力的に扱いたい。また1単位時間で実施するか$\frac{1}{2}$単位時間にするかも，その年々の実施の実態を見て決めていくようにする。

4. 指導計画の例

1. ねらい

学級における好ましい人間関係を育てるとともに，児童の心身の健康・安全の保持増進や健全な生活態度の育成を図る。

2. 指導内容

(1) 学級・学校への適応指導
(2) 保健・安全の指導
(3) 学校給食の指導
(4) 学校図書館の利用指導
(5) 学校行事等の事前・事後の指導
(6) その他の指導

3. 時間のとり方

(1) 特設時間　1単位時間を必要とするものは，学年・学級において教科・道徳などの時間との調整を図って設定する。(年間15～20時間程度)

(2) 固定時間　毎週土曜日の1校時開始前の20分間をあてる。

(3) 随時時間　やむをえない場合は，朝の会や帰りの会の時間を使ってもよい。また，1単位時間必要する場合は，学年で話し合って設定する。

4. 指導上の留意点

(1) 防災のための安全指導は，毎月行う避難訓練の日に近い固定時間，または当日朝行う。

(2) 学校給食の指導は，原則として給食の時間を活用する。

(3) 学校図書館の利用指導は，学年始めに特設時間を設けるが，あとは，教科の指導の中で機会をみて指導する。

(4) 網羅的にならないよう，学年で話し合って指導内容の精選を図る。

(5) 年間指導計画をもとに統一的な計画を立てて指導する。

(6) 他教科・領域との関連を図るとともに，学級指導の特質をふまえて指導にあたる。

(7) 偶発的・突発的に起こった問題は，予定された指導より優先して扱う。

(8) 即時性・即事性・即効性に基づき，指導時期に弾力性を持たせる。

(9) 基本的な指導過程の型　導入・問題点の意識化を図る。
展開・問題点の原因を調べる。その理由を追求する。
・問題点の解決策を出す。
終末・実践への意欲づけ
評価

第2学年　内容別指導計画

月	学級・学校への適応指導	保健・安全の指導	学校給食の指導
4	◎2年生になって ○日直のしごと	○じょうぶなからだ ○ひなんのし方 ○学校の行き帰り	○正しい給食
5	○休み時間の過ごし方	○からだの虫	
6	○雨の日のあそび ○水えいのきまり	○じょうぶな　は	
7	◎もうすぐ夏休み	○自転車ののり方	
9	◎楽しかった夏休み		○楽しい給食
10	○身のまわりをきれいに	○たいせつな目 ○ろうかの歩き方	
11	○学校の中でのあそび	○安全なあそび	
12	○2学期をふりかえって ◎もうすぐ冬休み	○ストーブが入ったら	
1	◎がんばろうね，3学期 ○学校へ見えたお客さま ○わすれもの	○かぜのよぼう	
2		○寒い日のあそび ○知らない人	
3	○この1年間をふりかえって ○もうすぐ春休み	○耳の日	○給食ありがとう

＜随時指導の例＞……（必要に応じてとり上げる場合があると予想されるもの）

適応　○学校のきまり　○あだな　○いじめっ子　○ノートの使い方　○友だちの良い点　○けんか　○家でのべん強　○遊んだあと　○ことばづかい　○児童調査など

保健・安全　○ゆうかい　○危険な所　○交通事故　○けがをしたら　○きちんとした身なり　○朝食ぬきなど

学校給食　○給食のじゅんび　○食べたあと　○手洗い　○楽しい会食など

◎は特に時間をかける　○は1単位時間　○は$\frac{1}{2}$単位時間

月	図書館利用の指導	学校行事の事前事後指導	その他の指導	時間
4		○入学式を前に ○朝会のある日	○そうじのしかた	特設のみ 4
5	○図書館のきまり	○もうすぐ　えんそく	○お祝いの日	1
6		○えんげき教室	○時間をたいせつに	1
7				2
9		○楽しいうんどう会 ○うんどう会のはんせい	○みんなできれいに	3
10	○読書しゅうかん			0
11		○校内展らん会 ○楽しい社会科見学		1
12				3
1				3
2	○ことし読んだ本			0
3			○さいごの大そうじ	2

（20時間）

図書館　○学級文庫

学校行事　○対面式　○祝日の前日指導　○創立記念日　○家庭訪問　○都民の日　○書きぞめ展　○連合音楽会など。

その他　○正しいテレビの見方　○おまつり　○おこづかいの使い方　○お年玉　○礼儀正しくなど。

第2学年月別指導計画（適応指導のみ）

月	主題	ねらい	指導内容
4	◎二年生になって	○進級の喜び，二年生という自覚をもって，仲よく学習する心構えをもたせる。	○二年生としての自覚 ・新入生のせわ　・助け合い ・責任 ○計画性をもった学習態度 ・新しい教室，教科書 ・新たな気持ちで学習の計画と準備 ○楽しい学校生活 ・協力，責任，明朗，きまり ○学年，学級のめあて ○学級のグループを作る
	○日直のしごと	○仕事の内容を理解させ，責任をもって努めようとする意欲をもたせる。	○仕事の内容と活動のし方 ・朝，休憩時，帰り ○責任もってすることの大切さの理解 ・責任と努力 ・日記の書き方，引さつぎ
5	○休み時間の過ごし方	○休憩時間を守り，じょうずに使うことができるようにさせる。	○じょうずな使い方 ・時間を守る　・安全で楽しい遊び方 ・みんなで仲よく遊ぶ方法
6	○雨の日のあそび	○雨の日の遊びについてみんなが楽しく過ごすための遊び方を工夫しようとする意欲を育てる。	○雨の日のよい遊び方 ○安全で仲よく遊ぶための工夫 ・みんなで遊びを考える ・楽しい遊びの紹介
	○水泳のきまり	○水泳のねらいがわかり，きまりを守って楽しく水泳ができるようにさせる。	○水泳のねらい ○プールに入る前 ○プールに入っている時 ○プールから出て ○事故防止のためのやくそく

月	主　題	ね　ら　い	指　導　内　容
7	◎もうすぐ夏休み	○一学期間の学校生活を反省し，夏休みのあるわけを知らせ，予定を立てて楽しい夏休みを過ごすようにさせる。	○一学期の反省 ・きまり　・めあて　・学習と生活 ○夏休みのあるわけ ○夏休みの計画 ・学習，あそび，手つだい，旅行 ○きまりある生活 ・生活表の活用　・健康第一
9	◎楽しかった夏休み	○夏休みの生活の反省をもとに，二学期への意欲を持たせる。	○夏休みの思い出発表 ○夏休みの反省 ・健康面，生活面，学習面 ○二学期への心構え ・楽しい学校生活　・めあて ・努力すること ○グループ作り ○当番を決める
	○友だちしらべ	○友だち調べを通して，相手の良さを認め合うようにさせる。	○友だち調べをする ○好かれる人，きらわれる人はどんな人か ○相手の良い所を認めるには
10	○身のまわりをきれいに	○自分の持ち物の整理・整とんに関心をもたせる。	○机の中の乱れている人の数の発表 ○だらしなく困った経験の発表 ○整理する ・道具箱，教科書とノート，学用品

㊟○　友だちしらべは随時指導になっているが，学年会で話し合って9月の計画の中に入れた。

○　10月の身のまわりをきれいには，9月下旬に運動会があるので時期的にも良いと思う。また，習慣化を要する主題は1回こっきりでなく，何回も取り上げてぜひ，習慣化を図りたい。

5. 適応に関する指導の実践例

2年生の指導事例

(1) 指導案　　11月　　1単位時間　　男21名　女19名　計40名

① 主　題　　机の中をきれいにしよう。

② 主題設定の理由

秋の運動会，学芸会と，2学期の大きな行事も終わって，これから落ち着いた学校生活をしていくためには，ひとりひとりの児童がどんなことに気をつけたらよいかをわからせたいと考えた。まず，身の回りの整理を学級全体の問題としてとり上げ，学級生活の向上をはかりたいと考え，設定した。

③ 指導のねらい

身の回りの整理整とんの必要なことがわかり，気持ちよく学習することができるようにさせる。

④ 指導計画

第1次　席の回りをきれいにしよう。　　第2次　机の中をきれいにしよう。

⑤ 本時の指導のねらい

机の中にある教科書や学用品を，進んで整理整とんしようとする意欲をもたせる。

⑥ 展　開

指導内容・学習活動	指導上の留意点	資　料
1. スライドを見て，自分達の学級の様子を話し合う。	○机の中やわきの荷物やロッカーの中の様子を見せ問題に気づかせる。	スライド レコード
2. 整理整とんの必要なわけを考える。・乱雑になった原因 ・整とんの必要なわけ	○教科書やノートなどがすぐ見つからない，破れ易い，あふれて机の下に落ちる等の体験を出させる。	
3. どうしたらじょうずに机の中に入れられるか，工夫する。	○道具箱の活用，教科書やノートの置き場所，重ね方を話し合わせる。	道具箱 TP（道具の模型）
4. 考えた通り，机の中を整理する。 5. ほかに気づいたことを話し合う。	○実際に机の中を整理させ，よく出来ている子をほめ合わせる。	

⑦ 評　価　机の中がきれいになったか。

(2) まとめ

① 授業の展開

○ 学級のどの子も楽しく生活できるように，気持ちのよい教室づくりを通して好ましい人間関係の育成をはかろうとする教師の意図が，「みんなのちえを出し合ってよい方法を決めたいと思います。」の発問にあらわれていた。整理の仕方の工夫として，道具箱のふたとのすき間を活用してものさしを入れたり，家に持ち帰る物をうまくまとめたりしている子が見られたが，学級全員に紹介されることなく終了した。子供なりの小さな工夫を認めることにより，さらに授業が盛り上がることと思われる。

○ じょうずな整理の仕方を，ＴＰシートの模型を使って子供が説明した。便利な方法をそれぞれに考え，おもしろかったが，重ねていくうちに模型の文字が読めなくなり，一部の子はわからなくなった様子であった。

○ 習慣形成は低学年のうちにという教師の姿勢が，授業の中ににじみ出ていた。

② 研究協議

○ 母親の手が離れる２年生に，この主題は適切であった。どの子にもよい習慣として定着させるために，家庭との協力や啓蒙，事後指導を合わせて行うことが大切である。

○ のり・三角定規など子供の持ち物は意外に多い。どこに置くのかを規定するのではなく，たくさんのやり方を出させる中で，自分に適した整理方法に気づかせていく。それが，好ましい人間関係の育成につながるであろう。

○ 机の中の整理整とんを「適応に関する指導」とすることは，慎重に考えたい。「机の中がきたなくなってしまうわけ」「きたないと困るわけ」の子供相互の話し合いの中から個々に解決に向かう過程を通して，望ましい集団形成とそれへの適応がなされると考えられる。環境美化の指導や保健指導などとの違いをおさえて実施するようにしたい。

③ 講　評

ア．指導計画は量から質への転換をはかりたい。基礎的基本的事項をおさえ，指導内容を精選し，年間計画にない問題が起きたとき計画化して指導する弾力性や，学習の適時性をおさえたものでなければならない。

イ．指導計画作成において，その主題は１回の取り扱いか継続かをはっきりさせる。本時の授業は発達段階からみて，ショート時間の中での反復指導がより効率的と考えられる。

ウ．適応に関する指導は，その範中である個人的適応・社会的適応・文化的適応に，積極的に個性を生かし集団生活を向上させる子供の努力がなされるように高めてほしい。

4年生の指導事例

(1) 指導案　　10月　　1単位時間　　男27名　女17名　計44名

① 主　題　　家庭での自由勉強

② 主題設定の理由

自分に適した内容を決めて家庭で勉強することの大切さを，学年当初に知らせ，実践させてきたが，未だに，漢字や計算練習ばかりくり返している子，何をやってよいかよく分からない子があり，個人差が開いてきた。そこで，テーマの選び方，学習事項の深め方，時間のとり方のうまい例を中心に児童相互に知らせ合うことにより，学級全体のレベルアップをはかりたそと考え，設定した。

③ 指導のねらい

よりよい家庭での自由勉強の内容や方法がわかり，自分に適した勉強が出来るようにさせる。

④ 展　開

指導内容・学習活動	指導上の留意点	資　料
1. 家庭で自由勉強をするときの様子を発表する。 ・うまくできたこと ・困ったこと	○今日の学習を思い出してみたらやることが決まった例，親にもほめられて嬉しかった例など，具体的に発表させる。	
2. 自由勉強ノートを見て，自分の傾向をつかむ。 ・教科　・内容　・時間	○教科や内容のかたよりと，自分の得手不得手とを関連づけて気づかせる。	自由勉強ノート
3. 自由勉強トップ賞をとった子供の勉強の内容や時間を話し合う。 ・よかった点 ・参考になった点	○トップ賞と，数人の子のノートをうつしたTPにより，それぞれに工夫し，努力している様子を感じとらせ，意欲を高めさせる。	自由勉強トップ賞の表 TP（ノートから）
4. これからの自由勉強の計画をノートに書く。 ・1週間見通した計画　・時間	○続けて実行出来る時間を各自自由に決め，好きな教科にかたよらないよう工夫させる。	

⑤ 評　価　自分に適した自由勉強を続けてやろうとする意欲が高まったか。

(2) 資　料

自由勉強トップ賞は　だれに　どんなことに				
国　語	社　会	算　数	理　科	そのほか
山田耕筰調べE子 主人公の性格S子 ローマ字しりとり　S男 短文作り　N男	深井戸といろいろな井戸　G子 水道の歴史 I男 ニュータウンの計画　W男	小数の自分で作った問題　D子 分数の図　I男 分数のひき算の説明　H男	小麦粉とでんぷんを熱して T子 カブト虫脱皮G男 月食　Y男 里芋のでんぷん　N子	日　記　M子 お月見調べ　K子 遠足で気づいたこと　I子 テストの反省 T男

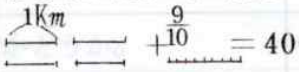
M子のノートの反省	
国語　33ページ	詩・あらすじ・漢字・感想文
算数　11ページ	文章問題・表や図を書く・計算
社会　2ページ	駅　・低地や台地
理科　2ページ	実験のまとめ・わかったこと
国語は大好きだからたくさんやった。社会や理科は得意でないから，自由勉強でやればよかった。	

H男のノートより

4Km90mは何Kmか。

4.9Km　4.90Km4.09Kmのどれが正しい？

4.90の0はいらないから，4.9か4.09のどちらかだ。図に表してみると，



＝4000＋900m

おや，4.9Km＝4900mになって－（略）

(3) 指導後の反省と考察

○ どの子供も苦労してやった経験をもっているので，活発な話し合いが展開された。自分が気づかなかった内容や，1さつやり終えた反省の例に目を開かれた子が多く，意欲は高まった様子である。これまでめったにやらなかったM男やT男S子の目にも，輝きが見られた。1単位時間とって指導したことは，適時性からみてもよかったと思われる。

○ 班日記に，本時の学習について書いている子が3人いた。機会をとらえ，その日記を紹介したり，トップ賞の表に多くの子がのるような配慮や，賞状を与えたりしながら，習慣化を図っていきたい。

コラム5 ―― 適応指導とは

自分と他人との関わりの中で，自己決定させていく問題と思う。そして，そのほかにも基本的行動様式に関するものが多くあろう。（都立教育研究所　時松茂親指導主事）

(1) 指導案　(6年)　11月　指導時間40分　児童数　男20名　女19名

① 主題　すかれる人・あまりすかれない人

② 主題設定の理由

児童間の好ましい人間関係を育てるために友愛や協力的な態度の育成をめざして，学級経営にあたっている。しかし，友達同士では，いやがらせの行為や偏見があり，いやな感情を露骨に表すことが多く問題である。このような児童の実態から，学級の全児童が，思いやりの心を持ち，差別なく，だれとでもなごやかに接し，明るい学級として卒業式を迎えさせたいと念願して設定した。

③ 本時のねらい

○すかれること・すかれないことに，どんな条件があるかを考えさせ，児童一人一人が，自己を省みて生活させるようにする。

○きらいな人に対して，いやがらせや，仲間はずれをしないようにさせる。

④ 展　開

指導過程	学習内容・学習指導	指導上の留意点	備　考
意　識　化	(1) いやがらせや，仲間はずれをされたときの気持ちはどうだったか。 ○ 作文を聞く ○ 心に思ったことを発表させる。	○ 日頃の友達関係に気づかせる。	資料 (1) 児童の作文
内容行動の理解	(2) クラスの友達を見て，すかれる人・あまりすかれない人は，どんな所や悪い所があるのだろうか。 ○ 話し合い	○ 各班ごとに，すかれる人・あまりすかれない人の条件を話し合わせる。	
	(3) すかれる条件を考えさせる。 ○ グラフを見て話し合い。	○ 班ごとに話し合ったことを比較しながら考えさせる。	資料 (2) グラフ

	(4) あまりすかれない人の条件を考えさせる。 ○ グラフを見ての話し合い		資料 (3) 自己評価表 (カード)
意 欲 化	(5) 自分の人間関係を反省し，自己の努力目標をたてさせる。 ○ 自己評価 ○ 自己の努力目標をたてて，発表し合う。 (6) まとめ ○ 教師が，意欲づけの話をする。	○ 自己の欠点をとらえさせる。 ○ 目標をあまり多くたてさせないようにする。 ○ 自分の目標を書いたたんざくを掲示させる。	資料 (4) たんざく

⑤ 評 価

○ 自己の言動を反省し，自己の目標に向かって努力する意欲が，みられるようになったか。

○ 児童の学習活動が，意欲的に活発に行われたかどうか。

(2) 指導の反省・考察

① 展開においては，欲ばりすぎて，指導内容が多すぎた。とくに，すかれる人の条件とすかれない人の条件をグラフで考えさせたが，これを省略して，グループで話し合ったことをもとにして，すかれる人・すかれない人の条件をまとめれば，もっと，意欲化の方に時間をかけることができた。

② 自己評価カードの利用は，子どもたちの反省資料として有効であったが，項目をもっと整理し，すかれる人の条件だけをとりあげればよかった。

③ 作文の利用は，児童の意識化をはかるのには，よかった。

④ 適応に関する指導は，道徳の授業と関係が深く，学級指導と道徳指導との違いが不明瞭になりがちである。しかし，集団活動であり実践活動である特別活動の特質から，また，即効性といわれる学級指導の面から，授業の展開を考え区別するように努力した。

⑤ 好ましい人間関係を育てるために，主題を設定し授業を行ったが，その後の指導がなければ，効果があがらない。研究授業で行った個人のそれぞれの目標について，朝の会や帰りの会で反省したことが効果的であった。

5. 研究の反省と今後の課題

昭和51年から適応に関する指導をとりあげ，本年度で3年目である。今年は，「好ましい人間関係を育てる適応に関する指導のあり方」を研究主題として，取り組んできた。そして，① 適応に関する指導内容の分類，②，学校の実態に応じた指導計画作成上の留意点，③，指導上の工夫など，とりあげた。

適応に関する指導内容については，意識調査したものや講師の指導などを基にして，共通理解を図ることができた。指導計画作成上の留意点については，はきだめ特別活動にならないためにも，精選が必要であり，精選の観点などをとりあげた。指導計画の型については，一応，研究部としての考えが固まった。適応に関する指導内容はどこの学校でも多過ぎて，指導計画を作成するのに教師を悩ましているのが現状であろうが，その学校の実態にもとづいて，思いきった精選が大切であろう。適応に関する指導の実践事例や，話し合いや研究授業などによって，適応に関する指導の方向や内容が，およそ明らかになったことは大きな収穫であった。

今後の研究課題は，たくさん残されているが，その中でも，指導計画の作成について，もっと指導内容を固めていかなければならない。そのためには，やはり，実践を通して行っていくことが大切である。これからは，実践を通して，主題ごとの展開例を多く集収して，現場の先生方が日々の授業の中に取り入れていけるような指導計画にしていきたい。また，学年ごとに内容ごとに，1単位時間を必要とするもの，$\frac{1}{2}$単位時間でよいものなどを区別してとりあげていきたい。$\frac{1}{2}$単位時間の学級指導は，週1回，曜日を決めて時間割表に位置づけ，始業前や，放課後などに指導していきたいものである。

昭和54年度は，新教育課程実施に向けての移行の2年目である。どこの学校でも，新しい学習指導要領に基づいた新教育課程を編成する準備が必要である。学級指導の指導計画も，他教科・道徳などの関連をふまえ作成しなければならない。これからも，多くの先生方のご指導ご協力をお願いし，研究を深めていきたい。

おわりに

学級指導研究部の幹事の先生方は，それぞれの学校や各区各市で要職にある人が多く多忙な日々を過ごしているにもかかわらず，本研究会に参加されたことに感謝しています。次に，新宿区立東戸山小学校の冨田嘉子先生には，研究授業を公開いただき，厚く御礼申し上げます。また，その時の講師として，岡本孝司先生をお願いしましたが，適切なご指導をいただき，われわれの研究を更に深めることができましたことを重ねて御礼申しあげます。

参考資料　新学習指導要領の要点・移行措置等

1. 改訂の要旨

今回の教育課程の改訂において，特別活動は，「基本的な性格は現行どおりとするが，その活動については，学校の創意を生かし，一層の充実が図られるようにする」という，教育課程審議会の答申に基づき，特に小・中学校間の一貫性を，十分に図るねらいで改善が行われたことは周知のとおりである。その際に，勤労にかかわる体験的な学習の必要性を配慮し，同時に，学習指導要領全体を簡素化するという方針に従い，基準的な事項に留め，配慮的な事項を指導書に移すという改訂が行われたのである。

結果的には，小・中学校間の一貫性が密接に図られ，「目標」，「内容」，「指導計画の作成と内容の取扱い」のすべてにわたり，義務教育9か年を通じて，発展的な活動が期待できるようになった。

主な改訂点は次のとおりである。

(1) 目標が総括的な目標だけとなり，小・中学校が全く同じ目標を掲げることとなった。

(2) 内容としての各活動の配列順を変更し，小・中学校間の違いが是正された。

(3) 学校行事の行事種類に，新しく「勤労・生産的行事」が加えられた。

(4) 学級指導の内容が三つの事項にまとめられ，小・中学校間の一貫性が図られた。

(5) 「君が代」が，「国歌」と改められた。

以上が主な改訂点であるが，更に特別活動の授業時数が，施行規則の別表1に，はっきり示されることになった。

(1) 目標の改訂点

現行指導要領	新指導要領
望ましい集団活動を通して，心身の調和的な発達を図るとともに，個性を伸長し，協力してよりよい生活を築こうとする実践的態度を育てる。	望ましい集団活動を通して，心身の調和のとれた発達を図り，個性を伸長するとともに，集団の一員としての自覚を深め，協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。

現行の学習指導要領では，特別活動の総括的な目標のほかに児童活動，学校行事，学級指導のそれぞれに目標が示されていたが，今回は，総括的な目標だけとし，それぞれの内容的目標は，指導書に移すことになった。

表現の言葉が変わり，新しく付加された部分は，従来児童活動の目標の中に表現されていたことで，それらが総括的な目標に移されたと考えてよい。

(2) 内容の改訂点

A．児童活動

児童活動については，現行の「内容の取り扱い」をほとんど指導書に移し，文章表現上の多少の改善が行われただけといえるが，小・中・高校間の配列の統一が図られ小学校の学級会活動と児童会活動の入れかえが行われた。

（小学校）	（中学校）	（高　校）
学級会活動 →	学級会活動 →	ホームルーム
児童会活動 →	生徒会活動 →	生徒会活動
クラブ活動 →	クラブ活動 →	クラブ活動
学校行事 →	学校行事 →	学校行事
学級指導 →	学級指導	

B．学校行事

学校行事については，これまでの行事種類を整理する。（儀式 → 儀式的，保健体育的 → 体育的，遠足的 → 遠足・旅行的，安全指導的 → 保健・安全的）と同時に，「勤労生産的行事」を新設して，小・中・高の一貫性が図られた。そして，行事の目標や例示を削除し，行事種類ごとに，それぞれの趣旨が簡単に付記されることになった。

なお，現行の「内容の取り扱い」で，「国民の祝日などにおいて，儀式などを行なう場合には……」を，「指導計画の作成と内容の取り扱い」に移し，文中の「君が代」が「国歌」と改められた。これは，「君が代」が，わが国の国歌であることが，国内的にも国際的にも定着してきたことに基づき，その性格を明確にするために行われた改訂である。

C．学級指導

学級指導についても，現行の内容・性格をそのまま受け継いでいるが，中学校との関連を考慮して，これまでの例示を2つにまとめるとともに，新しく「学級生活や学校生活への適応に関する指導」が加えられ，3つの事項として内容が示されることになった。

(1) 学級・学校生活への適応に関すること。

(2) 保健・安全に関すること。

(3) 学校給食の指導，学校図書館の利用指導など。

なお，現行の学習指導要領では，学習指導の内容は，「適宜行なうものとする」とされていたのであるが，新学習指導要領では，学校や学級の実態に応じて，計画的に取りあげればよいこととされている。

(3) 授業時数

今回の学校教育法施行規則の一部改正により，「特活の時間」が，はじめて示されたが，学級会活動，クラブ活動，学級指導についてだけである。

しかし，特別活動の時間については，児童生徒の人格形成上，重要な役割を果たすので，

第1学年	34単位時間
第2・3学年	35単位時間
第4・5・6学年	70単位時間

特に，各教科の授業時数の削減により生じた時間の活用なども考慮しながら，その一層の充実を図ることが必要である。と，教育課程審議会の答申にも出ている。

そこで，標準の授業時数だけでは十分な活動を期待することは困難であり，特に学級指導のための時数を工夫して加える配慮が必要と考えられる。

したがって現実の姿から時間を割り出してみると，右表のようになる。

これはあくまでも参考事例で，各学校では，児童の実態や学校の実情によって，適切に，年間の授業時数を配当することが望ましい。

※特別活動の年間授業時数

内容＼学年	1	2	3	4	5	6
学級会活動	34	35	35	35	35	35
児童会活動					12～24	
クラブ活動				35	35	35
学校行事	90 ～ 120					
学級指導	10～20 ＋ 20分×α					

2. 指導計画

(1) 全体計画

特別活動の全体計画については，現行の指導書で，「全体計画が作成されることによって，教育課程の全体がいっそう円滑に，調和と統一が保たれて実施できるようになる。その条件として，①発達段階に即すること，②地域や学校の実態に即すること，③他領域との関連を図ること，④内容の相互関連を図ること，⑤授業時数が適切に配当されること，などがあげられている。

しかし，全体計画がどのような形式をとり，どのような項目を立てることが適切であるかについては，触れていない。これは，全体計画といっても，骨組みだけのもの詳細なものなど，さまざまなものが考えられ，しかも，児童活動，学校行事，学級指導それぞれの指導計画が，どの程度まで作成されるかということと深く関係するものであるから，各学校の工夫に任せたものと考える。

そこで，今回の改訂に当り，一般的な全体計画の要点をあげると次のとおり考えられる。

① 自校の特別活動の目標
② 特別活動の内容，組織
③ 特別活動の時間配当
④ 特別活動の指導体制
⑤ 特別活動指導上の基本的な留意事項

このような全体計画に続いて，児童活動の指導計画，学校行事の指導計画，学級指導の指導計画が，作成されることとなろう。

(2) 他領域との関連

特別活動と他の領域との関連を考えてみると，望ましい集団の活動を特質とする特別活動の実践場面において，各教科，道徳での学習経験が，児童の活動に生き生きと反映されてくることが期待される。また，特別活動における活動の経験が，各教科の学習や道徳の学習への動機づけとなったり，意欲を育てたり，より刺激を与えることにもなろう。

児童活動のクラブや委員会活動が，教科と深く関連を図りながら，児童活動の本質と特質を失うことのないよう配慮していかなければならない。また，道徳の時間に育てられた心情や判断力は，特別活動における具体的な活動場面において生かされ，その活動を支えることになる。

3. 特別活動の移行措置

東京都の，「教育課程移行措置要領」によると，「移行期間中，新指導要領によることができるとされる教科等については，児童生徒の実態等を考慮して，できるだけそれによるように努めること」となっている。

そこで特別活動をみると，「従来の基本的な性格を受け継ぎ，ほとんど変化なく，活動に当っては各学校の創意工夫を生かす」ものであるから，移行期間といえども直ちに，新指導要領の趣旨に沿って，進んでよいのである。

しかしながら，教育課程全体の中で，特別活動の持つ問題点も多々あるので，要点をあげてみると，およそ次の通りである。

(1) 移行措置の方針

ア．特別活動の目標は，小・中学校の一貫性を考え，その意義を一層明確にすること。

イ．主として第4学年以上のクラブ活動を，未実施の学校にあっては，実施のための検討を行うこと。

ウ．新しく加えられた，「勤労・生産的行事」について，学校行事の内容を十分検討すると同時に精選し，創意工夫を加えること。

エ．学級指導に対する学校や学級の実態を十分にふまえ，指導計画の内容を再検討する。

(2) 指導計画の作成と内容の取り扱い

ア．「勤労・生産的行事」の計画と実施に当っては，その趣旨を生かして，創意工夫し，充実をはかる。

イ．「学級生活や学校生活への適応に関する指導」は，日常の生活の指導との関連を図る。

ウ．移行期間中の授業時数については，各学校の実践を生かし，適切に配当すること。

昭和53年度

東京都小学校特別活動研究会　役員・本部幹事・理事名簿

―役　員―

会　長	白井健二	千代田・今川小長
副会長	久納六郎	練　馬・富士見台小長
〃	小島　明	江戸川・下小岩小長
〃	小谷　威	中　央・佃島小長
庶務部長	佐藤　弘	文　京・誠之小長
同副部長	石川和男	文　京・柳町小頭
会計部長	中田英義	千代田・永田町小長
同副部長	竹石善一	文　京・林町小頭
専門部長	外村　近	港　・本村小頭
同副部長	岩下紀夫	世田谷・桜　小
〃	岩国敏明	八王子・第七小頭
学級会部長	深瀬四郎	港　・麻布小
児童会部長	渡辺　寿	練　馬・開進三小
クラブ活動部長	小川国寿	港　・桜川小
学級指導部長	安岡正凱	練　馬・光和小
事業部長	広瀬英二	北　・滝野川四小長
同副部長	島田泰介	町　田・南第二小頭
〃	松野彰夫	板　橋・志村一小
編集部長	峰田　渉	足　立・竹之塚北小頭
〃	合原　渡	板　橋・成増が丘小
会計監査	大西　弘	墨　田・二葉小長
〃	古橋　宏	江戸川・第二葛西小長

―本部幹事―

庶　務	嶋根弘子	板　橋・三国小
〃	池田令子	文　京・千駄木小
〃	大井千鶴子	文　京・駒本小
〃	武田茂子	文　京・誠之小
〃	野々村勝男	文　京・柳町小
〃	吉仲ミチ子	千代田・九段小
〃	池田　蔟	北　・岩渕第四小
会　計	蛸井　聡	港　・白金小
〃	平林みつ子	中　央・佃島小
〃	松元美徳	千代田・今川小
事　業	木場住郎	世田谷・多聞小
広　報	桜井　博	世田谷・赤堤小
〃	小林繁人	新　宿・落合三小

―理　事―

千代田区	石井善一	佐久間小長
中央区	星野武之	月一小長
港　区	長沼　宏	桜小長
新宿区	尾上庄三	落四小
文京区	野々村勝男	柳町小
台東区	高橋之子	小島小長
墨田区	中山順子	柳島小
江東区	早坂　一	数矢小頭
品川区	小牧好男	旗台小
目黒区	山田一夫	東根小長
大田区	広江信夫	糀谷小頭
世田谷区	安元百合子	喜多見小長
渋谷区	大谷徹夫	神宮前小
中野区	福良幹夫	鷺宮小
杉並区	並木佳世子	永福小
豊島区	入江　実	池二小長
北　区	松崎　繁	豊川小
荒川区	福田澄雄	赤土小
板橋区	笠井光夫	成増小
練馬区	沼田定次	南町小長
足立区	仲泊兼盛	江北小長
葛飾区	前田昭義	飯塚小
江戸川区	小河一久	篠崎第三小長
八王子市	吉田守秀	鹿島小
立川市	水野　稔	大山小
武蔵野市	金子すみ子	境南小
三鷹市	佐藤治子	大沢台小
青梅市	村山美春	新町小頭
府中市	塚本貞男	南白糸台小
昭島市	家田哲夫	東　小
調布市	岸　汎	杉森小長
町田市	仁保義和	小川小長
小金井市	吹毛井啓一	第四小頭
小平市	三枝美朗	第八小長
日野市	平松健太郎	第三小長
東村山市	渡辺喜盛	久米川小
国分寺市	守屋博行	第七小頭
国立市	渕上主作	第一小頭
田無市	増沢喜美夫	西原小頭
保谷市	木村由房	栄小頭
狛江市	山中忠雄	第二小
東大和市	水谷佐和子	第一小
清瀬市	内藤滋雄	第九小長
東久留米市	安田康隆	第八小
武蔵村山市	神座康夫	第一小頭
多摩市	布施篤美	蓮光寺小長
稲城市	佐久間英明	第八小
西多摩秋川市	須山新太郎	羽村町立松林小長
大　島	柳沢　弘	岡田小

編　集　後　記

日本の戦後の教育において，第三の教育改革といわれる今次の新教育課程と新指導要領の実施が目前に迫った。本年度は移行２年めに当たり，教育界では各種の研究会が昨年度に引き続いて各地で開かれ，熱心な教師の参加により，多くの会場が盛況だったようである。

都特活では，テーマを現今の教育情勢に即応して昨年度から「楽しく充実した学校生活をめざす特別活動」── 新教育課程をふまえて ── を掲げて，研究を進めてきた。

各研究部は，昨年度の研究の成果をふまえ，各内容の本質や特性の再検討をさらに進め，豊かな人間形成をめざす特別活動のあり方を求めて，研究をしてきた。都内の各地域から熱心に集まってくる幹事は，特別活動についての経験豊かな教師，推進役を果たしている教師，これから特別活動に取り組もうとする新進気鋭の教師など，年齢・経験ともに変化に富み，研究内容・方法の調整も難しさのある現状に変わりはない。しかし，全ての教師が特活を愛し，特活の前進に寄与しようとする情熱の持ち主である。このため，研究の成果も各学校の苦労の多い実践からスマートなものまで，広範多岐に亘っている。それだけに，この集録をよく読むことによって，各学校の実践化のために参考となる内容もあるものと確信している。

本年度も，編集に当たって２つの試みを工夫した。第一は，新指導要領に示された「特別活動の解説」と移行措置についての方向性を打ち出すこと。第二は，新教育課程の本格的な実施へ向けて，特別活動の展望として「新春，特活を大いに語る」座談会の概要を掲載することであった。移行措置後半に当たる５４年度のスタートを目前にして，今日的な課題や指導上の示唆など，豊富な話題を提供することができたと考える。さらに，研究部によってはカコミらんを設けた。東京都の特別活動の充実発展のための参考資料となれば幸いである。

新しい角度からの特別活動の見直し，ゆとりの時間の活用など，多くの課題が残されている。多くの指導者や先輩の方々，関心の深い方々のご批評・ご指導がいただければ，研究はさらに深まることと感謝する次第である。各研究部幹事会に参加された先生方，この研究集録の原稿執筆者，ご指導いただいた先生方に深謝するとともに，適切なご批評を乞いたいと願っている。

（外　村）

研究集録　第１５集

楽しく充実した学校生活をめざす
特別活動

印　刷　昭和５４年２月２５日
発　行　昭和５４年３月　２日
編　集　東京都小学校特別活動研究会
発　行　会長　白　井　健　二
千代田区岩本町２－１５－１４
今川小学校内

印刷所　株式会社　三　誠　社
代表取締役　茂呂　弥兵衛
文京区本郷２－１１－５
ＴＥＬ 812－0241・811－2062